

○海軍省達第七十八號

海軍上長官士官任用進級取扱規則別表鎮守府所管參謀長ノ下兵事官ヲ削ル

明治四十三年六月六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第七十九號

海軍武官文官考課表規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月六日

海軍大臣 男爵齋藤實

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 考課表調製期ニ於テ被考課官中兼職ヲ有スル者アルトキハ兼職ニ對スル調製官ハ所見ヲ本職ニ對スル調製官ニ通報スルモノトス此場合ニ於テハ本職ニ對スル調製官ハ之ヲ定期ノ考課表ニ添附スヘシ但調製期ニ接近シ所屬ニ異動ヲ生シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス別表第二號鎮守府ノ部參謀長ノ下兵事官ヲ削リ工廠ノ前ニ左ノ一欄ヲ加フ

人事部

人事部長	上長官 士官
同指定ノ高等武官	兵曹長、同相當官、准士官、下士

別表第三號鎮守府ノ部ヲ左ノ通改ム

鎮守府 幕僚	參謀長指定ノ高等官
人事 部	部長指定ノ高等官

○海軍省達第八十號

兵器造修試驗檢査規則中左ノ通改正追加ス

明治四十三年六月六日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十四條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠ニ於テ新ニ砲類ヲ製造シタルトキハ陸上ニ於テ左ノ方法ニ依リ試射シ第一號表ニ依リ其ノ成績ヲ艦政本部長ニ報告スヘシ但シ強裝藥ノ外ハ必要ニ應シ適宜増減スルコトヲ得

一 砲身砲架若ハ砲身ノミヲ領收スル場合

空放一發 減裝藥一發

常裝藥四發 強裝藥二發

二 砲架ノミヲ領收スル場合

空放一發 減裝藥一發

常裝藥一發 強裝藥二發

前項第一號ノ場合ニ在リテハ減裝藥ニ付テハ其ノ標準初速、常裝藥ニ付テハ其ノ標準初速及壓力ヲ得ルヤ否ヤヲ檢シ且砲ノ跳起角ヲ測定シ第二號ノ場合ニ在リテハ減裝藥及常裝藥トモ單ニ壓力ノ測定ヲ爲スモノトス

強裝藥ニ付テハ左記強裝藥標準壓力ヲ生セシメ以テ砲、砲架及諸機部ノ耐力ヲ檢スルモノトス但シ第一號ノ場合ニ在リテハ併セテ初速ノ檢測ヲ行フヘシ

砲種	標準壓力	強裝藥標準壓力
十二吋	一七〇	二〇〇
十吋	一七七	二〇〇
八吋	一七七	二〇〇
六吋	一七〇	二〇〇
四吋	一五〇	一八〇

長 三 吋	一五	一七
短 三 吋	一四	一六
六 吋 以 下	一三	一五

以上標準壓力ハ必要ニ應シ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ在ツテハ艦政本部長ヲシテ特ニ通知セシム

第十五條 海軍工廠海軍造兵廠若ハ海軍修理工場ニ於テ魚形水雷ヲ新造改造大修理ヲ爲シタルトキハ明治四十一年内令兵第三號保式魚形水雷命中發射規則ニ準シテ試射シ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十六條 第一項中「藥發及氣發」トアルヲ「藥發若ハ氣發」ト改メ末尾ノ「各二回宛」トアルヲ「一回但シ藥發氣發兼用ノモノハ兩種ノ發射ヲ各一回」ト改ム

第二項但書以下ヲ左ノ如ク改正追加ス

「但シ聯裝ノモノハ一回ハ同時ニ發射スルヲ要ス又藥發氣發兼用ノモノハ兩種ノ發射ヲ各一回」

第三項「藥發」トアルヲ「藥發若ハ氣發」ト改ム

第二十條 水雷發射管ノ公試ハ其ノ据付改造若ハ大修理竣工シタル場合ニ於テ諸種ノ速力ヲ以テ發射シ其ノ作働ノ如何ヲ檢スルモノトス

第二十八條 砲類ノ公試發射ヲ行フ際ニハ豫メ艦員ヲ戰團部署ニ就カシメ置キ戰團中必然占ムヘキ位置ニ於ケル「ブラスト」ノ影響ヲ調査シ又照準裝置、經線儀、距離計、距離測定儀、迴轉計等ノ如キ銳敏精緻ナル器具ノ調整ニ變動ヲ生スルコトナキヤ否ヤヲ檢シ其ノ狀況ヲ詳ニ報告スヘシ但シ委員長ニ於テ明ニ危險ナリト認メタル位置ニハ配員セサルコトヲ得ルモ尙適當ナル手段ニ依リ其ノ位置ニ於ケル「ブラスト」ノ影響ヲ判知スルニ努メ其ノ狀況ヲ報告スルヲ要ス

第二十九條 自然通風全力ヲ「標準全速力」ト改ム

第三十條 次ニ左ノ一項ヲ加フ

艦載水雷艇ノ落射機ハ公試中便宜ノ時機ニ於テ其ノ動作ヲ試驗スヘシ

第三十二條 中第二號甲乙表式ヲ「第二號表式」ニ改ム

第三十五條 次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十五條ノ二 魚形水雷及附屬機ノ檢査ハ明治三十四年内令第四百一十一號保式魚形水雷及附屬機保存取扱法ニ準シテ檢査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第三十六條 艦隊等ニ供用中ナル彈藥並火工品類ハ別ニ規程アルモノハ之ニ依リ又別ニ規程ナキモノニ在リテハ毎年一回其ノ全數ノ百分ノ一(百箇未満ナルトキハ其ノ内一箇)ヲ擇出シテ其ノ試驗檢査ヲ海軍工廠長、海軍造兵廠長若ハ檢査ノ設備アル要港部修理工場主管ニ要求スヘシ但シ必要ニ依リ其ノ數ヲ増減スルコトヲ得

第三十七條 海軍工廠長、海軍造兵廠長若ハ要港部修理工場主管前條ノ要求ヲ受ケタルトキハ試驗檢査ヲ施行シ其ノ成績表ヲ五號表式ニ依リ三通ヲ作成シ一通ヲ鎮守府ヲ經テ海軍艦政本部長ニ提出シ一通ヲ試驗要求元ニ交附シ一通ヲ保管シ置クヘシ

第三十八條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠在庫ノ彈藥並火工品類ノ試驗檢査ハ前二條ニ準據シ之ヲ執行スヘシ

成績表改正

第二號表式ヲ別表ノ通改ム(別表略ス)

○海軍省達第八十一號

明治四十二年達第二十六號海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則中左ノ通り改正ス

海軍大臣 男 齋藤實

第三十條中「出納所」次ニ「廊下」ノ二字ヲ加フ  
 第三十二條中「前房」ノ次ニ「廊下」ノ二字ヲ加フ  
 第四十三條中「各邊一寸ツ、ニシテ角線一分ツ、切り落シタルモノ」ノ次ニ「若ハ方形(厚サ約一寸幅約一寸七分)ノ十五字ヲ加フ」

○海軍省達第八十二號  
 查問規則第二十二條中「規定外ニ於テ」ヲ「規定ニ拘ハラス」ニ改ム  
 明治四十三年六月十四日  
 海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

海軍省達第六十六號查問規則(明治三十四年十二月四日)抄録  
 第二十二條 海軍大臣ハ第一條ノ規定外ニ於テ查問ノ必要ヲ認ムルトキハ前附條ニ準據シ查問委員會ヲ組織シ之ヲ調査セシムルコトアルヘシ

○海軍省達第八十三號  
 海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

明治四十三年六月十六日  
 第三十三條ノ二 兵備品出納命令官ハ毎月一回所屬兵備品會計官吏ノ現ニ保管スル兵備品ノ一部ヲ検査シ其ノ狀況ヲ會計監督ノ任アル經理部長ニ報告スヘシ  
 經理部長ハ四月及十月末日マテニ前六箇月間ノ前項報告ノ概要ヲ經理局長ニ報告スヘシ  
 別表中艦營用品ノ欄敷設隊分隊長ノ下(一人)ヲ削ル  
 同上中港灣防禦用品艦船繫留用品ノ部ヲ左ノ通改正ス

港灣防禦用品	港務部長	港務部主計長	知港事所屬准士官
艦船繫留用品			

同上備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鎮守府幕僚、望樓監督官、人事部、經理部、工廠、軍法會議ニ於ケル被服、糧食ノ分任兵備品會計官吏又ハ兵備品取扱主任ハ經理部ノ判任官以上ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

同上備考第四項中敷設隊ニ於ケル分隊長ノ下「一人」ヲ削ル  
 同上備考ニ左ノ一項ヲ加フ

知港事所屬准士官タル分任兵備品會計官吏ハ知港事命免シ所屬兵備品會計官吏ニ報告スヘシ  
 ○海軍省達第八十四號

艦船造修試驗検査規則中左ノ通改正ス  
 明治四十三年六月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實  
 第七十一條中「之ヲ執行セシムヘシ」ノ下ニ「又必要ニ際シテハ麾下下士卒ヲシテ公試運轉ニ從事セシムルコトヲ得但シ其ノ員數ハ該艦艇ノ乘員ヲ合ヤ其ノ全定員ノ範圍内ニ限ル」ヲ加フ

○海軍省達第八十五號  
 明治四十年達第十八號判任官以下宿直共ノ他ノ場合ニ給スル食料別表中「十二錢」ヲ「十五錢」ニシテ「十二錢」ニ改ム

明治四十三年六月十六日  
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第八十六號  
 海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月十八日  
 海軍大臣 男爵齋藤實  
 第九條ノ三 造兵廠、工廠、修理工場、探炭所及煉炭製造所ニ勤務スル准士官以上ハ其ノ執務中夏服着用ノ場合ニ茶褐色ノモノヲ用フルコトヲ得

○海軍省達第八十七號  
停年計算規則左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

停年計算規則

第一條 左ニ記載スル期間ハ實役停年ニ算入シ其ノ計算ハ高等武官ニ在リテハ任官又ハ進級宣旨ノ日ヨリ、准士官及下士ニ在リテハ任官又ハ進級辭令ノ日ヨリ、卒ニ在リテハ其ノ等級ヲ命セラレタル日ヨリ起算ス

一 在職及修學中ノ日數

二 待命中及補缺員タル間ノ日數

三 前二號ノ外特ニ命ヲ受ケ服務スル日數

第二條 左ニ記載スル期間ハ其ノ事項發生又ハ辭令ノ日ヨリ解除又ハ其ノ辭令ノ前日マテ海上勤務ニ算入ス

一 職員トシテ又ハ特ニ命ヲ受ケ艦船雜役船并其ノ他官ニ於テ使役スル船舶ニ乗組中ノ日數ヲ除ク

二 水雷團條例、要港部條例ニ依リ驅逐隊、艇隊、潜水艇隊、水雷母艦、驅逐艦、水雷艇又ハ潜水艇ニ配員セラレタル日數

三 外國ニ於テ新造スル艦艇ノ回航ヲ命セラレタルトキハ其ノ艦艇受領後ノ日數

四 戰時又ハ事變ニ際シ艦船内ニ設置セラレタル特設部隊ニ勤務中ノ日數

第三條 實役停年及海上勤務ニ算入セサル期間ハ海軍高等武官進級條例、海軍准士官下士任用進級條例及海軍卒進級規則ノ規定ニ依リ其ノ事項發生又ハ辭令ノ日ヨリ解除又ハ其ノ辭令ノ前日マテトス

第四條 期間ノ計算ハ曆ニ從フ

月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ満了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満期日トス

第五條 端日數ハ三十日ヲ以テ一月ニ算シ端月數ハ十二月ヲ以テ一年ニ算ス

第六條 海上勤務、陸上勤務ノ改算ハ各其ノ累計ニ於テ計算シ日ノ端數ハ四捨五入ス

第七條 本則ハ海軍軍人任官又ハ進級其ノ他ノ停年計算ニ適用ス

附則

本則ハ本則施行以後停年ヲ計算スルニ當リ其ノ起算期ニ遡リ之ヲ適用ス

○海軍省達第八十八號

明治三十二年達第七號ヲ廢ス

明治四十三年六月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治三十二年一月十海軍省達第七號ハ第二條艦艇ノ回航ヲ命セラレタルトキ其ノ乘員ヲ人事課ニ報告ノ件ナリ

○海軍省達第八十九號

兵器經理規程中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十六條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ追加ス

兵器實驗調査ノ爲調査委員長新製兵器ノ供給ヲ要スル場合ニハ理由ヲ具シ海軍艦政本部長ニ請求スヘシ

鎮守府其ノ他ニシテ實驗調査ノ訓令ヲ受ケタル場合亦前項ニ準ス

第二十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

兵器實驗調查委員長及其ノ他ニ於テ實驗調查事項結了セハ現存兵器中新製供給ヲ受ケタル兵器ノ員數、完否及所在明細書ヲ編製シ海軍艦政本部長ニ報告スルト同時ニ最寄工廠若ハ造兵廠ニ現品ヲ還納スヘシ海軍艦政本部長ハ還納兵器中將來參考トナルヘキモノ或ハ一般補給用兵器トシテ供用シ得ラル、モノ等ヲ定メ工廠長若ハ造兵廠長ヲシテ之ヲ整理セシムヘシ

○海軍省達第九十號  
軍事費演習費支出規程左ノ通り改正ス

明治四十三年六月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

軍事費演習費支出規程

- 第一條 左ニ掲クル事項ハ軍事費演習費支辨ノ費途トス
  - 一 海軍演習規則ニ依ル定期演習及小演習
  - 二 艦砲射擊規則、野砲小銃及拳銃射擊規則、魚形水雷發射規則ニ依ル砲銃射擊水雷發射ノ類
  - 三 海軍各學校ノ規定及少尉候補生實務練習規則ニ依ル砲銃射擊、水雷發射及諸演習ノ類
  - 四 演習行軍ノ爲軍隊學生、候補生、生徒派遣ノ類
- 第二條 前條ノ各事項中演習費支辨ノ費途ニ屬スル概目ハ左ノ如シ
  - 一 召集中ノ豫備役後備役准士官以上、下士卒及歸休下士、歸休兵ノ諸給與並之ニ供給スヘキ糧食品ノ購買費
  - 二 前項下士卒ニ交付シタル被服還納ノ際ニ要スル修補費
  - 三 演習ノ爲特ニ使用スル物品費
  - 四 通信運搬費
  - 五 演習ノ爲特ニ假設スヘキ家屋營造物(演習終了後引續キ存置ス)ノ材料費
  - 六 田畑林苑若ハ垣柵其ノ他物件ノ損害ニシテ一事項百圓未満ノ賠償費

六 演習ノ爲特ニ旅行ヲ要スル者ノ旅費

七 臨時備入料(職工、人夫買共)

八 臨時使用ヲ要スル馬匹船車家屋其ノ他物件ノ借料

九 臨時仕拂ヲ要スル倉營料諸謝金印刷費其ノ他ノ雜費

第三條 聯合演習ニ際シ演習費ノ支出ヲ各別ニ區分シ難キ場合ニハ一ノ現金前渡官吏ニ於テ一途ニ整理スルコトヲ得

第四條 陸海軍聯合大演習及海軍演習規則ニ依ル大演習ノ場合ニ要スル費途ノ區分ハ臨時別ニ之ヲ定ム

第五條 艦團部隊(兵學校ヲ除ク)ニ要スル本費支辨ノ物件ニシテ特ニ直接購買ヲ必要トスルモノ、外ハ海軍經理部ニ於テ之ヲ處辨スヘシ

第六條 本費支辨ノ物件ニシテ演習終了後尙將來使用ノ見込アルモノハ當該物品會計官吏之ヲ保管スヘシ

第七條 委任仕拂命令官、現金前渡官吏ハ小演習終了後直ニ別表書式ニ依リ其ノ支出額若ハ仕拂額ヲ經理局長ニ報告スヘシ

何年度小演習費支出報告書

何應(若ハ艦團部隊)

科目	目	細別	金額	額	備考
演習費	俸給		○		
	食料		○		

舍	營	料	〇
出	旅	費	〇
召	集	費	〇
歸	郷	費	〇
備	人	料	〇
消	耗	品	〇
何	々	假	〇
舟	車	馬	〇
家	屋	其	〇
印	刷	費	〇
賠	償	金	〇
何	々		〇

明治何年何月何日

委任仕拂命令官職 氏 名 氏 名  
若ハ現金前渡官更職 氏 名 氏 名

海軍省經理局長宛

備考

- 一 演習ニシテ兩會計年度ニ跨ルトキハ金額ノ欄中「某年度支出額」「某年度支出額」「合計」ノ三欄ヲ設ケ各金額ヲ區分掲載スルモノトス
- 一 本表内欄區分ニシテ別記シタルモノノ外ハ各支出ノ目的ニ依リ區分掲載スルモノトス
- 一 委任仕拂命令官ハ現金前渡ノ分ハ除キ直接仕拂ヒタル金額ノミヲ報告スルモノトス

○海軍省達第九十一號

海軍銃隊操式別冊ノ通改ム

別冊ハ海軍教育本部ヲシテ之ヲ要スル向ニ配附セシム

明治四十三年六月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十二號

明治四十年<sup>四</sup>達第三十四號ヲ廢ス

明治四十三年六月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔参照〕

明治四十年<sup>四</sup>月<sup>十</sup>日海軍省達第三十四號ハ海軍銃隊操式草案ナリ

○海軍省達第九十三號

明治三十三年達第六十八號三等筆記教育規則ヲ廢止ス

明治四十三年六月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十四號

海軍下士卒定員補充交代規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一號樣式中「信號兵曹」「信號兵」ノ欄ヲ削ル

第二號樣式中「特科兵」ヲ「特修兵」ニ改メ「掌信兵」ノ欄ヲ削リ「掌水雷兵」ノ欄ノ次ニ左ノ欄ヲ追加ス

掌	帆	兵
掌	信	號
兵	兵	兵
高	等	科
通	科	

掌 角 兵	掌 電 備 兵	高 等 科			
	普 通 科				

○海軍省達第九十五號

守備備人被服規則中左ノ通改正ス

明治四十三年六月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

別表舟夫長乃至給仕(艦團部隊使役ノ者ヲ除ク)ノ部事業服ノ項中從僕ニ同シノ下ニ但シ舟夫長舟夫ニ限り淺黃色トスヲ加フ

附則

本達ハ明治四十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省達第一號

稅務監督局

明治三十一年<sup>六</sup>大藏省達第一一八二號中左ノ通改正シ明治四十三年八月一日ヨリ施行ス

明治四十三年七月三十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

一第一項ヲ左ノ通改ム

官廳所在地域内ヲ常時巡回スル收稅官吏及雇員ニシテ旅費支給規程第六條ニ依リ日當ノ支給ヲ受ケサル者ニ對シ稅務監督局長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ共ノ日數ニ應シ高等官ニハ一日四十錢以内判任官ニハ一日三十五錢以内雇員ニハ一日三十錢以内ニ於テ定額拂切ヲ以テ車賃ヲ支給スルコトヲ得但シ東京市、大阪市、橫濱市及神戸市ニ在リテハ前段支給額ニ各五錢ヲ増給スルコトヲ得

一第三項ヲ左ノ通改ム

第一項ノ支給額ヲ定メタルトキハ共ノ要旨及施行期日ヲ申報スヘシ

○陸達第三十號

明治三十六年陸達第五十一號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年七月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

〔参照〕

明治三十六年<sup>五</sup>陸達第五十一號ハ陸軍省事務細則ナリ

○陸達第三十一號

陸軍會計監督部検査規程左ノ通定ム

明治四十三年七月七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍會計監督部検査規程

- 第一條 陸軍會計監督部條例第一條第二項ノ實地検査ハ普通検査及特別検査ニ分ツ
- 普通検査ハ豫メ検査ノ區域及時期ヲ定メ該區域内各部隊ノ會計經理全般ニ涉リ之ヲ行フモノトス
- 特別検査ハ各部隊會計經理上臨時検査ヲ要スルトキ之ヲ行フモノトス
- 前二項ノ検査ニ關シ必要アルトキハ勳員ニ關スル會計經理ヲモ併セテ検査スルコトヲ得
- 第二條 検査ハ陸軍會計監督部長又ハ部員ヲシテ之ヲ行ハシム
- 第三條 普通検査ヲ行フヘキ區域及時期ハ陸軍會計監督部長之ヲ豫定シ陸軍大臣ニ上申スヘシ
- 特別検査ヲ行フ必要アルトキハ陸軍會計監督部長ヨリ之ヲ陸軍大臣ニ上申スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ在リテハ便宜検査ニ著手シ共ノ旨陸軍大臣ニ報告スルコトヲ得
- 第四條 普通検査ヲ行フトキハ検査スヘキ部隊検査ノ時期及検査員ノ人名其ノ他必要ノ事項ヲ陸軍省ヨリ豫メ當該所管長官ニ通牒ス
- 特別検査ヲ行フトキハ検査員ニ臨檢章ヲ携帯セシム
- 第五條 陸軍會計監督部長ハ検査上必要ト認ムル文書簿表報告ノ提出ヲ各部隊長ニ要求スルコトヲ得
- 第六條 陸軍會計監督部長及主任検査員ハ検査上違法不當ト認メタル事項ニ付テハ當該部隊長又ハ主任官吏ニ審理書ヲ發シ管辦ノ記入及事由説明書ノ提出ヲ要求スルコトヲ得
- 第七條 陸軍會計監督部長及主任検査員ハ検査上必要アルトキハ關係陸軍經理部長ニ前條ノ答辯ニ對スル意見ヲ要求シ又ハ當該經理部員ノ立會ヲ求ムルコトヲ得
- 第八條 陸軍會計監督部條例第四條ノ検査成績報告ハ普通検査ニ在リテハ其ノ終了後二箇月以内

ニ特別検査ニ在リテハ其ノ終了後直ニ之ヲ提出スヘシ

検査ニ關スル審理書事由説明書及陸軍經理部長ノ意見書中重要ノモノハ前項報告書ニ添附スヘシ

第九條 陸軍會計監督部長ニ於テ検査ノ成績上必要ト認メタル事項ハ關係陸軍經理部長ヲ經テ之ヲ當該所管長官ニ通牒スヘシ

前項ニ依リ通牒スル事項ニ付テハ豫メ陸軍省經理局長ノ承認ヲ求ムヘシ

附則

明治三十五年陸軍第五十九號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十五年六月十日陸軍第五十九號ハ陸軍會計監督部検査規程ナリ

○陸軍第三十二號

陸軍旅費規則第四表中雜費ノ定額ハ左表ノ區分ニ依ル

明治四十三年七月十一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

階級	區分	陸	陸
大	將 高等官 親任	七百圓	三百圓以上
中	少 將 同 二 等	五百圓	三百圓
同	相 當 官 同 一 等	三百圓	二百圓
上	長 官 同 三 等 以下	二百圓	一百圓



兵	下等兵	准士官	中士官	同大相	同大相
兵	兵士	士官	士官	士官	士官
同 備	同 判	同 判	同 判	同 判	同 判
二十	二十	二十	二十	二十	二十
圓未	圓未	圓未	圓未	圓未	圓未
八滿	八滿	八滿	八滿	八滿	八滿
一五〇〇〇	三〇〇〇〇	二五〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	四五〇〇〇
二〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	四〇〇〇〇

陸路一里ハ鐵道八哩水路一海里ハ鐵道二哩トシテ路程ヲ計算ス

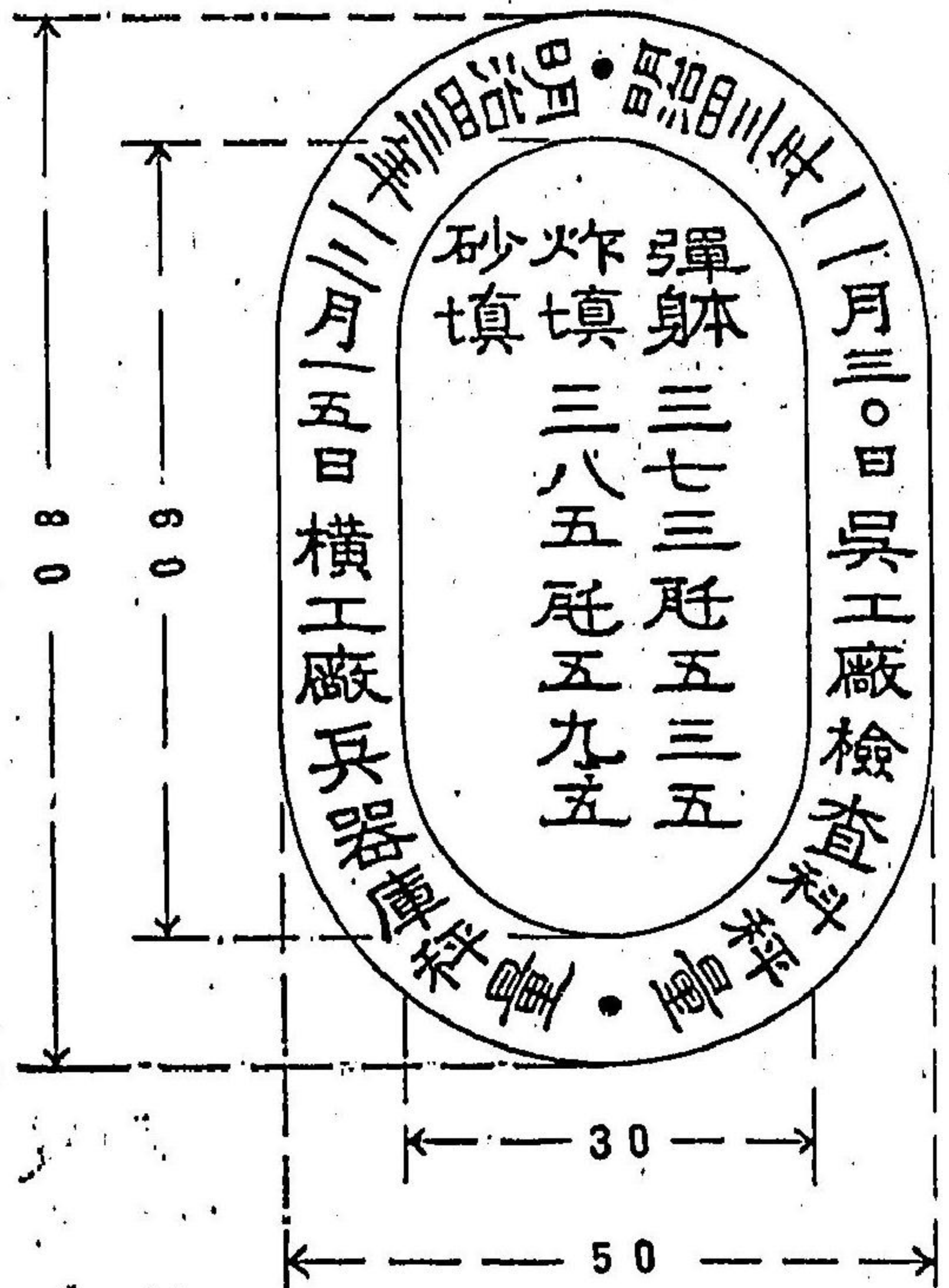
○海軍省達第九十六號  
 自今各工廠ニ於テ三吋砲以上ノ實用彈丸ヲ検査若ハ炸填シタルトキ又ハ三吋砲以上ノ演習彈ヲ検査供給スル場合ニハ各箇ニ就キ之カ秤量ヲ行ヒ別紙ノ注意箋ヲ彈丸ノ側面ニ貼付シ各其ノ重量ヲ記入スヘシ

明治四十三年七月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

(別紙)

注 意 箋 例



用紙四ノ内

說明  
 彈體トハ信管、換栓、炸藥若ハ砂ヲ含有セサル彈殼(底螺、積底螺ヲ含ム)ノ重量ヲ云ヒ炸填若ハ砂填トハ彈體ニ炸藥(信管若ハ換栓ヲ含マズ)ヲ填充シタル重量ヲ云フ  
 又注意箋ノ貼付ハ彈肩部ト銅帶部トノ間ニ於テシ裝填ニ妨ケナキ様注意スヘシ

○海軍省達第九十七號

艦營需品經理規程第十條但書ヲ左ノ通り改正ス

「但シ消耗品ニシテ定額内ヲ以テ處辨シ難キトキハ主管別金額ノ範圍内ニ於テ其ノ定額ニ拘  
ハラス處辨スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ事由ヲ請求票記事欄内ニ詳記スヘシ又第十六  
條及第十八條ニ依リ購入スルモノハ主管別金額外トス」

明治四十三年七月一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十八號

水路部、海軍大學校ニ於テ醫務衛生上處理ヲ要スヘキ事項發生シタルトキハ水路部ニ在リテハ海  
軍造兵廠軍醫長、海軍大學校ニ在リテハ海軍經理學校軍醫長ヲシテ之ヲ處置セシム

明治四十三年七月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第九十九號

海軍内國旅費規則第七條ノ移轉料ハ當分ノ内左表ニ依リ之ヲ支給ス

明治四十三年七月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

旅費等級	分屬		移轉料
	平	區	
一 等	大	將 親 任 官	百五十圓
二 等	中少將及相當官	高等文官一、二等	百二十圓
三 等	大佐及相當官	同 三 等	百圓
三 等	中少佐及相當官	同 四、五 等	八十圓

四 等	大尉及相當官	同六等以下	六十圓
四 等	中尉及相當官		三十圓
四 等	少尉及相當官		二十圓
五 等	兵曹長及相當官	試 補	五十圓
六 等	准 士 官	判任文官五級以上	四十圓
七 等		同六級以下	四十圓
八 等		判任官待遇者	二十五圓

○海軍省達第一百號

職工人夫給與規則第十五條ノ二第二項第一號中「八等ヲ九等ニ改メ第十五條ノ三中雜費ヲ「移轉料ニ改メ

明治四十三年七月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

海軍省達第二號職工人夫給與規則(明治三十三年一月二十二日)抄録

第十五條ノ二第一項第一號

内國ニ在リテハ海軍内國旅費規則ニ準據シ第七表表面内ハ同表八等ノ定額、表面外ハ第五表八等ノ定額但シ別表第八及第九ノ場合ニ於テハ旅費支給ノ限ニ在ラス

第十五條ノ三

甲工廠ヨリ乙工廠ニ轉備スル職工ニハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ雜費トシテ十圓以内ヲ支給スルコトヲ得

○海軍省達第一百號

水路測量ノ爲臺灣、樺太、韓國及清國各沿岸へ出張スル者ニ支給スル旅費ノ日當宿泊料及食卓料別表ノ通定

明治四十三年七月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

本達ハ明治四十三年七月十一日ヨリ之ヲ施行シ明治三十七年達第六十號及明治三十九年達第九十號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

官等	上等官、士官	候補生	准士官	下士官見習	雇員
日當	一圓六十錢	一圓二十錢	一圓	六十錢	五十錢
宿泊料	二圓四十錢	二圓	一圓七十錢	八十錢	六十錢
食卓料	一圓	九十錢	七十錢	六十錢	五十錢

備 口當及宿泊料ハ測量地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄之ヲ支給ス但シ艦船乗員測量地ニ於テ本艦ヲ離レ測量ニ從事スルトキハ其ノ日ヨリ歸艦船ノ日(附泊料ハ別表ノ額ニ依ル)食卓料ハ艦船附屬又ハ官用ノ船艇ニテ測量ニ從事シ艦艇内ニ起臥スル場合ニ限リ其ノ夜數ニ應シ之ヲ支給ス

考 艦船乗員測量ノ爲出張シ一日内ニ往復スル場合ニ於テ水路三十海里以上ニ及フトキハ八日當ノ中領ヲ支給ス

〔参照〕

明治三十七年三月二日海軍省達第六十號ハ水路測量ノタメ探測及其附近ニ出張スル者旅費ノ件、同三十九年七月海軍省達第九十號ハ韓國、清國及樺太島各沿岸測量ノタメ出張スル者ニ同三十七年達第六十號準用ノ件ナリ

○海軍省達第百一號

明治四十三年達第九十九號ノ移轉料ハ清韓樺太旅費規則第二條第一項第二號ノ移轉料ニ之ヲ準用ス

明治四十三年七月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三號

清韓樺太派遣職工人夫給與規則第五條中八等ヲ九等ニ改メ第五條ノ二中雜費ヲ移轉料ニ改ム

明治四十三年七月十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百四號

明治二十二年四月達第百十號海軍所轄官用地取扱概則第一條ヲ左ノ通り改正シ第二條第三條ヲ削除ス

明治四十三年七月二十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

第一條 海軍所轄ノ官用地及借地ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外左表ニ依リ管理ス

管理區	管 理 區 域
經 理 局	東京府(神奈川縣管內) 神奈川縣(用) 北海道(用)
橫濱支鎮守府	東京府(神奈川縣管內) 神奈川縣(用) 北海道(用) 青森縣(用) 岩手縣(用) 宮城縣(用) 秋田縣(用) 山形縣(用) 福島縣(用) 茨城縣(用) 千葉縣(用) 群馬縣(用) 埼玉縣(用) 山梨縣(用) 靜岡縣(用) 愛知縣(用) 三重縣(用) 神奈川縣(用) 大分縣(用)
吳鎮守府	宮崎縣(用) 山口縣(用) 兵庫縣(用) 福岡縣(用) 佐賀縣(用) 熊本縣(用) 鹿兒島縣(用) 那霸縣(用) 琉球(用)
佐世保鎮守府	佐賀縣(用) 長崎縣(用) 熊本縣(用) 鹿兒島縣(用) 那霸縣(用) 琉球(用)

海軍省	海軍省
第一條	海軍省
第二條	海軍省
第三條	海軍省
第四條	海軍省
第五條	海軍省
第六條	海軍省
第七條	海軍省
第八條	海軍省
第九條	海軍省
第十條	海軍省
第十一條	海軍省
第十二條	海軍省
第十三條	海軍省
第十四條	海軍省
第十五條	海軍省
第十六條	海軍省
第十七條	海軍省
第十八條	海軍省
第十九條	海軍省
第二十條	海軍省
第二十一條	海軍省
第二十二條	海軍省
第二十三條	海軍省
第二十四條	海軍省
第二十五條	海軍省
第二十六條	海軍省
第二十七條	海軍省
第二十八條	海軍省
第二十九條	海軍省
第三十條	海軍省
第三十一條	海軍省
第三十二條	海軍省
第三十三條	海軍省
第三十四條	海軍省
第三十五條	海軍省
第三十六條	海軍省
第三十七條	海軍省
第三十八條	海軍省
第三十九條	海軍省
第四十條	海軍省
第四十一條	海軍省
第四十二條	海軍省
第四十三條	海軍省
第四十四條	海軍省
第四十五條	海軍省
第四十六條	海軍省
第四十七條	海軍省
第四十八條	海軍省
第四十九條	海軍省
第五十條	海軍省
第五十一條	海軍省
第五十二條	海軍省
第五十三條	海軍省
第五十四條	海軍省
第五十五條	海軍省
第五十六條	海軍省
第五十七條	海軍省
第五十八條	海軍省
第五十九條	海軍省
第六十條	海軍省
第六十一條	海軍省
第六十二條	海軍省
第六十三條	海軍省
第六十四條	海軍省
第六十五條	海軍省
第六十六條	海軍省
第六十七條	海軍省
第六十八條	海軍省
第六十九條	海軍省
第七十條	海軍省
第七十一條	海軍省
第七十二條	海軍省
第七十三條	海軍省
第七十四條	海軍省
第七十五條	海軍省
第七十六條	海軍省
第七十七條	海軍省
第七十八條	海軍省
第七十九條	海軍省
第八十條	海軍省
第八十一條	海軍省
第八十二條	海軍省
第八十三條	海軍省
第八十四條	海軍省
第八十五條	海軍省
第八十六條	海軍省
第八十七條	海軍省
第八十八條	海軍省
第八十九條	海軍省
第九十條	海軍省
第九十一條	海軍省
第九十二條	海軍省
第九十三條	海軍省
第九十四條	海軍省
第九十五條	海軍省
第九十六條	海軍省
第九十七條	海軍省
第九十八條	海軍省
第九十九條	海軍省
第一百條	海軍省

〔參照〕

海軍省達第百十號海軍所轄官用地取扱規則(明治二十二年四月二十六日)抄録

第一條 海軍所轄官用地及借地ハ海軍區ノ區域ニ依リ各鎮守府ニ於テ管理シ其東京府下ニ在ルモノ

但第五海軍區ニ在ル地所ハ當分ノ内橫須賀鎮守府ニ於テ管理スルモノトス

第二條 海岸ニアラサル地所ハ最近ノ鎮守府ニ於テ管理シ濱國及朝鮮國ニ在ル借地ハ佐世保鎮守府ニ於テ管理シ布哇國ニ

在ル借地ハ橫須賀鎮守府ニ於テ管理ス

第三條 作業船ニ於テ使用スル地所ハ使用中該船ヲシテ管理セシム

○海軍省達第百五號

艦隊教育規則第七十二條中第四號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ第五號ヲ第七號トシ以下各號順次繰下

ク五魚形水雷及縱船機ノ分解結合調整

六敷設水雷ノ裝備裝填搭載沈置收揚等

海軍大臣 男齋藤實

○陸軍第三十三號

獸醫材料取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年八月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一表備考四ヲ左ノ如ク改ム

本表ノ外韓國駐節憲兵隊ニ獸醫携具四、馬藥箱八、獸醫行李<sup>甲</sup>一<sup>乙</sup>六ヲ備附ク

第一表ノ二ニ左ノ備考ヲ加フ

備考

一、本表ノ外韓國駐節憲兵隊ニ携帶蹄鐵工具一四ヲ備附ク

○陸軍第三十四號

裝蹄及剔毛器械制式及定數表中左ノ通改正ス

明治四十三年八月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

裝蹄及剔毛器械定數表中韓國駐節憲兵隊ノ欄ニ二ヲ總テ「二五」ニ「二四」ヲ總テ「三〇」ニ改ム

○海軍省達第百六號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治四十三年八月一日

海軍大臣 男齋藤實

第七條中採用ヲ採用又ハ轉雇轉備ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 各屬其ノ他艦隊部隊ニ使役中ノ雇員備人ハ特別ノ必要アルトキハ相互轉雇轉備スル

コトヲ得

〔參照〕

海軍省達第五十二號雇員備人規則(明治三十年五月十八日)抄錄  
第七條 雇員備人ヲ採用スルニハ各該其ノ他機關部隊ノ員ニ於テ確實ト認定シタル保證人ヲ定メ本人第四條及第六條ニ依  
ルテサレコトヲ保證セシメ且身元ヲ引受ケシムヘシ

○海軍省達第百七號

雇員備人給與規則中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月一日

第六條中職工ニ轉備ヲ他ノ雇員備人又ハ職工ニ轉雇轉備ニ改ム  
第六條ニ左ノ一項ヲ加フ  
雇員備人甲廳(艦團部隊ヲ含ム以下)ヨリ乙廳ニ轉雇轉備ノトキハ其ノ給料ハ辭令ノ日ヲ以テ區  
分シ其ノ前日迄甲廳ニ於テ之ヲ支給ス

第十一條ノ二 本則第九條及第十一條ノ増給ハ每月末日二十日ハ之ヲ支給ス但シ休暇ニ當ルトキ  
ハ順次繰上ク

〔參照〕

海軍省達第三十三號雇員備人給與規則(明治四十三年三月二十九日)抄錄  
第六條 雇員備人ノ給料ハ新ニ採用ノトキ又ハ増給減給ノトキハ辭令ノ日ヨリ 文官ニ任用又ハ解雇解備ノトキハ辭令ノ日  
迄職工ニ轉備ノトキハ其ノ前日迄死亡ノトキハ其ノ月末日迄之ヲ支給ス

○海軍省達第百八號

鎮守府會計監督規程中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月九日

第一條及第九條中(東京各廳)ヲ(東京各廳及臨時海軍)ニ改ム  
(ヲ除ク)ヲ(建築部支部ヲ除ク)ニ改ム

○海軍省達第百九號

明治三十年達第百三十六號第一項中「東京ニ在テハ」ヲ「東京及臨時海軍建築部支部ニ在テハ」ニ改ム

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月九日

〔參照〕

明治三十年四月十海軍省達第百三十六號ハ會計規則物品會計規則中海軍經理局所掌事項ノ件ナリ

○海軍省達第百十號

海軍兵曹長同相當官准士官配屬命課規則中左ノ一條ヲ加フ

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月十七日

第八條ノ二 鎮守府司令長官ハ准士官ノ定員ヲ補充スルニ當リ必要アルトキハ一等下士ニ准士官  
職務心得ヲ命シ一時其ノ定員ヲ補充スルコトヲ得

前項ノ職務心得ヲ免セラレタル者ハ別ニ命ナクテ現所屬ノ下士定員ニ補充セラレタルモノト  
ス但シ下士ノ定員ナキ場合ニ於テハ所屬長ハ之ヲ海兵團ニ入團セシムヘシ  
鎮守府司令長官ハ准士官職務心得ヲ命免シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

○海軍省達第百十一號

明治三十一年七月達第百五號ヲ廢ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月十七日

○海軍省達第百十二號

艦營帶品經理規程別表第一號第二種消耗品品名表中「水塗具」ヲ追加ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年八月十七日

○海軍省達第百十三號  
歲入歳出取扱規程第六十二條中、臨時海軍建築部支部ヲ削除ス

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百十四號  
海軍經理學校規則中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

第五十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

廚宰主厨ニシテ現ニ乙種練習生教程修業證狀ヲ有シ實務ノ成績優等ト認ムル者アルトキハ所轄長ハ明治四十三年十月三十一日迄ニ本則別表其一二準シ調製シタル所見表ヲ添ヘ其ノ人名ヲ海軍經理學校長ニ通知スヘシ  
海軍經理學校長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ本則第四十二條ニ準シ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ト所見表ニ依リ檢定ノ上適當ト認メタル者ニハ一等又ハ二等掌廚證狀ヲ授與スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第五十八號海軍經理學校規則(明治四十三年五月三十日)抄録

第五十條第二項

舊規則ニ依リ採用シタル乙種練習生ニハ掌廚證狀ヲ授與セス

○海軍省達第百十五號

明治四十一年達第九號海軍工事施行手續中左ノ通改ム

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條第一項中、經常修繕工事トアルヲ各所修繕費支辨ノ工事ニ改ム  
第十條 工事竣功シタルトキハ各所修繕費支辨ノ工事ヲ除ク外其ノ實費調書(書式)及竣功調書

(書式)若ハ仕様書(書式)ニ縮尺ノ平面圖、建圖、斷面圖其他新營ニハ詳細ナル位置圖ヲ添ヘ一箇月以内ニ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ一廉千圓未満ノ工事ニ在リテハ其ノ竣功調書ハ構造及仕様ノ大略ヲ概知シ得ヘキ要點ヲ摘記スルニ止メ且建圖、斷面圖ハ添フルニ及ハス  
第二號書式備考第一ヲ削ル

〔參照〕

海軍省達第九號海軍工事施行手續(明治四十一年一月二十四日)抄録

第五條第一項

工事ニ著手シタルトキハ經常修繕工事ヲ除ク外其ノ都度第一號書式ニ依リ經理局ヘ報告スヘシ但シ數工事ヲ合併シテ圖表ニ付シタルトキハ其ノ請負金額及豫定價格ヲ一工事毎ニ分割シタル別表ヲ添付スヘシ最初ヨリ分割シテラサルトキハ適當な分割比例ヲ以テ分割スヘシ

第十條 工事ノ新營若ハ模倣修繕ノ竣功ハ其ノ實費調書(書式)及竣功調書(書式)若ハ仕様書(書式)ニ縮尺ノ平面圖、建圖、斷面圖其他新營ニハ詳細ナル位置圖ヲ添ヘ一箇月以内ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

一口百五十圓未満ノ新營竣功ハ其ノ實費調書ニ平面圖、建圖、斷面圖、本圖中ニハ構造及仕様ノ大略ヲ概知シ得ヘキ要點ヲ摘記スルニ止メ且建圖、斷面圖ハ添フルニ及ハス  
添ヘ模倣修繕及經常修繕ノ竣功ハ實費調書ニ平面圖、建圖、斷面圖、本圖中ニハ構造及仕様ノ大略ヲ概知シ得ヘキ要點ヲ摘記スルニ止メ且建圖、斷面圖ハ添フルニ及ハス  
海軍大臣ニ報告スヘシ但シ一口百圓以下ノ修繕ハ箇所名及實費調書ヲ添フルニ止メ圖面ハ之ヲ添フルニ及ハス

○陸達第三十五號

明治二十一年陸達第四百二十二號中左ノ通改正ス

明治四十三年九月五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第三號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ内地臺灣樺太朝鮮滿洲相互間ニ旅行セムトスルトキハ所管長官、滿洲以外ノ外國ニ旅行セムトスルトキハ陸軍大臣ニ出願シ其ノ許可ヲ受クルモノトス

〔參照〕

陸達第四百二十二號陸軍省陸達第四百二十二號(明治二十一年六月二十八日)抄録  
三 休暇日割等ハ隊ノ其長官ノ認可ヲ受テ休暇中他行スル者ハ其行先ヲ届出ヘシ

○陸達第三十六號

陸軍禮式附録左ノ通改正ス

明治四十三年九月二十二日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

陸軍禮式附録

第一章 親兵式

第一節 通則

第一條 本章ニ於テ團隊長ト稱スルハ師團長、旅團長、聯隊長及獨立隊長ヲ謂フ

第二條 交通兵隊ニ對シテハ工兵隊、重砲兵隊中繫繩スルモノニ對シテハ野砲兵隊、繫繩セサルモノニ對シテハ步兵隊ノ爲ニ定メタル規定ヲ準用ス

第三條 閱兵式及分列式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

第四條 團隊附將校、特務曹長、見習士官、曹長及騎兵者ヲ除クハ 輜重兵ハ肩刀シ步兵、工兵ハ著劍ス但シ喇叭手ハ著劍スルコトナシ

第五條 觀閱者徒歩ナル時ハ將校ハ乘馬セサルヲ例トス但シ騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ將校ハ觀閱者ニ隨從スル者ヲ除クノ外乘馬スルモノトス

工兵隊ノ小隊長ハ觀兵式ニ在リテハ徒歩スルモノトス

第六條 閱兵式ニ於テハ團隊ニ附屬セサル將官、佐官及陪觀ヲ許サレタル外國將校ニシテ乘馬ノ者ハ天皇又ハ觀閱者ニ隨從又ハ隨從スルコトヲ得

第七條 輜重輸卒ハ閱兵式ニノミ列セシムルモノトス

行李、彈藥小隊、段列及縱列等ハ別命アルニ非サレハ觀兵式ニ列セサルヲ例トス

第八條 中隊以下ノ小部隊ニシテ大ナル部隊ト共ニ觀兵式ニ列スルトキハ之ヲ同兵種ノ聯隊若ハ大隊ニ編入シ其ノ隊長ノ指揮ヲ受ケレムルコトヲ得

第九條 分列式ニ於テハ山砲兵隊ハ常歩ヲ以テ其ノ他ハ速歩ヲ以テ之ヲ行フヲ例トス但シ時宜ニ依リ山砲兵隊ハ速歩ヲ以テ其ノ他ハ駈歩ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十條 分列中軍樂ヲ奏スル場合ニハ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

第二節 閱兵式

第十一條 閱兵式ニ於ケル諸兵整列ノ順序左ノ如シ

一、歩兵隊

二、工兵隊

三、交通兵隊

四、山砲兵隊

五、野砲兵隊

六、騎兵隊

七、輜重兵隊

教導隊ハ其ノ兵種ノ右翼、重砲兵隊中徒歩スルモノハ山砲兵隊ノ右翼、裝駕シタルモノハ野砲兵隊ノ右翼、騎砲兵隊ハ野砲兵隊ノ左翼ニ整列スルモノトス

第十二條 閱兵ノ隊形ハ各兵操典ニ依リ

隊形ノ如何ニ論ナク諸兵指揮官ハ最右翼ノ指揮官ヨリ師團長ハ其ノ師團ノ最右翼ノ指揮官ヨリ各十六歩ニシテ第一線各參謀長ハ其ノ長官ノ後方第二線各幕僚ハ參謀長ノ後方第三線其ノ他ノ司令部附將校同相當官ハ幕僚ノ後方第四線ニ整列ス

軍樂隊ハ諸兵指揮官幕僚ノ後方適宜ノ所ニ整列ス

團隊ノ間隔ハ師團間ヲ六十四歩、旅團及異兵種間ヲ三十二歩トシ右方團隊ノ左翼ヨリ左方團隊ノ右翼迄ヲ測ルモノトス

諸兵指揮官ハ前諸項ノ間隔ヲ適宜伸縮スルコトヲ得

第十三條 天皇式場ニ臨御アラハトスルトキハ其ノ稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム此ノ號音ニ依リ各團隊ハ第四條ノ動作ヲ爲ス

天皇臨御アリタルトキハ諸兵指揮官ハ前進シテ車駕ヲ奉迎シ軍樂隊及諸隊ノ喇叭手群ハ「君カ代」一回ヲ吹奏シ各隊ハ敬禮ヲ行フ

第十四條 觀閱者タル將官臨場ノ際ニ於ケル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カ」ヲ吹奏スルモノトス

第十五條 閱兵ヲ施行セラルルトキ諸兵指揮官ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ又ハ觀閱者ヲ迎ヘ刀ノ禮ヲ行ヒ當日出場ノ總人員、將校以下何名トヲ奏上又ハ報告シ天皇又ハ觀閱者ノ右方後ニ在リテ閱兵ノ奉迎者ハ誘導ヲ爲ス

第十六條 天皇團隊ノ最右翼ニ到ラルルトキハ軍樂隊ハ「君カ代」三回ヲ奏ス

天皇師團、旅團ノ右翼ニ到ラルルトキハ師團長、旅團長ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行フ



天皇各聯隊、獨立隊ヲ含メ、右翼約二十歩ノ所ニ到ラルトキハ各隊ハ敬禮ヲ行ヒ聯隊長、獨立隊  
以下ハ直ニ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行ヒ該隊ノ出場人員ヲ奏上ス  
天皇各隊ヨリ約十五歩過キ去ラレタルトキハ敬禮ヲ止ム但シ甲隊喇叭手群ノ吹奏ハ乙隊喇叭手  
群ノ吹奏ヲ始メタル時ニ止ムルモノトス

團隊長ハ其ノ團隊ノ團兵中諸兵指揮官ノ右側後ニ於テ天皇ニ扈從ス

第十七條 觀閱者タル將官ニ對スル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍隊ノ敬禮ハ「頭右(左)」ノ號  
令ニ從ヒ目迎目送ヲ爲シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應ス  
ル回數ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏シ團隊長ノミ刀ノ禮ヲ行フモノトス

第十八條 閱兵式ニ列レ分列ヲ爲ササル軍隊ハ諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ整列スルモノトス

第三節 分列式

第十九條 分列式ニ於ケル諸兵ノ順序ハ閱兵式ニ同シ

第二十條 分列ノ隊形ハ各兵操典ニ依ル

諸兵指揮官ハ先頭ノ團隊長ヨリ前方二十二歩、師團長ハ其ノ師團先頭ノ團隊長ヨリ前方二十四  
歩、各參謀長ハ其ノ長官ノ左方半馬身後方、其ノ他ノ幕僚ハ諸兵指揮官若ハ師團長ノ後方四歩ニ  
於テ一列ニ位置ス

軍樂隊ハ諸兵指揮官ノ前方二十四歩ニ位置ス

各團隊ノ距離ハ師團間ヲ八十歩、旅團間ヲ六十四歩、異兵種間ヲ四十歩トス但シ乘馬隊速歩ヲ用  
ウルトキハ徒歩隊ヨリ約四百歩、旅團又ハ聯隊ト異兵種間トヲ二百歩トシ駈歩ヲ用ウルトキハ  
之ヲ倍ス

前項ノ距離ハ先行團隊ノ後尾ヨリ後續團隊ノ團隊長又ハ喇叭手群迄トス

諸兵指揮官ハ前諸項ノ距離ヲ適宜伸縮スルコトヲ得

第二十一條 閱兵終リタルトキハ諸兵指揮官ハ直ニ命令ヲ下シテ分列ノ隊形ヲ作ラシム

各隊ハ適宜先頭部隊ニ距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ル

時宜ニ依リ閱兵終ル毎ニ各隊ヲシテ先頭部隊ニ距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ラシムルコトヲ得

第二十二條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ標兵附圖ヲ置カシメタル後分列行進ヲ命ス但シ命令ニ代ッ  
ルニ記號又ハ號音ヲ以テスルコトヲ得

前進ノ命令ニ依リ軍樂隊又ハ先頭部隊ノ喇叭手群ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各大隊長、中隊長ハ  
所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ分列行進ノ號令ヲ下ス但シ行進中刀ヲ保持スル者ハ肩刀ヲ爲スモノト  
ス

第二十三條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ到リタルトキ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キタルトキハ直ニ肩刀  
ニ復シ駈歩ヲ以テ右方ニ進出シ天皇又ハ觀閱者ノ右側後ニ到リ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復シ  
分列式全ク終ル迄同所ニ位置ス

第二十四條 軍樂隊又ハ喇叭手群ハ敬禮點第一標兵ヨリ約二十歩ノ所ニ到リタルトキハ左側面行  
進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ天皇又ハ觀閱者ニ正對シテ止リ連續吹奏ス

喇叭ヲ吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群ハ先行隊ノ後尾敬禮點ヲ通過シ終リタルトキ先  
行隊喇叭手群ノ節調ニ準シテ吹奏ヲ始ムヘシ此ノ場合ニ於テ先行隊喇叭手群ハ直ニ吹奏ヲ止メ

捷路ヲ經テ所屬隊ニ復歸スヘシ  
軍樂ヲ奏スル分列式或騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ速歩者ハ駈歩ヲ以テ行フ分列式ニ於テハ喇  
叭手群ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク直行ス

第二十五條 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キタルトキハ直ニ肩刀  
ニ復シ駈歩ヲ以テ右方ニ進出シ順次諸兵指揮官ノ右方ニ到リテ併列シ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀

ニ復シ其ノ團隊通過シ終リタルトキハ再ヒ其ノ場ニ於テ刀ノ禮ヲ爲シ駈歩ヲ以テ其ノ團隊ニ復  
歸スヘシ

天皇ニ對シテハ聯隊長ハ側方ニ進出シタル後天皇ノ左側後ニ移リ聖旨ヲ俟タス諸兵指揮官ノ定  
ムル所ニ從ヒ大隊長又ハ中隊長ノ職爵氏名ヲ奏上スルモノトス

第二十六條 各團隊ハ敬禮點ニ到リタルトキ將校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ軍旗亦敬禮シ各大隊、中隊ハ其  
ノ隊長ノ下ス「頭右」號令ニテ天皇ニ注目ス其ノ隊ノ後尾敬禮點ヲ過キタルトキハ軍旗並將校

ハ敬禮ヲ止メ大隊、中隊ハ「直レ」號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス但シ嚮導タル小隊長若ハ下士野戰砲  
兵ニ在

リテハ右翼砲車ノハ終始正面ヲ直視スルモノトス  
車長及取者ヲ含ム

觀閱者ニ對シ各隊ノ注目ハ前項ニ準ス但シ團隊長ノミ刀ノ禮ヲ行フ

第二十七條 分列全ク終リタルトキハ諸兵指揮官ハ天皇又ハ觀閱者ノ前面ニ到リ刀ノ禮ヲ爲シ聖  
旨又ハ命令ヲ俟ツ

第二十八條 分列終リタルトキハ各隊ハ逐次諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ到リ徒歩隊ハ距離ヲ縮メ  
タル縱隊ヲ作リテ左向ヲ爲シ野戰砲兵隊ハ間隔ヲ開キ各中隊左方ニ砲車縱隊ヲ作り騎兵隊ハ左

ニ集團橫隊ヲ作り輜重兵隊ハ左ニ大隊縱隊ヲ作り天皇ノ還御又ハ觀閱者ノ退場ニ對スル敬禮ノ  
準備ヲ爲ス但シ場合ニ依リ前記ノ隊形ヲ換ヘ若ハ分列終リタルトキハ各隊ハ直ニ退場スルコト  
アルヘシ

第二十九條 天皇還御ノトキハ各團隊ハ臨御ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ軍樂隊及喇叭手  
群ハ車駕場外ニ出ツル迄連續「君カ代」ヲ吹奏スヘシ

觀閱者退場ノトキハ臨場ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三十條 軍旗奉迎ノ爲軍旗中隊ハ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ到リ中隊縱隊騎兵ニ在リテハ  
橫隊以下同シ

第二章 軍旗迎送式

ヲ作ルヘシ但シ喇叭手群ハ先頭小隊ノ右方騎兵ニ在リテハ  
中隊ノ右方ニ整列スルモノトス  
旗手ハ拔刀又ハ著劍シタル嚮導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋内ニ入りテ軍旗ヲ迎フ

第三十一條 軍旗中隊ハ著劍又ハ拔刀シテ軍旗ノ出ツルヲ待チ旗手ハ軍旗ヲ捧持シ嚮導ノ將校ハ  
其ノ左側前、護衛下士ハ旗手ノ兩側ニ從ヒ共ニ家屋ヲ出テ中隊ニ面シテ停止ス此ノ場合ニ於テ

軍旗中隊ハ軍旗ニ對シテ敬禮ス其ノ方法ハ歩兵ニ在リテハ著劍捧銃騎兵ニ在リテハ捧刀若ハ立  
槍ノ將校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ曹長ハ捧刀シ喇叭足曳一回ヲ吹奏スルモノトス

前項敬禮ノ後旗手ハ嚮導將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ前方四步ニ移リタル後嚮導ノ將校ハ中隊  
ノ定位ニ復シ喇叭手ハ軍旗ノ前方四步ニ移リ中隊長ハ行進ヲ起サシム此ノ場合ニ於テ喇叭手ハ

喇叭ヲ吹奏シ中隊長ハ軍旗ノ直前ニ在リテ行進ス但シ道路狹少ナルトキハ側面縱隊騎兵ニ在リ  
上縦

隊ト爲スコトヲ得

第三十二條 軍旗中隊ニシテ聯隊集合場ニ到リタルトキハ聯隊ノ中央前約四十步ノ所ニ於テ之ニ  
面シテ中隊縱隊ニ整列シ旗手ハ嚮導ノ將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ前方約十步ノ所ニ前通ス此

ノ場合ニ於テ聯隊長ハ其ノ聯隊ヲシテ軍旗ニ對シ前條ト同一ノ敬禮ヲ爲サシメ軍旗ノ前ニ到リ  
刀ノ禮ヲ行フ

敬禮終リタルトキ軍旗ハ聯隊ノ定位ニ就キ護衛下士ハ軍旗衛兵ト代リテ其ノ所屬中隊ニ復歸ス  
軍旗定位ニ就キタル後軍旗中隊ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク其ノ定位ニ就クヘシ

第三十三條 聯隊直接ニ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ整列スルトキハ軍旗中隊ヲ設クルコトナク  
旗手ニ於テ軍旗ヲ捧持シ嚮導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋ヲ出テ前條ニ規定シタル位置ニ到リ

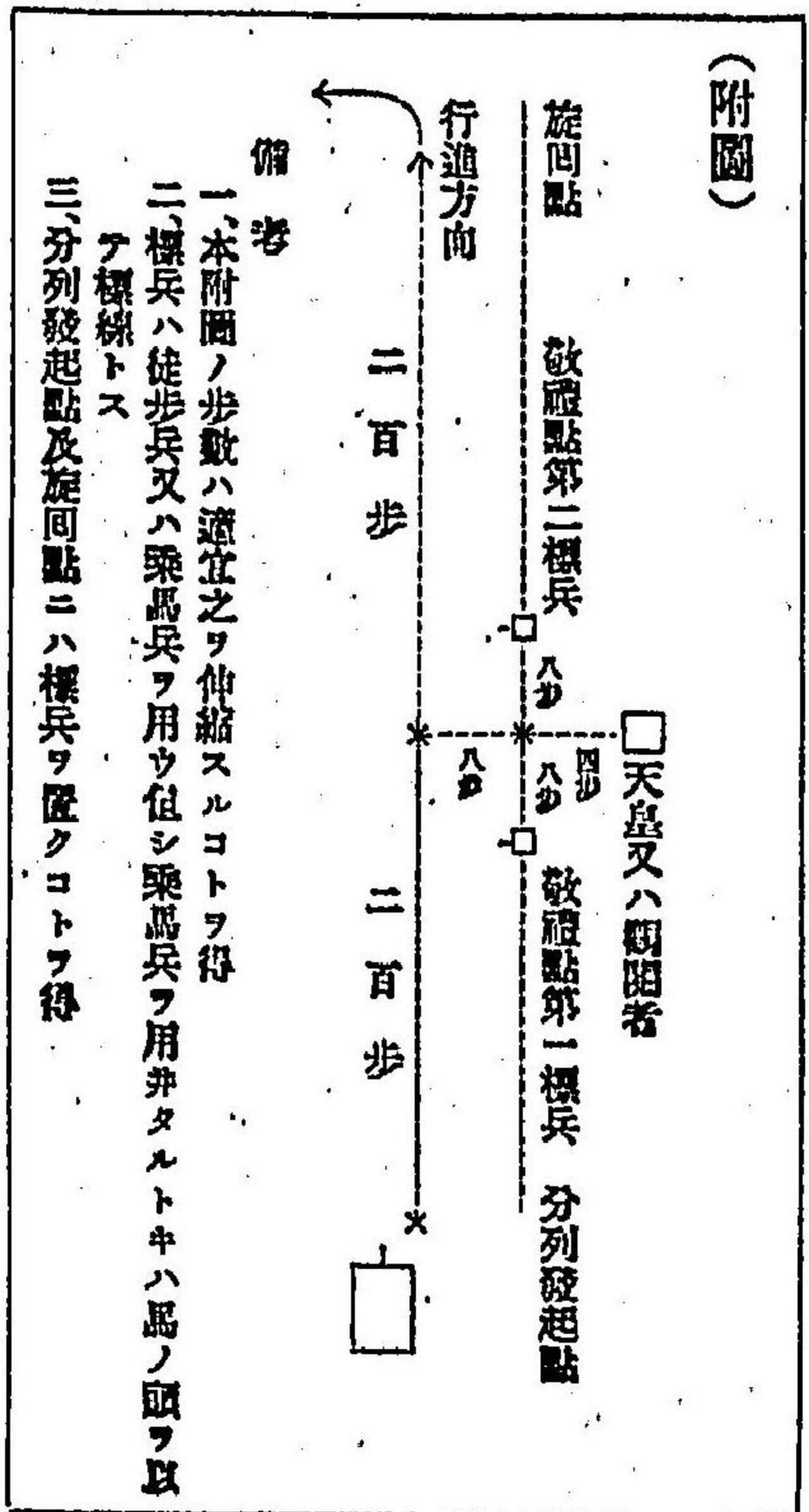
聯隊ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ爲スモノトス

第三十四條 軍旗ノ奉送ハ奉迎ノトキト反對ノ順序ニ從ヒ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

附則

操典ニ於テ觀兵式ノ隊形ヲ規定セラレサル兵種ニ在リテハ其ノ隊形ハ舊陸軍禮式附録ニ依ル

(附圖)



○陸軍第三十七號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治四十三年九月二十七日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第八條第一項中「第四表」ヲ「陸軍戰時給與規則細則第一表」加給品ヲ除キ「改ム」第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ馬糧ハ匪徒鎮壓等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニ在リテハ陸軍戰時給與規則細則第二表ノ定量ヲ基準トスヘシ

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ増給額ハ陸軍戰時給與規則細則第一表定額ノ三分ノ一以内トシ加給品ハ同表加給品ノ定額以内ヲ目途トスヘシ

第二十七條第三項中「第四表」ヲ「陸軍戰時給與規則細則第一表」ニ改ム

第四表 削除

○陸軍第三十八號

憲兵服務規程左ノ通改正ス

明治四十三年九月二十七日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

憲兵服務規程

第一條 憲兵司令官及憲兵隊長ハ必要ニ依リ各部下隊長又ハ分隊長ヲ召致スルコトヲ得

第二條 憲兵司令官ハ地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ分隊又ハ分遣所ヨリ一時所要ノ人員ヲ一地方ニ分駐セシムルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三條 憲兵司令官ハ警察事務ニ關シ朝鮮駐劄憲兵隊司令官ト連絡ヲ保持シ必要ナル事項ハ機ヲ失セス之ヲ通報スヘシ

第四條 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ其ノ隊ノ軍紀、風紀ヲ維持シ部下ノ訓練、教育ニ任シ服裝ヲ監視シ内務、經理及衛生事務ヲ掌ル

第五條 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ動員、陸海軍召集及徵發ニ際シ爲スヘキ業務並部下臨時召集ノ方法ヲ規定スヘシ

第六條 憲兵隊長ハ部下ニ職務ヲ課シ又ハ之ヲ各分隊ニ配屬轉換スルコトヲ得

第七條 憲兵隊長ハ各分隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲シ又必要ニ依リ管區内ヲ巡視スルコトヲ得

第八條 憲兵分隊長ハ憲兵隊長ノ認可ヲ受ケ其ノ分隊ヲ數班ニ分チ准士官以下ヲ各班ニ配屬スヘシ

憲兵分隊長ハ適宜憲兵班ヲ其ノ分遣所ニ配置スヘシ

第九條 憲兵分隊長ハ常ニ部下ノ勤惰ヲ監視シ其ノ狀況ヲ憲兵隊長ニ報告スヘシ

憲兵分隊長職務上其ノ管内巡視ヲ要スルトキハ憲兵隊長ノ認可ヲ受クルモノトス

第十條 副官ハ長官ノ命ヲ承ケ文書ノ審査、起案ヲ掌リ、應印及圖書ヲ管守シ其ノ他一切ノ庶務ニ服ス

第十一條 書記ハ副官ノ命ヲ承ケ文書ノ淨寫發送保存繕納及法令書類ノ訂正加除並諸物品ノ請求受授監視等ノ事務ニ服ス

第十二條 主計ハ憲兵司令部附ノ者ニ在リテハ司令官、憲兵隊附ノ者ニ在リテハ隊長ノ命ヲ承ケ會計經理ノ事項ヲ掌ル

第十三條 蹄鐵工長ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ裝蹄剔毛其ノ他馬ノ衛生ニ關スル業務ニ服ス

第十四條 憲兵班長ハ分隊長ノ指揮ヲ承ケ勤務ニ服シ且部下下士上等兵ヲ指揮監督ス

第十五條 憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ヲ觀察シ其ノ法規ニ違ヒ、態度ヲ失ヒ又ハ體面ヲ汚ス等ノ行爲ヲ認メタルトキハ現役軍人及軍屬ニ在リテハ本人所屬ノ上官ニ告知シ在郷軍人ニ在リテハ本人所轄ノ師團長、警備隊司令官、聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ告知スヘシ若シ其ノ行爲ニシテ看過シ難キトキ同級者以下ニ在リテハ直ニ之ヲ矯正シ上級者ニ在リテハ其ノ非違ノ行爲ナルコトヲ注意シ尙必要アルトキハ所屬部隊號官等級氏名ヲ開取リ其ノ顛末ヲ前記ノ諸官ニ告知スヘシ

第十六條 憲兵ハ在郷軍人ノ狀態ヲ知悉スルコトニ勉メ必要ト認メタル事項ハ之ヲ師團長、警備

隊司令官、聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報スヘシ

第十七條 憲兵ハ上官ノ命アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ定規ノ服裝ヲ爲サシテ勤務ヲ執ルコトヲ得

第十八條 憲兵ハ地方ノ狀況ヲ知悉シ必要ト認メタル事項ハ之ヲ東京衛戍總督、衛戍司令官、要塞司令官、警備隊司令官ニ通報スヘシ

第十九條 憲兵司令官ハ憲兵服務細則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○海軍省達第百十六號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十三年九月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三十五條ノ二 海軍大學校甲種學生卒業者徽章、艦砲射擊優等徽章、魚形水雷發射優等徽章、通信術優等徽章、汽機優等徽章、汽機優等徽章、艦砲射擊優等章、魚形水雷照準手優等章、通信術優等章、小銃射擊優等章、汽機優等章及潛水艇修業徽章ハ第三十四條ノ規定ニ準シ上衣ノ右乳部ニ佩フヘシ但シ艦砲射擊優等徽章以下二箇以上ニ併用スルモノハ本條記載ノ順序ニ内方ヨリ外方ヘ一列ニ佩スルモノトス

○海軍省達第百十七號

海軍人事部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十三年九月七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條中「豫備役後備役」ノ下ニ「歸休」ヲ加フ  
第七條中「順序」ヲ經テ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ第一表第二表第六表及第七表ハ機密文書ノ取扱トシ「機密文書」ノ取扱トシ「順序」ヲ經テ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ第一表第二表及第五表乃至第

八表ハニ改メ又人事部定期進達諸表第五表ヲ「證書證狀」（後等章）善行章所有者及練習生調ニ改メ第八表ヲ「兵曹長同相當官准士官現狀月表」ニ改メ第一表乃至第五表及第八表ヲ別表ノ通改ム（別表略ス）

○海軍省達第百十八號

明治四十二年三月達第二十六號海軍用火藥火工品貯藏及取扱規則中左ノ通追加改正ス

明治四十三年九月九日

海軍大臣 男爵齋藤實

第四十九條中「種目、口分ケ毎ニ區分シ」ヲ「其ノ種類毎ニ區分シ」ニ改ム  
第五十二條ヲ第五十二條ノニ改メ左ノ一條ヲ追加ス  
第五十二條 無煙火藥ノ消耗ハ安定度比較的低キモノ又ハ海水ニ浸サレタルモノ等ヲ先ニスヘシ又安定度同一ノモノニシテ製造年月ヲ異ニスルモノハ其ノ舊キモノヲ先ニスヘシ  
第五十八條中「場所ニテ乾燥セシムヘシ」ヲ「場所ニテ乾燥シタル後速ニ貯藏検査ヲ施行シ且銀燭時間ノ如何ニ拘ラス別口トシテ貯藏スヘシ」ニ改ム

第六十二條ヲ左ノ如ク改ム

第六十二條 銀燭時間ノ長短ニ依リ同一種目ノ火藥ヲ區別スルニハ在庫品タルト艦船供用品タルトニ關セス左ノ如キ口分ケトシテ貯藏スルモノトス

尋常紐狀火藥

一、銀燭時間 二百時間以上  
二百五十時間未満

二、銀燭時間 二百五十時間以上ハ各百時間ヲ増ス毎ニ各一口

M.D. 無煙火藥

一、銀燭時間 四百時間以上  
五百時間未満

二、銀燭時間 五百時間以上ハ各百時間ヲ増ス毎ニ各一口

二、銀燭時間五百時間以上ハ各二百時間ヲ増ス毎ニ各一口

耐熱時間ノ多少ニ依リ同一種目ノ火藥ヲ區別スルニハ在庫品タルト艦船供用品タルトニ關セス耐熱時間各一分毎ニ口分ケトシテ貯藏スルモノトス但シ無煙火藥貯藏検査規則ニ依リ銀瓶試驗ヲ施行セサル火藥ニ對シテモ事情ノ許ス限り可成銀燭試驗ヲ施行シ前項ノ如ク口分ケスルヲ可トス

（口分ケト稱スルハ同時期ニ施行シタル銀燭時間ノ長短若ハ耐熱時間ノ多少ニ依リ同一種目ノ火藥ヲ區分スルヲ云フ）

但シ銀燭時間若ハ耐熱時間同一ナルモ異リタル場所ニ貯藏シタルモノニ對シテハ新ニ試驗ヲ爲シテ口分ケヲ定ムル迄之ヲ別口トシテ貯藏シ置クモノトス）

○海軍省達第百十九號

海軍病院規則左ノ通改正ス

明治四十三年九月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍病院規則

第一條 院長ハ部下諸員ノ職務ヲ監督シ之ニ分課ヲ命スヘシ

院長ハ病院附軍醫官、藥劑官ニ分課ヲ命シタルトキハ之ヲ報告スヘシ

第二條 院長ハ其ノ院ノ内規及日課表ヲ制定シ所屬長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第三條 院長ハ部下諸員ノ性行技能及服務ノ狀況ヲ詳知シ其ノ學術技能ヲ發達セシムルコトヲ圖ルヘシ

第四條 院長ハ緊急呼集、火災等ニ關スル部署ヲ定メ時々其ノ操練ヲ行ヒ部下諸員ヲシテ之ニ習熟セシムヘシ

第五條 院長ハ院內諸建築物ノ保存ニ注意シ其ノ増築改造修繕等ヲ要スルトキハ之ヲ所屬長官ニ

具申シ又醫務局長ニ報告スヘシ

第六條 院長ハ院内一般ノ衛生ニ注意シ各主務者ヲ從ヘ時々院内ヲ巡檢シ病室共ノ他各部整頓ノ狀況ヲ點檢スヘシ

第七條 院長ハ備品ノ保存及貯藏ノ方法ニ注意シ藥品及消耗品ノ節約ヲ圖ルヘシ

第八條 院長ハ入院患者中現役者ハ兵役ニ堪ヘ難シト認ムル者アルトキハ診斷證書ヲ添ヘ之ヲ所屬長官ニ具申スヘシ

第九條 院長ハ院内下士卒中傳染性生殖器病ニ罹リタル者アルトキハ病中ハ勿論癒後七日間外出ヲ止ムヘシ

第十條 院長ハ死狀疑義ニ涉リ局處剖驗ヲ要スル者アルトキハ規定ノ手續ヲ經テ之ヲ施行シ其ノ剖驗記事ヲ所屬長官及醫務局長ニ提出スヘシ但シ刑事ニ關係ノ嫌疑アルトキハ主理立會ノ上執行スヘシ

第十一條 院長ハ汽機及汽機ノ保存、檢査、修理及改造等ニ關シ技術上ノ意見ヲ要スルトキハ所屬長官ニ具申シ同官ノ指定シタル機關官若ハ造船官ノ意見ヲ求メテ處理シ又陸上艦定期水壓試驗並續通試驗規則ニ依リ汽機ノ試驗ヲ行フヘシ

第十二條 院長ハ軍醫少監及大軍醫ヲシテ交番當直ノ勤務ニ服セシメ之ヲ當直軍醫官ト稱シ其ノ規定ニ依リ院務ヲ處理セシメ又中軍醫及少軍醫ヲシテ交番當直ノ勤務ニ服セシメ之ヲ副直軍醫官ト稱シ當直軍醫官ノ命ヲ承ケ服務セシムヘシ

第十三條 院長ハ當直軍醫官ノ任ニ當ルヘキ者三名ニ滿タサルトキハ其ノ數ニ達スル迄軍醫中監、中軍醫及少軍醫ヲシテ當直軍醫官ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 院長ハ副直軍醫官ノ任ニ當ルヘキ者三名ニ滿タサルトキハ其ノ不足數ニ對スル副直官ハ之ヲ缺キ或ハ少軍醫候補生ヲ以テ之ニ當ラシムルコトヲ得

第十五條 院長ハ藥劑官ヲシテ各公暇日ニ交番出勤シ調劑ニ關スルコトヲ處理セシメ又必要アルトキハ宿直ヲ爲サシムヘシ

第十六條 副長ハ常ニ院内全般ノ事項ニ注意シ院務ノ整頓ヲ圖リ院長不在ノトキハ其ノ代理ヲ爲スヘシ

第十七條 副長ハ院内諸員ノ服務現況ニ注意シ其ノ性行技能ヲ詳知スヘシ

第十八條 副長ハ院長ノ命ヲ承ケ定員下士卒ノ配置ヲ掌リ又定員下士卒及五等卒ノ教育ヲ統轄スヘシ

第十九條 副長ハ毎日醫事日誌病室日報ヲ調査シ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第二十條 副長ハ毎週一回院内諸部ヲ點檢シ酒掃通氣共ノ他衛生上ノ實況並建築物、備付治療品、被服、糧食、通常物品ノ保管補充使用ノ適否等ヲ視察スヘシ

第二十一條 第一部ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一 外科(眼科、耳鼻咽喉科、皮膚病、花柳病ヲ含ム)患者ノ診療及之ニ關スル事務

二 手術室、X光線室及寫真室ノ整頓

第二十二條 第二部ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一 内科(傳染病、精神病ヲ含ム)患者ノ診療及之ニ關スル事務

二 細菌學的及病理學的檢査

三 消毒作業(消毒所ニ於ケル作業ヲ除ク)

四 病の檢査室、消毒室ノ整頓

五 醫務ニ關スル統計報告

第二十三條 藥劑科ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一 艦團共ノ他各部用治療品ノ購買準備保管供給賣却出納修理及運搬ニ關スルコト

- 二 供用定備療用品ノ調査
- 三 病院及所在各廳ノ患者費ニ屬スル通常物品ノ保管出納ニ關スルコト
- 四 病院用治療品ノ保管受拂ニ關スルコト
- 五 調劑及製煉ニ關スルコト
- 六 藥品、療用品、飲食物、食器、被服地等ノ理化學的検査
- 第二十四條 看護術練習所ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十五條 消毒所ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
  - 一 艦船其ノ他ノ大消毒
  - 二 所屬病室ニ收容シタル患者ノ診療
- 第二十六條 部長、科長及所長ハ配屬セラレタル軍醫官、藥劑官以下ノ性行技能ヲ詳知シ學術技能ノ進歩ヲ圖リ分掌ヲ指定シ之ヲ指揮シテ其ノ所掌事項ヲ處理スヘシ
- 第二十七條 部長、科長及所長ハ所屬看護手看護ノ考課表及勤務報告ヲ査閱シ之ニ意見ヲ記入シ副長ヲ經テ院長ニ提出シ且其ノ黜陟進退ノ議ニ參與スヘシ
- 第二十八條 部長、科長及所長ハ毎月擔任各部備付ノ治療品及通常物品ヲ調査シ其ノ保存補充ニ注意スヘシ
- 第二十九條 部長ハ擔任患者中現役或ハ兵役ニ堪ヘ難シト認ムル者アルトキハ之ヲ院長ニ開申シ其ノ命ヲ承ケ診斷證書ヲ起案スヘシ
- 第三十條 部長ハ擔任患者中病症危篤ニ陥ル者アルトキハ之ヲ院長ニ開申シ又之ヲ患者ノ所屬艦團其ノ他各部ニ通報スヘシ
- 第三十一條 部長ハ擔任患者中轉病スル者アリテ軍醫官服務規則第十八條ノ種別ニ異動ヲ生スルトキハ速ニ之ヲ患者所屬ノ艦團其ノ他各部ニ通報スヘシ

- 第三十二條 部長ハ患者日誌、處方錄、疾病要略ヲ調査スヘシ
- 第三十三條 第二部長ハ傳染病患者ノ診定ヲ爲シタルトキハ診定報告ヲ調製シ院長ニ提出スヘシ
- 第三十四條 藥劑科長ハ施行シタル検査ノ成績書及物品検査成績年報ヲ調製シ院長ニ提出スヘシ
- 第三十五條 當直軍醫官ハ左ノ事項ヲ處理スヘシ
  - 一 日課ノ施行
  - 二 外來事務ヲ接受シ各主務者ニ傳達スルコト
  - 三 院内巡檢下士卒點檢並糧食品及食餌ノ點檢
  - 四 面會人ニ關スルコト
  - 五 醫事日誌及病室日報ノ記入
  - 六 患者入退院ニ關スルコト
  - 七 退院時間後ニ於ケル入院患者ノ臨時診察
  - 八 院内警察
- 第三十六條 當直軍醫官ハ退院時間後ハ院内全般ノコトニ注意シ至急常規外ノ處置ヲ要スルコトアルトキハ速ニ院長若ハ副長ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ但シ急遽ニシテ指揮ヲ受クルニ違ナキトキハ適宜之ヲ處置シ後報告スルコトヲ得
- 第三十七條 當直軍醫官ハ退院時間後ニ於テ入院患者中ニ至急手術其ノ他重大ノ處置ヲ要スルト認ムル者アルトキハ速ニ之ヲ部長ニ報告スヘシ
- 第三十八條 副直軍醫官ハ當直軍醫官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助スヘシ
- 第三十九條 軍醫官ハ各病室ヲ分擔シ配置下士卒ヲ統御シ在室患者ノ診療ニ從事スヘシ
- 第四十條 軍醫官ハ毎日定時ニ分擔病室ノ患者ヲ迴診シ患者日誌處方錄等ヲ正確ニ記入整理スヘシ

第四十一條 軍醫官ハ分擔病室ヲ院長若ハ部長廻診スル際ハ之ニ隨從スヘシ

第四十二條 軍醫官ハ分擔ノ病室ニ新入患者アルトキハ速ニ之ヲ診察シ其ノ狀況ヲ部長ニ報告スヘシ

第四十三條 軍醫官ハ分擔患者中病症危篤ニ陥リ或ハ至急手術ヲ要スル者アルトキハ速ニ之ヲ部長ニ報告スヘシ

第四十四條 軍醫官ハ分擔病室ノ衛生ニ注意シ換氣煖室、酒桶、消毒等ノ施行ヲ監督シ又病室備付治療品及通常物品ノ保存、消耗品ノ節約ニ注意スヘシ

第四十五條 軍醫官ハ分擔患者ニ係ル書類ヲ起案、調製、整頓スヘシ

第四十六條 軍醫官病の検査主任ヲ命セラレタルトキハ細菌學的及病理學的検査ニ從事シ其ノ成績ノ正確ヲ期シ又病的検査室ヲ整頓スヘシ

第四十七條 軍醫官統計報告主任ヲ命セラレタルトキハ所屬看護手看護ヲ指揮シテ醫務ニ關スル統計報告書類ヲ起案、調製スヘシ

第四十八條 軍醫官外來診察主任ヲ命セラレタルトキハ院内下士卒及外來患者ノ診療ヲ掌リ且之ニ關スル醫務ヲ處理スヘシ

第四十九條 軍醫官消毒所附ヲ命セラレタルトキハ消毒所長ノ指揮ニ從ヒ消毒所所掌ノ事項ヲ分擔スヘシ

第五十條 少軍醫候補生ハ院長ノ命ヲ承ケ軍醫官ノ助手ト爲リ其ノ業務ヲ實習シ學術ヲ研究スヘシ

第五十一條 少軍醫候補生ハ交番當直勤務ニ服シ當直軍醫官ノ事務ヲ實習スヘシ

第五十二條 藥劑官治療品供給掛ヲ命セラレタルトキハ藥劑科長ノ指揮ニ從ヒ總圖其ノ他各部用治療品及患者費所屬通常物品ニ關スル事務ヲ分掌シ又藥劑科所屬雇員備入ノ業務ヲ監督シ治療

品倉庫及研藥室ヲ整頓スヘシ

第五十三條 藥劑官試驗主任ヲ命セラレタルトキハ藥劑科長ノ指揮ニ從ヒ藥品其ノ他ノ検査ニ從事シ成績ノ正確ヲ期シ又試驗室ヲ整頓スヘシ

第五十四條 藥劑官藥局主任ヲ命セラレタルトキハ藥劑科長ノ指揮ニ從ヒ調劑製煉其ノ他病院用治療品ノ保管受拂ニ關スル事務ヲ分掌シ調劑室同附屬室ヲ整頓スヘシ

第五十五條 少藥劑士候補生ハ院長ノ命ヲ承ケ藥劑官ノ助手ト爲リ其ノ業務ヲ實習シ學術ヲ研究スヘシ

第五十六條 軍醫官及藥劑官ハ所屬看護手以下ヲ誘掖指導シ其ノ性行技能ヲ詳知シ勳陞進退ニ關シテハ案ヲ具シ部長科長若ハ所長ニ提出シ且其ノ職ニ參與スルモノトス

第五十七條 看護長(看護師)ハ上官ノ命ヲ承ケ定員看護手看護及雇員備入(藥劑科及上等筆記所屬ノ者ヲ除ク)ノ業務行動ヲ監督シ其ノ性行技能ヲ詳知スヘシ

第五十八條 看護長(看護師)ハ定員看護手、看護、雇員備入(藥劑科及上等筆記所屬ノ者ヲ除ク)及入院下士以下患者ヨリ差出ス諸願届ノ進達ヲ取扱フヘシ

第五十九條 看護長(看護師)ハ副長ノ命ヲ承ケ共同浴室、汽罐室、死體室及汚物燒却場ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第六十條 看護長(看護師)ハ第二部長ノ命ヲ承ケ消毒室ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第六十一條 看護長(看護師)ハ副長ノ命ヲ承ケ兵舍内ノ整頓ニ注意スヘシ

第六十二條 看護長(看護師)ハ上官ノ命ヲ承ケ病室消毒室及汽罐室ノ通常物品ニ關スルコトヲ掌リ消耗品ノ節約ヲ圖ルヘシ

第六十三條 看護長(看護師)ハ副長ノ命ヲ承ケ入院患者ノ衣履及私有物品ノ取扱ヲ爲スヘシ

第六十四條 看護長(看護師)ハ毎日一回以上院内各部ヲ巡視シ諸建築物ノ保存ニ注意シ若シ修理



ヲ要スルト認ムルモノアルトキハ之ヲ副長ニ開申スヘシ

第六十五條 看護長(看護師)藥劑科附ヲ命セラレタルトキハ藥劑科長ノ命ヲ承ケ治療品ノ購買賣却供給及患者費支辨通常物品ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第六十六條 看護長(看護師)消毒所附ヲ命セラレタルトキハ消毒所長ノ命ヲ承ケ所屬ノ下士以下ヲ指揮シテ消毒ノ實務ニ從事シ又備付通常物品ニ關スルコトヲ掌リ消耗品ノ節約ヲ圖ルヘシ

第六十七條 上等筆記ハ上官ノ命ヲ承ケ被服糧食其ノ他給與ニ關スルコトヲ掌リ筆記、廚宰、洗濯夫、賄夫ノ業務行動ヲ監督シ其ノ性行技能ヲ詳知スヘシ

第六十八條 上等筆記ハ副長ノ命ヲ承ケ賄所及洗濯所ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第六十九條 先任看護手ハ看護長(看護師)ヲ補佐シ下士卒ノ業務行動ヲ監督スヘシ

第七十條 看護手病室長ヲ命セラレタルトキハ上官ノ命ヲ承ケ看護ヲ指揮シテ患者ノ看護及室内ノ洒掃、燻室、通氣、消毒等ニ從事シ備付ノ治療品通常物品ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

第七十一條 看護手病室長タルトキハ病室ニ出入スル面會者等ノ携帶品ノ検査其ノ他ノ取締ニ任シ在室患者ニ犯則者アルトキハ其ノ事實ヲ軍醫官ニ届出ツヘシ

第七十二條 看護手藥劑科、消毒所共ノ他ニ配置セラレタルトキハ各上官ノ命ヲ承ケ看護ヲ指揮シテ各其ノ業務ニ從事スヘシ

第七十三條 看護ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ業務ニ從事スヘシ

第七十四條 筆記ハ上官ノ命ヲ受ケ庶務ヲ補助スヘシ

第七十五條 筆記ハ上等筆記ノ指揮ヲ承ケ被服物品及給與ニ關スル事務ヲ分擔スヘシ

第七十六條 廚宰ハ上等筆記ノ指揮ヲ承ケ糧食ノ受入調理獻立ヲ分擔シ賄夫ヲ指揮シテ炊爨配給ヲ處辨スヘシ

第七十七條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ文書ノ起草淨書發送等ノ庶務及廳費支辨通常物品ニ關スルコトヲ掌ルヘシ

○海軍省連第百二十號

明治三十六年十一月連第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通改正ス

明治四十三年九月十五日

海軍大臣 男齋藤實

一品名ノ欄、鎮守府所在各廳患者費所屬物品ノ項會計官吏中「療品庫主管」ヲ「藥劑科長」ニ改ム

○海軍省連第百二十一號

海軍兵備品會計規程第三條兵備品出納命令官會計官吏區分表中左ノ通改正ス

明治四十三年九月十五日

海軍大臣 男齋藤實

一品名ノ欄「軍事教育圖書」ノ項兵備品取扱主任中「先任將校分隊長」ヲ「專務將校分隊長中首席者」ニ改ム

一同上「治療品」ノ項兵備品會計官吏中「療品庫主管」ヲ「藥劑科長」ニ兵備品取扱主任中「病院先任藥劑官」ヲ「藥劑科長」ニ改ム

一、備考ニ左ノ一項ヲ加フ

軍事教育圖書ノ兵備品取扱主任ニ專務將校分隊長ナキトキハ兼務將校分隊長中首席者ヲ以テ之ニ充ツ

○海軍省達第百二十一號  
艦營用品經理規程別表第二號艦營用品直買品名表中鹽化カルシウムノ小書「製氷機用」ノ四字ヲ削ル

明治四十三年九月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十三號

橫須賀鎮守府在籍  
驅逐艦 電

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

明治四十三年九月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十四號

艦艇類別等級別表中「電」ヲ削ル

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十五號

艦砲射擊魚形水雷艇射通術及機關高力運轉優賞授與手續左ノ通定ム

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年九月十六日

艦砲射擊魚形水雷艇射通術及機關高力運轉優賞授與手續

第一條 艦砲射擊優賞令施行規則、魚形水雷艇射通術優賞令施行規則、通信術優賞令施行規則及機關高力運轉優賞令施行規則ニ依リ優賞ヲ授與スルトキハ本手續ニ依ルム

第二條 檢定射擊、檢定發射、各箇信號(電信)術檢定及檢定汽釀優賞授與式ハ陸上適宜ノ場所ニ在リテハニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第三條 檢定射擊優賞授與式ニハ左記第一號、檢定發射優賞授與式ニハ第二號、各箇信號(電信)術檢定優賞授與式ニハ第三號、檢定汽釀優賞授與式ニハ第四號ノ諸官適宜之ニ參會スルモノトス

一、在港各艦團部隊長各艦砲術長砲臺長驅逐艦長水雷艇長及檢定射擊委員

二、在港各艦團部隊長各艦水雷長驅逐艦長水雷艇長及檢定發射委員

三、在港各艦團部隊長各艦航海長(水雷長)驅逐艦長水雷艇長及各箇通信術檢定委員

四、在港各艦團部隊長並機關長驅逐艦長水雷艇長驅逐艦隊機關官及檢定汽釀委員

第四條 毎年度ノ戰術射擊、戰術發射、一般通信術檢定若ハ戰術運轉ヲ結了シ優等艦艇隊決定セハ海軍大臣之ヲ部内一般ニ公示ス

第五條 優等艦艇隊ノ現所屬長官ハ優勝旗ヲ海軍大臣ヨリ受領シ其ノ授與式日ヲ定メ海軍大臣ニ報告シ應下一般ニ公示スルモノトス

第六條 優勝旗授與式ハ軍艦ニ在リテハ其ノ艦ニ於テ、驅逐艦以下ニ在リテハ要港部水雷團若ハ所屬母艦ハ其ノ統率セル司令官ノ旗艦ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第七條 優勝旗授與式ニハ時宜ニ依リ海軍大臣海軍教育本部長參列シ艦砲射擊優勝旗授與ノ場合ニ在リテハ左記第一號、魚形水雷艇射通術優勝旗授與ノ場合ニ在リテハ第二號、通信術優勝旗授與ノ場合ニ在リテハ第三號、機關高力運轉優勝旗授與ノ場合ニ在リテハ第四號ノ諸官適宜之ニ參會スルモノトス

一、在港各艦團部隊長各艦砲術長驅逐艦長水雷艇長及戰術射擊委員

二、在港各艦團部隊長各艦水雷長驅逐艦長水雷艇長及戰術發射委員

三、在港各艦團部隊長各艦航海長水雷長驅逐艦長及一般通信術檢定委員

四、在港各艦團部隊長並機關長驅逐艦長水雷艇長驅逐隊機關官及戰團運轉委員

優等艦ノ乗員ハ總員共ノ式場ニ整列スルモノトス驅逐艦水雷艇ニ在リテハ差支ナキ限リ其ノ乗員ヲ式場ニ列セシムヘキモノトス

第八條 優勝旗ハ所屬長官自ラ之ヲ優等艦艇長若ハ司令ニ授與スルモノトス

第九條 式場ノ設備ハ別紙圖例第一及第二ニ依ルヘシ但シ必要ナルトキハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得(圖例參看)

第十條 本手續ニ依ル各授與式ノ服裝ハ通常禮服トス

第十一條 優勝旗ヲ得タル艦艇隊ノ乗員ニハ各自一日ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十二條 褒狀ノミヲ授與スルトキハ適宜本手續ヲ省略スルコトヲ得

第十三條 次期ノ戰團射擊、戰團發射、一般通信術檢定若ハ戰團運轉ノ優等艦艇隊決定シタルトキ現ニ優勝旗ヲ保有シアル艦艇隊ハ再ヒ其ノ優等艦艇隊タルト否トニ拘ラス之ヲ所屬長官ニ返納スヘシ次期ノ戰團射擊、戰團發射、一般通信術檢定及戰團運轉ヲ施行セサルトキ亦同シ但シ其ノ返納期日ハ所屬長官之ヲ指定スルモノトス

第十四條 各種檢定獲賞ヲ授與スルニ當リ受賞者或ハ其ノ乘艦他所管ニ轉屬シアル場合ニ在リテハ之ヲ新所屬長官ニ移牒スヘシ

附則

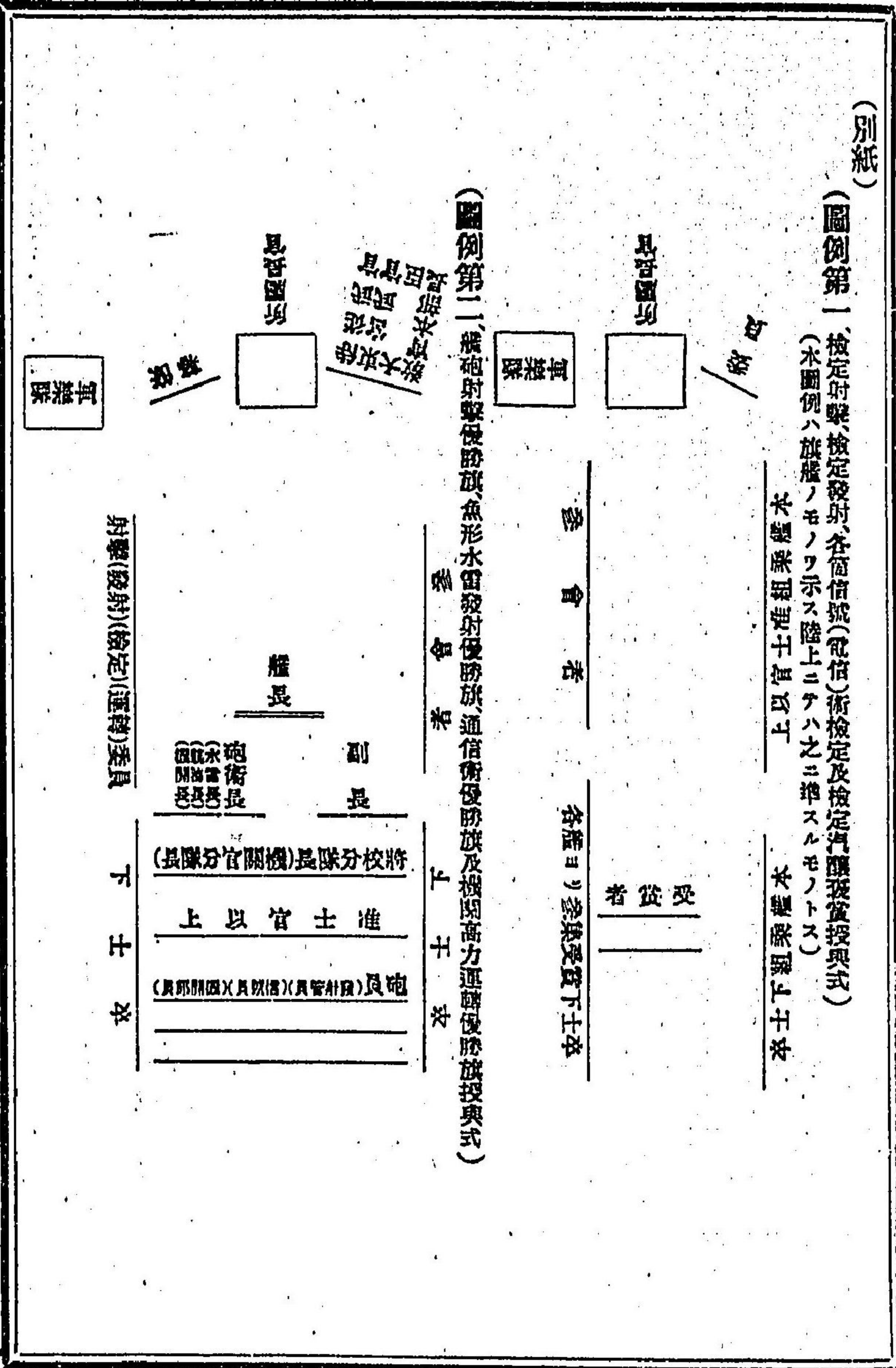
艦砲射擊及魚形水雷發射獲賞授與手續ハ之ヲ廢止ス

(別紙)

(圖例第一) 檢定射擊、檢定發射、各箇信號(電信)術檢定及檢定汽機獲賞授與式

(本圖例ハ旗艦ノモノヲ示ス陸上ニテハ之ニ準スルモノトス)

本艦隊組長十位以上 本艦隊副長十位



○海軍省達第百二十六號

水路測量ノ爲内地沿岸へ出張スル者ニ支給スル旅費ノ日當、宿泊料及食卓料別表ノ通定

明治四十三年九月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

本達ハ明治四十三年九月十六日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

官 等	日 當		宿 泊 料		食卓料
	甲 額	乙 額	甲 額	乙 額	
上長官、士官、高等文官三等以下	一圓五十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓五十錢	一圓
候補生	一圓二十錢	九 十 錢	一圓五十錢	一圓三十錢	九 十 錢
准士官	八 十 錢	七 十 錢	一圓二十錢	一 圓	七 十 錢
下士官見習	六 十 錢	五 十 錢	八 十 錢	七 十 錢	六 十 錢
雇員、傭人	五 十 錢	四 十 錢	六 十 錢	五 十 錢	五 十 錢

備考  
 日當及宿泊料ハ測量地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄之ヲ支給ス但シ艦船乗員測量地ニ於テ本艦ヲ離レ測量ニ從事スルトキハ其ノ日ヨリ歸艦船ノ日(即チ前日)迄本表ノ額ニ依ル  
 食卓料ハ艦船附屬又ハ官用ノ船艇ニテ測量ニ從事シ該船艇内ニ起居スル場合ニ限リ其ノ夜數ニ應ジ之ヲ支給ス  
 艦船乗員測量ノ爲出張シ一日内ニ往復スル場合ニ於テ水路三十海里以上ニ及フトキハ日當ノ半額ヲ支給ス  
 北海道千島沿岸ノ測量ニ從事スル者ニハ甲額ヲ支給シ其ノ他ノ地ノ測量ニ從事スル者ニハ乙額ヲ支給ス

○海軍省達第百二十七號

明治三十七年三月達第五十三號患者依託治療及收療ニ關スル件第三條中「及艦營備人」ヲ「艦營備人及關東州ニ派遣中ノ職工人夫」ニ改ム

明治四十三年九月十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百二十八號

海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改ム

明治四十三年九月二十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條 削除

第六條ノ二乃至第六條ノ四中「水雷敷設隊」ヲ「敷設隊」ニ改ム

第八條中「兵事官」ヲ「人事部長」ニ改ム

第十一條 下士卒ニハ命課ノ辭令書ヲ下付セサルモノトス但シ一等下士ニ准士官職務心得ヲ命免スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 削除

第十三條 削除

第十四條 艦團其ノ他各部ノ長ハ現役又ハ兵役ヲ免セラルヘキ部下下士卒ヲ海兵團ニ入團セシムルニ際シ服役中ノ成績良好ト認ムル者アルトキハ別紙様式ニ依リ服役成績書ニ通テ調製シ海兵團長ヲ經テ一通ハ現役ヲ退クドキ之ヲ本人ニ下付シ他ノ一通ハ在籍鎮守府ノ人事部長ニ送付スヘシ但シ人事部長ニ送付スル服役成績書ニハ之ヲ調製シタル理由ヲ添記スヘシ

第十四條ノ二 海兵團長ハ前條ニ依リ入團シタル下士卒ニシテ在團中ノ服務狀況ニ鑑ミ服役成績書ヲ下付スル資格ナキ者ト認ムルトキハ之ヲ調製シタル前所轄長ニ協議シ本人ニ下付セサルコ

トヲ得

第十四條ノ三 海兵團長ハ在來ノ部下下士卒ニシテ現役ヲ退クニ當リ服役成績書ヲ下付スヘキ者アルトキハ第十四條ヲ準用スヘシ

第十六條中「海軍下士卒服役條例第三十八條」ヲ「海軍下士卒服役條例第四十二條」ニ改メ「兵事官ヨリ地方廳ヲ經テ」ヲ「人事部長ヨリ」ニ改ム

第十七條中「海軍下士卒服役條例第十六條」ヲ「海軍下士卒服役條例第二十三條」ニ改ム

第十八條 削除

第二十條 海兵團長ハ補缺員タル下士卒中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ニシテ海軍下士卒服役條例第二十六條又ハ第三十二條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ具申スヘシ

第二十一條 歸休下士卒ノ兵籍ハ海軍志願兵徵募區ノ區分ニ從ヒ其本籍地ヲ管スル鎮守府ニ屬セシム

再服役承認人員關様式及伎倆證明書様式削除

服役成績書様式左ノ通改正ス

服役成績書様式(用紙美濃半葉紙)

服役成績書

族籍

官(職)位勲 氏

名

年月生

職官階 氏

名國

右現役中品行方正ニシテ何ヤノ職務ニ從事シ技能熟達ノ者ト認ム  
年月日

〔參照〕

海軍省達九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録

第三條 鎮守府兵事官ハ別紙様式ニ依リ毎月一日其ノ前月中ニ再服役許可承認ヲ與ヘタル者ノ人員調ヲ作り海軍省人事局ニ報告スヘシ

第十一條 准士官ノ職務心得ヲ命スル下士卒ニハ所管長官ニ於テ辭令書ヲ下附シ其ノ他下士卒ニハ職階ノ辭令書ヲ下附セサルモノトス

第十二條 一等下士卒ニ准士官ノ職務心得ヲ命スルニハ其ノ都度何出ノ上施行シ其ノ辭令書日附ヲ届出ヘシ

第十三條 鎮守府司令長官ハ現役滿期ノ下士卒ヲ其ノ滿期ノ日ニ於テ退團セシムルヲ例トス

第十四條 艦團其ノ他各部ノ長ハ現役ヲ離ルヘキ部下下士卒若ハ兵役ヲ免セラルヘキ部下下士卒ヲ海兵團ニ入團セシムルニ際シテハ海兵團長ハ其ノ部下下士卒本件ニ該當スルトキ服役中ノ成績ヲ考査シ其ノ成績良好ノ者ナルトキハ別紙様式ニ依リ服役成績書ニ通テ作り且別ニ其ノ服役成績書ヲ作りタルニ就テ所見ヲ附シ之ヲ鎮守府兵事官ニ移スヘシ兵事官ハ其ノ一通ヲ地方廳ニ移シ其ノ家族ニ下渡方ヲ依頼シ他ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ場合ニ於テ海軍准士官下士卒官志願者取扱内規ニ依リ文官奉職志願ノ旨届出ル者アルトキハ其ノ伎倆文官ノ任務ニ適スト認メタル者ニ限リ其ノ志願ノ際ニ於テ別紙様式ニ依リ伎倆證明書ヲ作り之ヲ附與スヘシ

第十六條第二項

現役滿期ノ者及事故ニ依リ現役豫備役後備役若ハ兵役ヲ免セラレタル者又ハ海軍下士卒服役條例第三十八條ニ據リ豫備役後備役ノ服役期限ニ變更ヲ生シタル者アルトキハ本人在籍鎮守府ノ兵事官ヨリ地方廳ヲ經テ本人在籍地ノ郡市長ニ通知スヘシ所在不明トナリタル者徵兵ノ志願兵トナリタル者海軍下士卒ニ採用セラレタル者若ハ海軍准士官ニ任用セラレタル者等アルトキ亦同シ但シ現役滿期ノ者ノ通知ニハ本人ノ豫備役後備役ノ滿期日ヲ併セテ通知スヘシ

第十八條 馬公要港勤務ノ下士卒ニシテ精勤百日以上ニ互ル者交代シテ内地へ歸還スルトキハ便宜各自二十日以内ノ上陸若ハ外出ヲ許可スルコトヲ得

○海軍省達第百二十九號

海軍准士官下士卒官志願者取扱内規書式申「(下士卒ニ在リテハ該團)」ヲ「(下士卒ニ在リテハ該團)」ニ改メ同備考中「徵募官」ヲ「人事部長」ニ改ム

明治四十三年九月二十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第三百三十號  
海軍敬禮式中左ノ通改正セラル

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年九月二十九日

第二十四條 軍人 天皇ニ拜謁スルトキハ先ツ御室ノ外ニ於テ敬禮シ然ル後御室ニ入り直ニ敬禮シ更ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ終リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スヘシ但シ宮中等ニ於テ特ニ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取リ先ツ 天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ外前條ニ同シ

第二十四條ノ二 實所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フヘシ

拜禮ノ方法ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ行フ

第三十四條 削除

第三十七條ノ二 室外ニ於テ 天皇ニ奏上スルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所ニ於テ敬禮シ禮宜ノ距離ニ進ミテ奏上シ奏上終リタルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所迄退歩シテ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

前項ノ奏上中ハ特別ノ場合ノ外始終敬禮ノ姿勢ニ在ルモノトス

〔參照〕

海軍省達第六號海軍敬禮式(明治三十年一月二十五日)抄録

第二十四條 軍人 天皇ニ拜謁スルトキハ御室ニ入りタヒ敬禮シ玉座ヲ離ル、コト凡ソ六歩ノ所ニ進ミタヒ敬禮シ然ル後退去スヘシ但シ特ニ式アルトキハ此ノ限ニアラス

歩退キ御室ノ出口ニ於テ三タヒ敬禮シ然ル後退去スヘシ但シ特ニ式アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十四條 實所參拜並ニ宮中陪祭典ノ場合ニ於テ行フ敬禮其ノ他軍人拜神ノ敬禮ハ室内ノ敬禮トス

○陸達第三十九號

雇員備入給料支給規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

備給表中「名稱」欄「蹄鐵工」ヲ「蹄鐵工」ニ「病馬役夫」ヲ「看馬夫」ニ改ム

○陸達第四十號

朝鮮總督府臨時土地調查局、通信官署、醫院、營林廠、平壤鑛業所又ハ道慈惠醫院ノ職員ニ任セラレタル陸軍現役將校同相當官中將校及獸醫部將校相當官ハ陸軍省軍務局、衛生部將校相當官ハ陸軍省醫務局、經理部將校相當官ハ陸軍省經理局ノ定員外トス

明治四十三年十月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸達第四十一號

勸勉手当支給規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

別表等級ノ欄判任官ノ項中「文官六級俸以下八級俸以上」ノ下ニ「及月給四十三圓以下三十圓ヲ超ユル者」ヲ加ヘ「文官九級俸以下並月給二十五圓未滿ノ者」ヲ「文官九級俸以下又ハ月給三十圓以下ノ者」ニ改ム

○陸達第四十二號(官報十月三日)

衛戍病院分院ノ名稱及位置左ノ通定ム

明治四十二年陸達第三十六號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年十月一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

名	稱	位	置
東京第一衛戍病院	安村分院	近衛第一師團工兵大隊所在地	
東京第一衛戍病院	中野分院	電信隊及氣球隊所在地	
豐橋衛戍病院	八町分院	歩兵第十八聯隊所在地	
名古屋衛戍病院	守山分院	歩兵第三十三聯隊所在地	
大阪衛戍病院	岩屋分院	兵庫縣淡路國津名郡岩屋町	
小倉衛戍病院	田町分院	歩兵第十四聯隊所在地	
深山衛戍病院	由良分院	重砲兵第三聯隊第三大隊所在地	

〔參照〕

明治四十二年十月三日陸軍第三十六號八東京第一衛戍名古屋及小倉衛戍病院ニ分院設置ノ件ナリ

○陸軍第四十三號

明治四十一年陸軍第六號陸軍砲工學校以下學校學生入學時期中左ノ通改正ス

明治四十三年十月四日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

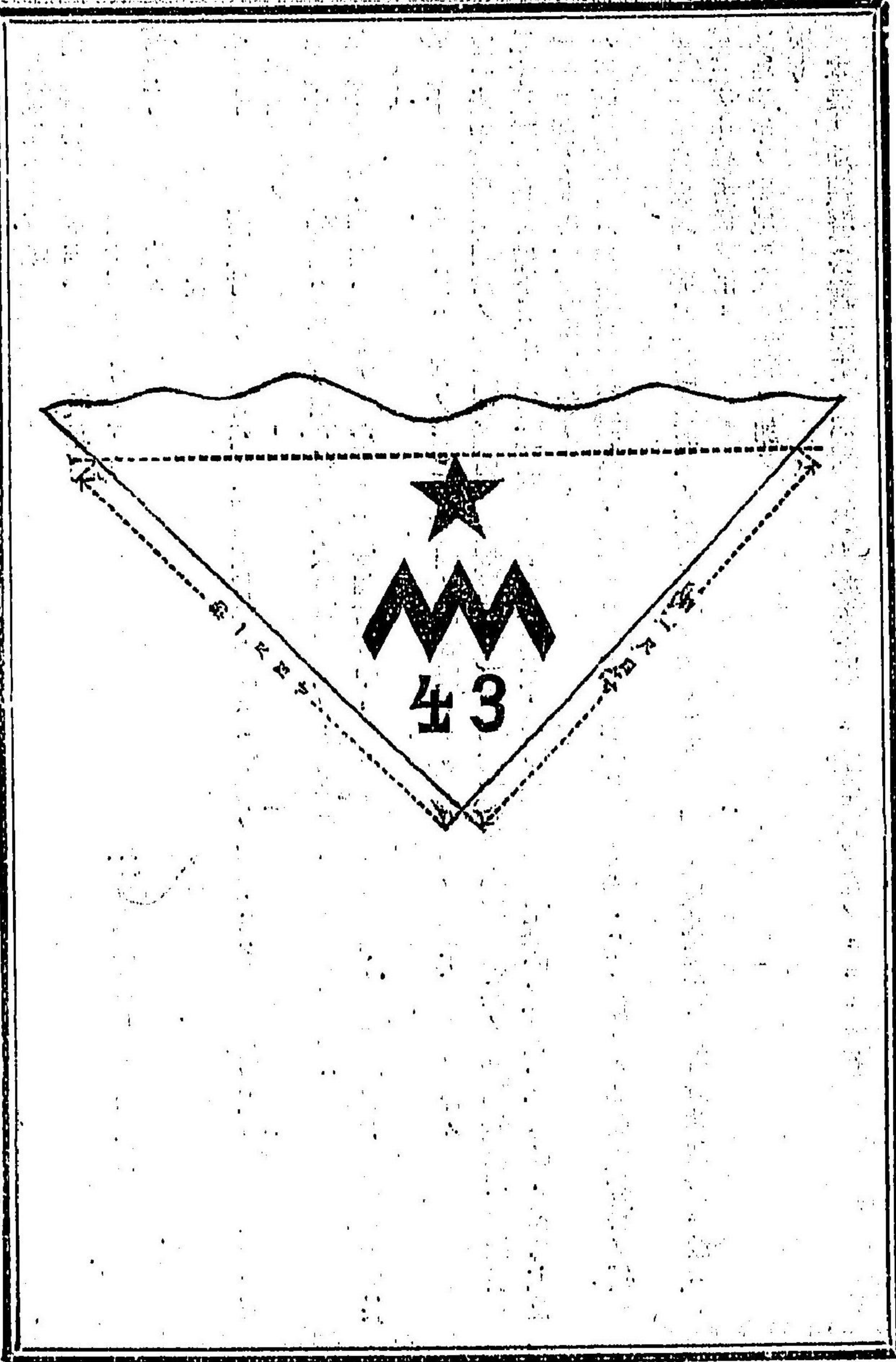
第五項中「二月上旬」ヲ「十二月上旬」ニシテ乙種學生ハ毎年六月上旬ヲ「乙種學生ハ毎年四月上旬」ニ改

○陸軍第四十四號

朝鮮樺太滿洲清國駐節部隊備用被服中厚毛布ニハ爾後補給ノ分ヨリ共ノ一隅ニ左側ノ如ク徽章及製作年次ヲ黒色ニ捺染ス

明治四十三年十月七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅



○陸運第四十五號

衛生材料取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十月十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

第八章 調査

第三十一條 衛生材料ノ制式其ノ他衛生材料ニ關スル事項ヲ調査セシムル爲衛生材料調査委員若干名ヲ置ク

第三十二條 委員ハ調査事項ニ付陸軍大臣ニ意見ヲ上申シ又ハ其ノ諮詢ニ應ス

第三十三條 委員ハ本職アル衛生部將校相當官中ヨリ之ヲ命シ委員中ノ高級故參者ヲ以テ委員長トス

第三十四條 委員長ハ職事ヲ整理シ委員ノ調査決定シタル事項ヲ陸軍大臣ニ報告ス

第一表中隊用滅菌器ノ部摘要欄内ニ「綿紗鉗子」一附屬「顯微鏡(小)」同屬具ノ部摘要欄内ニ「附表第二十三號」ヲ加ヘ備考三「中」第三十六「ハ」ノ下ニ「第三十八」ヲ加ヘ「電信大隊」ヲ「電信隊」ニ改メ備考七及

一「ヲ削リ備考一三ヲ左ノ如ク改ム

一「軍樂隊」ハ「醫療隊」一具、樺太守備隊ニハ「藥劑行李」一具、綿帶囊二具ヲ備フル外衛生材料ヲ備ヘ

第二表中風袋鍾ノ部四等衛戍病院ノ欄内「一」ヲ削リ備考三「中」柔皮止血帶ヲ「螺旋止血帶」ニ改ム

第三表中備考四ヲ削ル

第四表甲ノ末尾ニ左ノ一項ヲ加フ

備考 本表ノ外朝鮮、臺灣、關東ノ部隊ニ限リ必要ニ應シテ綿帶包ヲ備フルコトヲ得

附表第二十三號 顯微鏡(小)器具

番號	品目	稱數	員數	摘要	番號	品目	稱數	員數	摘要
一	漏斗	二			七	鐵子	二	直曲	
二	酒精燈	一			八	コルネット鐵子	三		
三	硝子洗降器	一			九	陷凹物體板	二		
四	ハトリ皿	五			一〇	蓋板	若干		
五	時計硝子	二			一一	物體板	若干		
六	液量器	一	一〇cc.		一二	白金線付硝子棒	二		
一三	硝子管	三			二一	レンレル氏液	三〇		
一四	硝子瓶	三			二二	ルゴール氏液	二〇		
一五	エーナル	一〇〇			二三	チール氏液	三〇		
一六	無水アルコール	二〇〇			二四	アニリン油	三〇		
一七	ガベツト氏液	三〇			二五	チエーデル油	一〇		
一八	トンプソン氏液	三〇			二六	バルサム瓶	一		
一九	サフランニン液	三〇			二七	キシロール	五〇		
二〇	ギームツ氏液	五							



備考  
著色紙ハ必要ニ應ジ取捨増減スルコトヲ得  
附屬品  
洗濯器 一具

○海軍省達第百三十一號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

明治四十三年十月四日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

請求票ハ之ヲ送付票ニ兼用セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ物品ヲ送付スル兵備品會計官吏ハ  
請求票ノ紙端ニ送付ノ旨ヲ記シ署名捺印シ送付票ニ代フルモノトス

第二十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十一條第二項ニ依リ請求票ヲ以テ送付票ニ兼用セシメタルトキハ領收票ハ之ヲ存置シ新ニ  
保管轉換票ヲ作製シテ其ノ手續ヲ了シ保管轉換領收票ト存置ノ領收票ト之カ引換ヲ爲スモノト  
ス

第三十三條ノ二第一項中「經理部長」ノ下ニ「東京ニ在テハ經理局長」ヲ加フ

○海軍省達第百三十二號

海軍艦船ト朝鮮總督府及臺灣總督府所屬無線電信所間ノ無線電報通信取扱ハ明治四十一年達第百  
二十九號海軍無線電報取扱規約ヲ準用ス但シ朝鮮總督府所屬無線電信所ヲ介シ海軍ヨリ發送スル  
電報ハ其ノ無線電信ニ係ル部分ノ料金ヲ無料トス

朝鮮總督府及臺灣總督府所屬無線電信所名並略符號別表ノ如シ

明治四十三年十月四日

海軍大臣 男爵齋藤實

(別表)

朝鮮總督府無線電信所略符號		臺灣總督府無線電信所略符號	
海岸局	月尾局	海岸局	富貴角
OGB		GFK	
船舶局	光崎局		
CKS			

○海軍省達第百三十三號

海軍里程表中別冊ノ通改正シ明治四十三年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ別冊ハ之ヲ要スル向  
ハ經理局ヨリ配付セシム

明治四十三年十月十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十四號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「綾波」ノ次ニ「海風」ヲ加フ

明治四十三年十月十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十五號

海軍大學校規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第八條 所轄長ハ乙種學生採用ノ告達アリタル場合ニ於テ部下將校中海軍大學校條例第十八條ニ該當スト認メタル者アルトキハ乙種學生候補者トシテ乙種學生選拔表ヲ備ヘ之ヲ所屬長官ニ推薦シ所屬長官モ亦其ノ推薦ヲ適當ナリト認メタルトキハ乙種學生候補名簿ヲ砲術水雷術航海術ノ特科別ニ調製シ乙種學生選拔表ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ

第八條ノ二ヲ第九條ニ改メ第九條全文ヲ削除ス

〔參照〕

海軍省達第四十號海軍大學校規則(明治四十年四月二十二日)抄錄

第八條 所轄長ハ乙種學生採用ノ告達アリタル場合ニ於テ部下將校中海軍大學校條例第十八條ニ該當スト認メタル者アルトキハ乙種學生候補者トシテ乙種學生選拔表ヲ備ヘ所屬長官ニ提出シ所屬長官ハ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ進達スヘシ

前項ノ選拔表中ニハ砲術水雷術若ハ航海術ノ何レノ特科將校ニ選スルヤヲ明記スルヲ要ス

第九條 專修學生中海軍省ヲ專修セシムヘキ者ハ乙種學生數額卒業者ニ就キ其ノ卒業後直ニ海軍教育本部長之ヲ選定シ其ノ人名ヲ海軍大臣ニ提出スヘシ

○海軍省達第百三十六號

海軍卒進級規則中左ノ通改ム

明治四十三年十月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第五條 卒ノ進級ニ關シ實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 四等卒ヨリ其ノ上級ニ進ムハ海上勤務四月半若ハ陸上勤務六月但シ四等水兵軍備或兵若ハ練習生又ハ學角兵若ハ喇叭前練習生ハ除ク及四等機關兵ニ在リテハ内二月ハ實際ノ海上勤務タルヲ要ス

二 二等卒又ハ三等卒ヨリ各其ノ上級ニ進ムハ海上勤務六月若ハ陸上勤務八月

第六條第二項但書ヲ削除ス

第十一條第二項割註ヲ削除ス

〔參照〕

海軍省達第七十八號海軍卒進級規則(明治二十九年九月十四日)抄錄

第五條 實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 四等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ四等水兵及四等機關兵ニ在テハ海上勤務四箇月中水雷數隊勤務ノ四等水兵ニ在テハ其ノ勤務四箇月中其ノ他ノ四等卒ニ在テハ海上勤務四箇月中若ハ陸上勤務六箇月
- 二 三等卒及二等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ海上勤務六箇月若ハ陸上勤務八箇月

第六條第二項

海上勤務ヲ陸上勤務ニ改算スルニハ海上勤務日數ニ其ノ三分ノ一ヲ加ヘ陸上勤務ヲ海上勤務ニ改算スルニハ陸上勤務日數ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減ス但シ四等水兵及四等機關兵ニ在テハ其ノ海上勤務若ハ陸上勤務ヲ互ニ改算スルコトヲ得ス

第十一條第二項

候補名簿ニ記載スル停年ハ毎ニ海上勤務水兵ニ在テハ其ノ陸上勤務ヲ以テ算スヘキモノトス

○海軍省達第百三十七號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十月十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第二十條ノ二中「臺灣總督府副官並同海軍副官」ノ次ニ「朝鮮總督專屬副官」ヲ加フ

○海軍省達第百三十八號

橫須賀海軍工廠ニ於テ製造ノ伊號戰艦ヲ河内ト命名セラル

明治四十三年十月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百三十九號

艦艇類別等級別表中戰艦ノ欄内「安藝」ヲ次ニ「河内」ヲ加フ

明治四十三年十月十五日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百四十號

海軍大學校規則第十五條ヲ左ノ通改正ス

明治四十三年十月二十日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十五條 海軍大學校學生詮衡委員ハ前條ノ書類ニ依リ審査ノ上甲種學生候補者中最終試験ヲ受

クヘキ者ヲ決定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

海軍大臣ハ最終試験ヲ受クヘキ者ヲ召集シ詮衡委員ヲシテ最終試験及ヒ身體検査ヲ行ヒ審査ノ

上決定候補名簿ヲ調製進達セシム

最終試験ハ口頭ニ依ルヲ例トスト雖召集セサル者ニ限り筆記試験ヲ以テ之ニ代フ此ノ場合ニ於

テハ所轄長ハ軍醫官ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ其ノ成績ヲ詮衡委員長ニ送附スルモノトス

〔參照〕

海軍省達第百四十號海軍大學校規則明治四十年四月二十二日(抄録)

第十五條 海軍大學校學生詮衡委員ハ前條ノ書類ニ依リ審査ノ上最終試験ヲ受クヘキ者ヲ決定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

シ海軍大臣ハ最終試験ヲ受クヘキ者ヲ召集シ詮衡委員ヲシテ最終試験及ヒ身體検査ヲ行ヒ審査ノ上決定候補名簿ヲ調製進達セシム

但シ最終試験ハ口頭ニ依ルヲ例トスト雖召集セサル者ニ限り筆記試験ヲ以テ之ニ代フ此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ軍醫官ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ其ノ成績ヲ詮衡委員長ニ送附スルモノトス

○海軍省達第百四十一號

信號術練習生及五等水兵用消耗火工品年額左ノ通定ム

明治四十三年十月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

信號術練習生及五等水兵用消耗火工品年額

品名	數稱	高等科信號術練習生	普通科信號術練習生	五等水兵
信號火筒 尾杆付	筒 二人二付	一	一人二付	四十五人二付
同 尾索付	筒 二人二付	一	一人二付	二人二付
同 用 火 筒	筒 四人二付	三	二人二付	四十五人二付
長 號 火 筒	筒 二人二付	一	二人二付	四十五人二付
短 號 火 筒	筒 二人二付	一	二人二付	二人二付
同 用 雷 筒	筒 四人二付	三	四人二付	四十五人二付
同 用 雷 筒	筒 二十人二付	〇五	十八人二付	九十八人二付
同 用 雷 筒	筒 二十人二付	二	十八人二付	二百七十人二付
同 用 雷 筒	筒 二十人二付	二	十八人二付	二百七十人二付
同 用 雷 筒	筒 二十人二付	四	十八人二付	二百七十人二付

本表ノ數ハ信號術練習生及五等水兵ノ毎修業期ニ要スルモノヲ示ス  
本表中ノ指示員數ニ充タサルモ其ノ中數ヲ超過スルトキハ指示員數ト看做ス

○海軍省達第百四十二號

艦營需品經理規程中左ノ通り改正ス

第十六條別表第二號直買品名表竹皮ノ次ニ「割箸」ヲ加フ

第二十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治四十三年十月 海軍省達第百四十二號

古品ヲ供給スル場合ハ原簿平均單價ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ以テ計算シ供給金額ヲ算出スルモノトス

第二十八條 分任兵備品會計官吏及兵備品取扱主任ハ毎年度經過後一箇月以内ニ備品消耗品受拂現況報告ヲ調製シ所管若ハ在籍鎮守府兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ送附スヘシ兵備品出納命令官ハ之ヲ調査シ七月十五日迄ニ海軍工廠長ヲ經テ艦政本部長ニ出スヘシ

明治四十三年十月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第四百二十三號  
海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

第三條別表中「港灣防禦用品艦船繫留用品」ノ項兵備品取扱主任ノ欄ニ「知港事所屬准士官」ヲ加ヘ備考第六項中「知港事所屬准士官」ニ分任兵備品會計官吏ノ下ニ「若ハ兵備品取扱主任」ヲ加フ兵備品出納受拂帳簿諸證憑用紙書式目錄備考第一ノ二項中「平均單價」ヲ刪除ス

○陸達第四十六號  
軍隊官術學校ニ於テ火工掛ヲ命スル下士ハ陸軍砲兵工科學校ニ於テ定規ノ火工術ヲ修得シタル者ニ限ル

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸達第四十七號  
陸軍各隊陣營具定數表中左ノ通改正ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

明治四十三年十一月二十二日  
(條文略ス)

○陸達第四十八號 (官報十一月二十九日)  
明治四十三年陸達第三號中左ノ通改正ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

明治四十三年十一月二十六日  
支部名稱欄中「鍛冶谷澤支部」ヲ「萩野支部」ニ、同位置欄中「宮城縣玉造郡溫泉村」ヲ「山形縣最上郡萩野村」ニ、派出部又ハ出張所名稱欄中「萩野派出部」ヲ「鍛冶谷澤派出部」ニ、同位置欄中「山形縣最上郡萩野村」ヲ「宮城縣玉造郡溫泉村」ニ、備考第二項中「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

○陸達第四十九號  
陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

明治四十三年十一月三十日  
第四十六條中「第四十二條第一ノ下」ニ「夕食時限迄ニ歸營ノ割註ヲ加フ」ヲ加フ  
第四十七條ニ左ノ一號ヲ加フ  
三 居殘勤務ヲ命セラルル者午後八時迄服務スルトキハ一食分、共ノ服務翌朝ニ及フトキハ二食分ヲ給ス但シ勸勉手當支給ノ場合ニハ之ヲ給セス

第七十三條中但書ヲ左ノ如ク改ム  
但シ乘馬本分ノ職ヲ離レタルトキハ辭令拜受ノ日、乘馬本分ノ者死亡シタルトキハ死亡ノ日ヨリ起算シ十五日以後ハ之ヲ給セス轉職又ハ飼養定數改正ノ爲飼養ヲ止ムヘキ乘馬ニ付テモ亦之ニ準メ

第七十五條ノ二中第一種馬ノ項騎兵實施學校ノ下ニ「野戰砲兵射擊學校」ヲ加ヘ第二種馬ノ項野戰砲兵射擊學校馬ヲ削リ第四種馬ノ項ヲ左ノ如ク改ム

第四種馬 前各種馬ノ區分ニ入ラサル軍馬

第十六表ヲ左ノ如ク改ム

第十六表 賄料地方區分	
第一區	第七師管
第二區	第一師管
第三區	第二、第四、第八、第十二、第十三、第十四師管
第四區	第六、第九、第十六、第十八師管
第五區	第三、第五、第十、第十一、第十五、第十七師管

備 當該師管ノ經理部長ハ地方ノ狀況ヲ酌量シ師團長ノ認可ヲ受ケ各團長地ノ賄料額ヲ定ムルコトヲ得

附則

本改正ハ明治四十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍第五十號

滿洲韓國樺太駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十三年十一月三十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

本規則中「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

第一表中賄料標準額ノ欄「二十一錢」ヲ「十八錢」ニ「二十七錢」ヲ「二十四錢」ニ改ム

附則

本改正ハ明治四十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四百四十四號

海軍無線電報取扱規則附表第一中左ノ通追加ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月一日  
緒明汽船ノ部ノ次ニ

遞信省

大成丸

○海軍省達第四百四十五號

本年達第四百四十二號別表朝鮮總督府無線電信所略符號ノ欄海岸局ノ部月尾島ノ次ニ左ノ通追加ス  
但シ小青島ハ十一月十日頃木浦ハ十二月一日頃通信開始ノ豫定

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月一日

C S S  
C M P

小青島  
木浦

〔參照〕

明治四十三年十一月海軍省達第四百三十二號ハ海軍艦船ト朝鮮總督府及臺灣總督府所屬無線電信所間ノ無線電報通信取扱

○海軍省達第百四十六號  
海軍工廠資金取扱規程中左ノ通り改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月五日

第十二條中「證憑書類ヲ添付シ其ノ都度鎮守府所在地ニ在リテハ當該海軍經理部長ノ檢査ヲ受ケテヲ削リ又第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ  
前項ニ依リ支出スヘキ一事項ノ金額五百圓ヲ超ユルモノハ鎮守府所在地ニ在リテハ仕拂傳票ニ證憑書類ヲ添付シ仕拂請求書ヲ製前當該海軍經理部長ノ檢査ヲ受ケヘシ

〔參照〕

海軍省達第三十六號海軍工廠資金取扱規程(明治三十八年三月十四日)抄録  
第十二條 會計部長ハ海軍工廠資金ノ支出ヲ支出スルニハ毎年度令示セラレタル 歳出豫算金額科目及目的ニ從ヒ作業及歳  
會計規則第十三條乃至第十七條第十九條及第二十三條ノ例ニ據リ其ノ仕拂フヘキ金額ノ仕拂傳票ヲ作り證憑書類ヲ添  
付シ其ノ都度鎮守府所在地ニ在リテハ當該海軍經理部長ノ檢査ヲ受ケタル後明治二十三年大藏省令第九號中第二十二號  
乃至第二十四號書式ニ據リ仕拂請求書ヲ作り作業及歳會計規則第十八條ノ例ニ據リ取扱フヘシ

○海軍省達第百四十七號  
鎮守府會計監督規程第四條但書中「金額二百圓以内」ノ下ニ「(工廠ニ於ケル物件ノ購買貸借運搬ニ在リテハ五百圓以内)ヲ加フ

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月五日

〔參照〕

海軍省達第百三十五號鎮守府會計監督規程(明治三十年十月十四日)抄録  
第四條 經理部長ハ各部官廳ニ於テ要スル工事購買及物件ノ賣買貸借運搬等ニ付テハ其ノ實施前ニ於テ品名數量預定價格  
及其ノ事由並ニ契約書案公告案若クハ代用書類等ヲ調査スヘシ但經理部所在地外ニ在ル各部官廳ニ於テ要スルモノ若ク  
ハ一事項ノ金額二百圓以内ノモノニ對シテハ事前調査ヲ省略スルコトヲ得

○海軍省達第百四十八號  
海軍砲術學校規則第三十三條第四號中「六箇月」ヲ「七箇月」ニ改メ來ル明治四十四年一月入校ノ練習生ヨリ之ヲ實施ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月十四日

○海軍省達第百四十九號  
定期及小演習用消耗兵器年額表ノ通定

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月十六日

(別表)

(甲) 定期及小演習用消耗兵器年額表

種 類	數		量		記 事
	門(備用第一)	每種	每數	每單位	
十二吋砲以上ノ空包	一五				
十吋砲八吋砲空包	三〇				
六吋砲四吋七砲空包	四〇				
三吋砲以下ノ空包	六〇				
小銃 空包	一五〇				
號 火	二〇				長短二種ニ等分ス但シ望遠ニハ長ノミヲ供給ス
號 火 用 雷 管	三〇				
信 號 火 筒	一五				
	二〇				
	一五				
	二〇				

同	同 用 火 管	級 火 索	魚 形 水 雷 衝 突 頭 部	魚 形 水 雷 發 射 火 雷	同 用 電 氣 火 管	同 用 擊 發 火 管	魚 形 水 雷 加 熱 裝 置 用 信 管	發 光 器	播 海 照 燈 ( 導 火 藥 罐 共 )	導 火 藥 罐	舊 古 用 小 銃 力 罐	海 中 爆 發 信 管	斷 電 路 信 管	十 五 號 爆 發 信 管	安 全 導 火 線
5	100	5							8	3	15	50		10	20
5	100	3							3		15	50	6	20	3
5	100	4							50		100	50			
10	10	3													

備 考

一、淺吃水砲艦ハ驅逐艦ニ準シ海兵團(大砲加給セシ)ハ各艦ニ、防備隊ハ數股隊ニ準ス  
 二、機雷、水雷、魚雷、水雷艇ニ在リテハ大砲及小銃用空包ヲ除キ水雷艇ノ倍數トス  
 三、大演習ニ用フル消耗兵器ハ施行ノ際別ニ之ヲ定ム  
 四、訓練上必要アリト認ムルトハ水雷艇ノ範圍内ニ於テ其ノ用途ニ使用スルコトヲ得  
 五、年度ヲ跨リ外國若ハ供給ヲ受クルニ困難ナル地ヘ航海スヘキ艦艇ニ在リテハ翌年度消耗兵器ノ前波ヲ受クルコトヲ得  
 六、水雷艇ニ配載セル品目ニ伴フ消耗兵器ハ必要ニ應ジ便宜使用スルコトヲ得  
 七、消耗兵器ノ殘餘ハ翌年度ニ持越消耗スルコトヲ得ス  
 八、衝突頭部ハ各艦艇ニ供用ノ衝突頭部用魚形水雷ニ適合スルモノヲ供給ス

(乙) 定期及小演習用消耗兵器年額表

種 類	部 隊	機雷	水雷	水雷艇	水雷艇	水雷艇	水雷艇	水雷艇	水雷艇
海底水雷	機雷隊	3							
浮深水雷	機雷隊		2						
電氣觸發水雷	機雷隊	1							
甲種機桶水雷	機雷隊	3							

備 考  
 機雷ハ在庫品ノアル限り結火藥ヲ使用スヘシ

○海軍省達第百五十號  
 明治四十一年十月達第百二十八號四季及小演習用消耗兵器年額表ヲ廢ス  
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百五十一號  
 明治四十三年十一月十六日  
 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百四十三號ヲ左ノ通り改ム  
 明治三十三年十一月二十五日  
 海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十一月 海軍省第四百十九號

各廳所屬建設物ノ内經年大破シ修補保存ノ見込ナク解毀ヲ要スルトキハ左記ノモノニ在リテハ所管長官之ヲ決行シ其ノ事由名稱數量價格等記入シ位置圖ヲ添付シ届出ヘシ

- 一 家屋
- 一 柵塀
- 一 下水幅一尺五寸以内ノモノ
- 一 門
- 一 井戸
- 一 物干
- 一 橋(長一間幅六尺以内)

○海軍省令第百五十二號  
明治三十九年十一月三日達第百四十四號ヲ左ノ通り改ム

海軍大臣 男爵齋藤實

家屋營造物ノ位置ヲ移サントシ若ハ其ノ用方ヲ變更セントスルトキハ左記ノモノニ在リテハ現形ヲ維持シテ移轉スルトキニ限り所管長官之ヲ決行シ其ノ事由名稱數量價格等記入シ位置圖ヲ添付シ届出ヘシ

- 一 家屋
- 一 電信電話電燈線(電柱共)
- 一 柵塀
- 一 下水(幅一尺五寸以内ノモノ)
- 一 水道(徑二吋以内ノモノ)
- 一 軌條
- 一 橋(長二間以内ノモノ)
- 一 物干

二十坪以内ノモノ附屬營造物共  
三十間以内  
二十間以内  
同  
同  
同

○陸軍第五十二號

軍隊經理規程左ノ通改正ス

明治四十三年十二月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

軍隊經理規程

第一章 總則

- 第一條 軍隊 憲兵隊ノ金錢糧秣被服陣營具消耗品裝蹄別毛、練習用具其他ノ物品及營繕等ニ係ル經理ハ本規程ニ依ル
- 第二條 本規程中聯隊長又ハ聯隊トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長又ハ該隊ニ該當ス  
師團長又ハ師團トアルハ朝鮮、臺灣、滿洲、清國所在ノ軍隊ニ在リテハ朝鮮駐節軍司令官、臺灣總督關東都督、清國駐屯軍司令官又ハ之ニ隸屬スル軍隊ニ該當ス
- 第三條 聯隊ノ經理ハ聯隊長之ヲ司リ其ノ整理進歩ノ責ニ任ス  
師團長ハ部下軍隊ノ經理ヲ統轄シ其ノ齊一進歩ヲ圖ル
- 第四條 被服經理ノ齊一進歩ヲ圖ル爲師團ニ被服委員ヲ置ク  
被服委員ハ經理部部長タル主計正(臺灣ニ在リテハ主計正又ハ高級主計)ヲ首座トシ同部部員若干名ヲ以テ組織シ經理部下士若干名ヲ附屬ス
- 清國駐屯軍ニ在リテハ被服委員ヲ置カス該委員ニ係ル事務ハ同軍司令部附主計正又ハ主計ヲシテ之ヲ行ハシム
- 第五條 被服委員ハ師團長之ヲ命免シ經理部長之ヲ指揮監督ス
- 委員附屬下士ハ經理部長之ヲ命免ス
- 第六條 經理委員ハ聯隊長指揮監督ノ下ニ聯隊ノ金錢、糧秣、被服、陣營具、消耗品及裝蹄別毛ニ係ル事務ヲ行フ



第七條 糧秣委員ハ大隊長指揮監督ノ下ニ經理委員ノ區處ヲ受ケ當該大隊ニ係ル糧秣ノ調辦貯藏炊事及裝飾別毛ニ係ル事務ヲ行フ但シ經理委員ニ於テ合同ノ調辦又ハ貯藏等ヲ爲ス必要アリト認メタルモノハ該委員之ヲ行フ

第八條 營繕委員ハ聯隊長指揮監督ノ下ニ營繕ニ係ル事務ヲ行フ

第九條 被服委員ハ師團長ニ隸屬スル軍隊ニ係ル被服ノ調辦及經理部ノ保管被服ニ係ル事務ヲ行フ

第十條 金櫃事務以外ノ金銀事務ハ聯隊附主計之ヲ行フ但シ本規程中明文アルモノハ其ノ定ムル處ニ依ル

第十一條 委員事務ノ分課及執行手續ハ委員商議ノ上首座之ヲ決シ聯隊長ハ被服委員ニ係ルモノノ認可ヲ受クヘシ但シ糧秣委員ニ係ルモノハ大隊長ヲ經由スヘシ

第十二條 委員首座ハ委員ニ事務ノ分擔ヲ命ジ之ヲ指揮監督ス

第十三條 委員ハ各分擔ノ事務ヲ掌リ其ノ管掌ニ屬スル物品ニ付物品會計官吏ノ職務ヲ行フ但シ糧秣委員ノ管掌ニ屬スル物品ニ就テハ該委員物品會計官吏ノ職務ヲ行フ

第十四條 金銀ニ係ル出納官吏ノ職務ハ委員タル主計ニシテ金櫃事務ニ服スル者之ヲ行フ左ノ現金及之ニ代ルヘキ書類ハ前項ノ出納官吏之ヲ取扱フヘシ

- 一 前渡金
- 一 委任經理ニ屬スル現金
- 一 其他法規上取扱フヘキ現金

第十五條 聯隊附主計ハ當該隊ニ係ル經理全般ノ事務ニ付其ノ整理進歩ヲ全フスルコトヲ努ムヘシ

第十六條 物件ノ買賣貸借及請負等ニ係ル契約ヲ締結セムトスルトキハ物件ノ數量品質價格供給者ノ選定或物品検査ノ方法等ヲ當該委員商議ノ上首座之ヲ決シ聯隊長ノ認可ヲ受ケ聯隊長ノ名ヲ以テ契約ヲ爲スヘシ但シ日常所要ノ物件ニ係ル調辦ニ付テハ委員商議ノ上概括シテ聯隊長ノ認可ヲ受ケ委員タル主計ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十七條 廢品處分ヲ要スル物件ハ關係委員立會調査ノ上利用其ノ他處分ニ係ル方法ヲ商議シ首座之ヲ決シ聯隊長ヨリ經理部長ノ承認ヲ受クル手續ヲ爲スヘシ

第十八條 委員ハ毎年度經費ノ使用計畫ヲ立案シ聯隊長ノ認可ヲ受クヘシ但シ委任經理積立金ノ使用計畫ニ付テハ毎年度開始前聯隊長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 金錢ノ收支ニ關スル證憑書類ハ各分擔委員之ヲ調査シ經理委員首座ノ承認ヲ受クヘシ但シ同首座以下同シノ認印ヲ受ケ出納官吏タル主計ニ送付スヘシ

第二十條 委任經理積立金ノ總額ハ毎年度委任經理定額金現品交付ニ屬スル合計額ヲ超過セス且其ノ十分ノ一ヲ下ラサル金額ヲ標準トスヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ師團長ノ認可ヲ受

ケ一時該標準ヲ伸縮スルコトヲ得

第二十一條 委任經理積立金ハ左ノ科目ニ區分整理スヘシ

- 一 糧食積立金
- 一 被服積立金

- 一 陣營具積立金
- 一 消耗品積立金
- 一 馬匹積立金
- 一 積立金利息

第二十二條 委員ハ附録ニ定ムル簿表ヲ備フヘシ

第二十三條 經理部長ハ聯隊ノ經理検査ヲ終リタルトキハ主要帳簿ノ末尾ニ検査済ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ署名捺印スヘシ

第二十四條 水火盜難其ノ他ノ事故ニ依リ金錢物品ニ異狀アリタルトキ又ハ收支ニ關シ詐欺アリタルコトヲ發見シタルトキハ關係委員ニ於テ直ニ検査シ聯隊長ヨリ速ニ其ノ狀況ヲ師團長ニ報告シ同時ニ經理部長ニ通報スヘシ

第二章 金櫃事務

第二十五條 金櫃ハ聯隊長ノ定ムル規定ニ從ヒ經理委員之ヲ管守スヘシ

第二十六條 金櫃外扉ノ鑰ハ經理委員首座、同内函ノ鑰ハ出納官吏タル主計之ヲ保管シ金櫃ノ開閉ハ雙方立會ノ上之ヲ行フヘシ

金櫃ニ豫備鑰ヲ備フルトキハ聯隊長之ヲ保管スヘシ

第二十七條 金櫃ニ收藏スヘキモノ左ノ如シ但シ現金出納簿ハ確實ナル方法ニ依リ金櫃外ニ格納スルコトヲ得

一 第十四條ノ現金及書類

一 出納官吏ノ印章

一 引出切符

一 保管證書

一 現金出納簿

前項以外ノモノハ之ヲ金櫃ニ收藏スルコトヲ許サス

第二十八條 第十四條ノ現金及書類ヲ領收シタルトキハ直ニ之ヲ金櫃ニ收藏スヘシ

第二十九條 常時金櫃ニ收藏スル現金ノ最高額ハ經理部長之ヲ定ム

臨時小口仕拂ノ爲必要アルトキハ出納官吏タル主計ニ五十圓以内ノ現金ヲ所持セシムルコトヲ得

第三十條 金錢ノ出納命令ハ聯隊長之ヲ發スヘシ但シ日常ノ出納ニ係ル命令ハ之ヲ經理委員首座ニ委任スルコトヲ得

前項ノ命令ハ證書ニ捺印シテ之ヲ表示スルモノトス

第三十一條 金錢ノ仕拂ハ成ルヘク一定ノ期日ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 出納官吏タル主計現金ヲ預ケ入レ又ハ引出サムトスルトキハ拂込書又ハ引出切符ノ原符若ハ受領證書ニ經理委員首座ノ認印ヲ受クヘシ

第三十三條 經理委員首座交替ノトキハ前任者、後任者及出納官吏タル主計立會ノ上金櫃帳簿ヲ検査シ事務ノ受授ヲ證明スル爲試算表ニ連署捺印シ聯隊長ノ認印ヲ受クヘシ

前任者後任者同時ニ受授スルコト能ハサルトキハ聯隊長ノ命シタル代理者出納官吏タル主計立會ノ上前項ノ手續ヲ爲シ後任者就職ノトキ更ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

出納官吏タル主計交替ノトキハ出納官吏交替ニ係ル一般ノ規定ノ外前二項ヲ準用ス

第三十四條 聯隊長ハ少クモ毎月一回金錢ノ現在高及帳簿ヲ検査シ試算表ニ捺印スヘシ

前項ノ検査及捺印ハ經理委員外ノ者ニ命シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得  
聯隊長ハ仕拂命令官ヨリ委託アリタルトキハ仕拂計算書ト現金出納簿ノ符合及現存額ヲ検査シ其ノ保證書ヲ調製スヘシ

第三十五條 預金部保管證書ノ出納主任ハ出納官吏タル主計ヲ以テ之ニ充テ其ノ出納保管及検査ニ付テハ本章ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 行軍演習等ノ場合ニ於テ必要アルトキハ聯隊長ハ第二十六條第二十九條及第三十條ニ拘ラス所要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 糧秣事務

第三十七條 經理委員ハ給與定額積立金ノ狀況及臨時増給等ヲ願慮シ毎年度開始前該年度ニ係ル給養計畫書ヲ調製シ聯隊長ノ認可ヲ受ケヘシ

前項計畫書ハ聯隊長ヨリ師團長ニ提出シ尙步兵聯隊ニ係ルモノハ大隊長ヲ經テ糧秣委員ニ之ヲ下付スヘシ

第三十八條 聯隊ニ交付ヲ受クヘキ糧秣ハ經理委員ニ於テ其ノ需用數量ヲ概算シ同委員首座ヨリ經理部ノ指定期日迄ニ之ヲ同部ニ請求スヘシ但シ步兵聯隊ニ係ルモノハ糧秣委員ニ於テ需用數量ヲ概算シ豫メ經理委員ニ通報スヘシ

前項糧秣ハ經理委員之ヲ受領ス但シ步兵聯隊ニ係ルモノハ糧秣委員ヲシテ之ヲ受領セシムルヲ例トス

第三十九條 聯隊ニ交付ヲ受クヘキ糧秣中供給者ヨリ直接納付スルモノハ左ノ各號ニ依リ受領スヘシ

- 一 納入ノ時期及數量ハ經理部長指定ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ供給者ニ指示スヘシ
  - 二 受領期日ハ需用ニ差迫ラサル日取リヲ以テ之ヲ定ムヘシ
  - 三 納品ハ供給契約書ノ條項及標本ニ照合シ經理部長ノ定ムル處ニ依リ之ヲ檢定スヘシ
- 第四十條 概算ヲ以テ交付ヲ受ケタル糧秣ニシテ毎月決算ノ結果生シタル剩餘ハ之ヲ翌月ニ繰越差繼受ト爲スヘシ

量出糧秣ハ翌月ニ於テ概算交付ヲ受クヘキ數量中ニ組入レ之ニ對スル糧秣代金ヲ受領スヘシ其ノ整理方法ハ經理部長ノ定ムル處ニ依ル

第四十一條 經理委員ハ獻立豫定表ニ其ノ實施ヲ記入シ翌週中ニ之ヲ聯隊長ニ提出スヘシ但シ步兵聯隊ニ在リテハ糧秣委員之ヲ記入シ大隊長ヲ經テ經理委員ニ送付スヘシ

第四十二條 經理委員ハ毎月委任經理ニ屬スル糧秣ノ決算ヲ爲シ糧食諸品決算表及飼養諸品決算表ヲ調製シ經理部ニ送付スヘシ但シ步兵聯隊ニ係ルモノハ糧秣委員之ヲ調製シ大隊長ヲ經テ經理委員ニ送付スヘシ

第四十三條 聯隊ニ交付ヲ受クヘキ賄料及糧秣代金渡ニ係ル金額ハ毎月經理委員ニ於テ算定シ其ノ内譯及理由ヲ明記シタル請求書ヲ調製シ首座署名捺印ノ上出納官吏タル主計ニ送付スヘシ

第四章 被服事務

第四十四條 經理委員ハ被服ノ現況及保存期限等ヲ願慮シ毎年被服永年計畫書及被服年度計畫書ヲ調製シ前年度十一月一日迄ニ聯隊長ヨリ師團長ニ提出スヘシ

第四十五條 前條ノ計畫書ハ師團長ヨリ經理部長ニ下付シ經理部長ハ被服委員ヲシテ審査ノ上同計畫書ニ基キ師團ニ係ル被服ノ永年及年度計畫書ヲ調製セシメ師團長ノ認可ヲ受ケ且之ヲ聯隊長ニ通報スヘシ

第四十六條 第四十四條ノ被服計畫中變更ヲ要スルトキハ聯隊長ヨリ師團長ニ上申シ師團長ハ之ヲ經理部長ニ下付シ經理部長ハ前條ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ輕易ノ事項ニ在リテハ聯隊長ヨリ經理部長ニ通報シ經理部長ニ於テ適宜處置スルコトヲ得

第四十七條 被服委員ハ毎年度各聯隊ニ係ル被服費ヲ算定シテ被服費年額調書ヲ調製シ又師團ノ被服計畫書ニ基キ現品交付被服調書ヲ調製シ首座ヨリ經理部長ニ提出スヘシ

前項ノ調書ハ經理部長ヨリ前年度十二月末日迄ニ陸軍省經理局長ニ提出スヘシ

第四十八條 被服委員ハ被服品受領ノ爲前條ノ調書ニ基キ被服現品請求書ヲ調製シ首座ヨリ前年度三月一日迄ニ陸軍被服本廠長ニ送付スヘシ

第四十九條 被服委員ハ師團ノ被服計畫書ニ基キ現品交付ニ屬セサル被服品ノ調辨計畫書ヲ調製シ經理部長ニ提出スヘシ

經理部長ハ被服委員ヲシテ前項被服品ノ調辨ヲ爲サシメ之ヲ聯隊ニ交付セシムヘシ

第五十條 毎年度聯隊ノ被服製造購買費定額中金額交付ヲ受クヘキモノハ被服年度計畫ニ基キ各隊ノ定額ヲ取纏メ被服委員ニ於テ之ヲ四回四月六月九月十二月ニ分チテ請求書ヲ調製シ首座署名捺印ノ上出納官吏タル主計ニ送付スヘシ

前項ノ定額ハ被服委員ニ於テ各聯隊毎ニ區分整理スヘシ

第五十一條 前條ノ定額ハ第四十九條ノ被服調辨經費ニ充テ殘餘アルトキハ翌年度ニ繰越整理スヘシ但シ被服計畫上可製數ヲ充メタル場合ノ殘金ハ之ヲ當該聯隊ノ積立金ニ組入レ整理スヘシ

第五十二條 經理部保管ニ係ル被服ノ格納・手入等ニ要スル費用及前條ノ經理ニ要スル費用ハ之ヲ聯隊ニ配當シテ委任經理積立金ヨリ支辨セシム

前項ノ配當額ハ師團長之ヲ定ム

第五十三條 被服委員ハ毎年五月盡日迄ニ前年度ニ係ル被服費收支一覽表ヲ調製シ經理部長ヲ經テ師團長ニ提出シ尙各聯隊ニ其ノ勝手ヲ送付スヘシ

第五十四條 被服補修費定額ハ年額ニ依リ交付スルモノハ四回四月六月九月十二月ニ分チ其ノ他ハ毎月經理委員ニ於テ請求書ヲ調製シ首座署名捺印ノ上出納官吏タル主計ニ送付スヘシ

第五十五條 被服品ハ其ノ保存期限ニ拘ラス使用ニ堪ニル限り之ヲ供用スヘシ

第五十六條 營內居住下士以下ニ所持セシムル被服ノ定數ハ別表ニ依ル但シ新設又ハ増設ノ隊ニ

在リテハ漸次其ノ定數ヲ充タスヘシ

第五十七條 被服ノ修理ハ縫靴工卒ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ例トス但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ經理委員ニ於テ聯隊長ノ認可ヲ受ケ營業者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條 聯隊ノ保管ニ係ル被服ノ手入ハ兵卒ヲシテ從事セシムヘシ

經理部ノ保管ニ係ル被服ノ手入モ亦前項ニ準ス但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ師團長ノ認可ヲ得備役夫ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 被服品中帽・衣袴・外套・背囊及厚毛布ニハ左ノ標記ヲ附スヘシ

一 製作年月 陸軍被服廠ニ於テ記入ス但シ厚毛布ニ在リテハ明治二十六年陸軍第七十九號ニ依ル

一 聯隊號 常用ニ移シタルトキ經理委員ニ於テ之ヲ記入ス

一 供用年月 供用ノ當初中隊ニ於テ之ヲ記入ス

一 中隊號及氏名 貸與ノ都度中隊ニ於テ之ヲ記入ス

第五章 其ノ他ノ經理事務

第六十條 陳營具・消耗品・裝蹄別毛ニ係ル經理計畫定額ノ請求・受領及決算整理等ノ事務ハ前二章ノ規定ニ準シ經理委員又ハ糧秣委員之ヲ行フヘシ

第六十一條 練習用具其ノ他ノ物品ニ係ル事務ハ當該委員ニ於テ毎年其ノ經理計畫書ヲ調製シ聯隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ實施スヘシ

第六十二條 營繕事務ハ營繕委員ニ於テ實施方法ヲ定メ聯隊長ノ認可ヲ受ケ之ヲ實施スヘシ

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條第四十九條乃至第五十四條ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附表

考 備	品 目			定 數	内 裝		
	第一種	第二種	第三種		第一裝	第二裝	第三裝
一	冬 作 業 衣 袴	二	組	〇			
二	外 套	二	箇				
三	靴	三	組				
四	軍 靴	三	組				
五	背 襪	二	箇				

考 備  
 一 第一裝ハ戰兵式送迎式儀仗服務其ノ他將校ノ正裝禮裝ヲ著用スル場合ニ相當スル  
 トキ第二裝ハ廉アル演習秋季演習及衛戍勤務ノトキ第三裝ハ略裝ノトキ之ヲ用ユ  
 二 本表品目外被服ノ所持定數ハ師團長之ヲ定ム  
 三 所持被服ノ一部ハ之ヲ倉庫ニ格納スルコトヲ得

附錄

- 一 本規程第二十二條ニ依リ委員ノ備フヘキ簿表左ノ如シ
  - 整理簿
  - 當分預簿
  - 給餉日計簿
  - 受領證書
  - 馬糧受拂簿
  - 諸傳票
- 試算表
- 糧食品受拂簿
- 給餉日計簿

糧食諸品決算表

被服調製整理簿

被服現品請求書

縫靴工具受拂簿

簿表ノ様式ハ陸軍簿表規程ニ依ル

三 給餉傳票 給餉日計簿ハ乘馬隊以外ノ軍隊ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

〇陸軍第五十二號

明治四十三年十二月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

官衙學校及憲兵隊ニ於ケル金錢糧秣被服其ノ他ノ物品及裝飾別毛等ニ係ル經理ハ軍隊經理規程

ニ準據シ之ヲ行フヘシ但シ被服委員ニ係ル事務ハ當該部隊經理委員之ヲ行フモノトス

附 則

明治三十五年陸軍第五十號ハ之ヲ廢止ス

本達ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十五年四月十陸軍第五十號ハ各官衙學校ニ於ケル金錢糧食被服其他物品ニ係ル經理ノ件ナリ

〇陸軍第五十三號

明治四十一年陸軍第七號中左ノ通改正ス

明治四十三年十二月二十九日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍騎兵實施學校ニ關スル項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ蹄鐵工卒ノ交代員ハ毎年四月上旬分遣セシムルモノトス

明治四十三年十二月 陸軍省陸軍第五十二號 陸軍第五十三號

陸軍野戰砲兵射擊學校ニ關スル項中第二項ヲ左ノ如ク改ム  
 伍長勤務上等兵及蹄鐵工卒ハ一年間在校トシ伍長勤務上等兵ニ在リテハ毎年十一月上旬ニ於テ  
 全數ヲ蹄隊セシメ其ノ交代員ハ十二月上旬分遣セシメ蹄鐵工卒ニ在リテハ毎年七月下旬及十一  
 月上旬ニ於テ半數宛交代セシム  
 陸軍重砲兵射擊學校ニ關スル項ヲ左ノ如ク改ム  
 陸軍重砲兵射擊學校教導大隊ハ分遣ノ兵卒伍長勤務上等兵及ハ二年間在校トシ毎年七月下旬ニ  
 於テ半數ヲ交代セシム但シ喇叭手ノ交代員ハ十二月上旬分遣セシムルモノトス  
 伍長勤務上等兵及蹄鐵工卒ハ一年間在校トシ伍長勤務上等兵ニ在リテハ毎年十一月上旬ニ於テ  
 全數ヲ蹄隊セシメ其ノ交代員ハ十二月上旬分遣セシメ蹄鐵工卒ニ在リテハ毎年七月下旬及十一  
 月上旬ニ於テ半數宛交代セシム

〔參照〕

明治四十一年十一月陸軍省第七號ハ教導隊下士兵卒分遣時期ノ件ナリ

○海軍省達第五百五十三號

佐世保海軍港務部附屬  
汽船椅子山丸

右臨時具海軍港務部附屬ニ改ム

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五百五十四號

海軍給與令施行細則第三表中「汽釀優等章」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

通信術優等章	
下士	十
卒	五
銀	銀

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五百五十五號

海軍武官増俸規則中左ノ通改正ス

海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十三年十二月七日

第一條 將校、同相當官及准士官ノ増俸ハ海軍大臣之ヲ行ヒ下士ノ増俸ハ艦隊司令長官（除キ艦隊司令長官ヲ配カザル艦隊ニ在リテハ首府司令官以下ニ依テ） 旅順鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ニ屬スル者ハ各其ノ司令長官又ハ司令官之ヲ行ヒ其ノ他ハ在籍ノ鎮守府司令長官之ヲ行フ

本則ニ於テ所屬長官ト稱スルハ艦隊司令長官鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ヲ謂フ  
 第三條中「休職」ノ下ニ「歸休」ヲ加フ

第四條中「兵曹長同相當官」ヲ「大佐兵曹長並各同相當官」ニ改ム

第六條 海軍上長官士官任用進級取扱規則中ニ規定シタル拔擢名簿調製官ハ其ノ部下ニシテ第二條ニ規定セル期限ヲ經過シタル高等武官准士官中増俸セシムルニ適當ナラスト認ムル者アルトキハ第三條ノ規定ニ依リ理由ヲ付シ其ノ都度速ニ順序ヲ經テ海軍大臣ニ具申シ又ハ移牒ス但シ該具申ハ同等官ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第七條 下士ノ増俸ハ左記諸號ニ依リ六月十二月ニ於テ之ヲ行フ

- 一 所屬長ハ六月一日十二月一日現在所屬ノ下士ニ就キ増俸適當ト認ムル者ヲ調査シ艦政本部長教育本部長海軍省各局長ノ部下ニ屬スル者ハ直接其ノ他ハ順序ヲ經テ之ヲ所屬長官ニ具申スヘシ但シ調査期ニ接近シ所屬ニ異動ヲ生シタルトキハ舊所屬長ハ増俸ノ適否ヲ新所屬

- 長ニ通牒スルモノトス
- 二 所屬長ハ増俸具申後増俸セシムヘカラサル事故發生シタルトキハ其ノ旨ヲ述ニ所屬長官ニ報告スヘシ
- 三 所屬長官ハ第一號ノ具申ニ基キ兵種等級級俸ニ区分シ其ノ員數ヲ在籍鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ
- 四 在籍鎮守府司令長官ハ在籍下士ノ現在員ニ就キ第四條ノ規定ニ依リ増俸セシムヘキ員數ヲ定メ之ヲ兵種等級級俸ニ区分シテ前號ノ所屬長官ニ通牒スヘシ
- 五 所屬長官ハ前號ノ員數以內ニ於テ現所屬ノ如何ニ拘ラス増俸ヲ行フ
- 六 遠隔又ハ通信不便ノ地ニ向ケ航海スル艦船ニ在リテハ前諸號ニ準シ豫メ手續ヲ履行スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第百六十三號海軍武官増俸規則(明治三十年十一月二十九日)抄録  
 第一條 高等武官及准士官ノ増俸ハ海軍大臣之ヲ行ヒ下士ノ増俸ハ鎮守府司令長官艦隊司令長官ニ在リテハ其ノ部ノ長官ニ依リ及要港司令官之ヲ行フ  
 第三條 休暇俸職逃亡留置收禁處罰中ハ増俸スルコトナシ又該日數ハ増俸資格年數ニ算入スルコトヲ得ス但留置收禁後無罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテハ除算ノ限ニアラス  
 第四條 第一號第二項 兵曹長同相當官ニ海軍給與令第一號ノ特別俸ヲ給スルハ本項ノ制限ニ拘ラス特ニ増俸スルコトヲ得  
 第六條 高等武官及准士官ノ増俸ハ毎年六月一日十二月一日ヲ以テ調査ノ期トシ其ノ日ノ現在員ニ就キ六月十二月ニ於テ海軍上級官士官任用進級取扱規則中ニ規定シタル拔擢名簿調査官其ノ部下中増俸セシムルニ適當ナル者ヲ撰ビ順序ヲ經テ海軍大臣ニ具申シ又ハ移牒ス但増俸具申ハ同等官ト雖モ之ヲナスコトヲ得  
 第七條 下士ノ増俸ハ毎年六月一日十二月一日ヲ以テ調査ノ期トシ其ノ日ノ現在員ニ就キ六月十二月ニ於テ左ノ諸項ニ依リ之ヲ行フ  
 一 各所屬ノ長ハ其ノ部下中増俸セシムルニ適當ナル者ヲ選ビ順序ヲ經テ在籍鎮守府司令長官艦隊司令長官若ハ司港司

令官ニ具申シ又ハ移牒スヘシ艦隊司令長官若ハ要港部司令官ハ部下ノ増俸ヲ要スル人数ヲ各級俸ニ区分シ其在籍鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ  
 二 鎮守府司令長官ハ前項ノ具申及移牒ニ依リ増俸セシムヘキ人数ヲ調査決定シ其ノ艦隊ニ於テ増俸セシムヘキ者ハ之ヲ艦隊司令長官ニ要港部ニ於テ増俸セシムヘキ者ハ要港部司令官ニ通知スヘシ  
 三 前項ニ依リ定メタル割合ノ範圍内ニ於テ鎮守府司令長官艦隊司令長官及要港部司令官ハ各其ノ部下ニ屬スル者ノ増俸ヲ行フ

○海軍省達第百五十六號

海軍砲砲歷別冊ノ通制定ス

別冊ハ海軍艦政本部ヲシテ配付セシム

在來ノ大砲放發年報ハ順次砲歷ト交換シ必要ナル記事ヲ之ニ轉載スヘシ

明治四十三年十二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第百五十七號

明治二十七年ハ達第百三十八號ヲ廢ス

明治四十三年十二月十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕

明治二十七年ハ達第百三十八號ハ大砲放發年報ナリ

○海軍省達第百五十八號

由良敷設隊用

汽船 紀淡丸

右吳敷設隊附屬ニ改ム

明治四十三年十二月二十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第五百十九號  
海軍軍醫官服務規則別冊ノ通改正ス

但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ配付ス  
明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第六十號

海軍病院規則中左ノ通改正ス  
明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

第三十一條中「第十八條」ヲ「第二十三條」ニ改ム  
第三十二條中「疾病要略」ヲ「身體歴」ニ改ム

○海軍省達第六十一號

自今鎮海並八口浦ニ於ケル海軍用地ノ經營貸下及海軍所屬家屋營造物ノ管理ハ臨時海軍建築部支  
部長ヲシテ之ヲ爲サシム  
明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第六十二號

治療品經理規程中左ノ通改正ス  
明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

一甲第一號、乙第一號、丁第一號、戊第一號各表品名欄中及庚第十七號表品目欄中「試色絲」ヲ  
「スチルリ」ニ改メ該品ノ稱呼欄中「同」又ハ「組」トアルヲ「部」ニ改ム  
一庚第十二號表中懷中硯箱、墨、朱墨、眞書筆ノ各欄ヲ除キ手術用燈心ノ欄ノ次ニ左ノ各欄ヲ加  
フ

イ	ン	キ	瓶	二
赤	色	イ	ン	キ
ベ	ン	軸	同	四
ハ	ン	同	同	二〇
吸	盛	紙	枚	二
鉛	筆	筆	筒	二
赤	色	鉛	筆	二
青	色	鉛	筆	二

一同表中野紙類ノ諸欄ヲ削リ左ノ通加フ

醫	第	一	號	用	紙	同	二〇		
醫	第	二	號	ノ	一	用	紙	同	一〇
醫	第	二	號	ノ	二	用	紙	同	一〇
醫	第	三	號	ノ	一	用	紙	同	五
醫	第	三	號	ノ	二	用	紙	同	五
醫	第	四	號	用	紙	同	三〇		
醫	第	五	號	用	紙	同	一〇		
醫	第	六	號	用	紙	同	一〇〇		



○海軍省達第百六十三號  
海軍身體検査手續左ノ通定ム

明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

醫第十號ノ一用紙	同	一〇〇
美濃判半葉模造紙紙	同	五〇
半紙判半葉模造紙紙	同	五〇

海軍身體検査手續

第一條 本手續ハ海軍軍醫官服務規則及海軍出身志願者身體検査格例ニ依ル身體検査ノ方法ヲ規定ス

第二條 軍醫官ハ概ネ左ノ順序ニ依リ海軍出身志願者及徵兵ノ身體検査ヲ施行スヘシ

第一 視力、識色

第二 身長、體重、活量、握力、宗族及既往病歴

第三 頭部、毛髮、眼、鼻、口咽、耳、頸部、言語、精神

第四 全身望檢、皮膚、胸部、腹部、生殖器、脊梁、會陰、四肢運動懸垂

前項ノ順序中第一ハ著衣ノ儘行ヒ第二ハ全ク脱衣セシメ握力検査終ラハ假ニ著衣セシメ第四ニ至リ再ヒ脱衣セシム

第三條 身體検査法ハ左ノ諸號ニ準據スヘシ

一 視力、識色

視力ヲ檢スル際ニハ身體検査證ニ照シテ其ノ氏名ヲ問ヒ視力ハ萬國共通試視力表輪形ヲ用井テ檢スヘシ試視力表ハ場内ノ採光十分ナル壁上ニ於テ光線ハ受驗者ノ背後若ハ受驗者ノ眼

ト略ホ同高ノ位置ニ掛ケ受驗者ヲシテ五米突ヲ距テテ正シク之ニ對向セシメ兩眼各箇ニ表中ノ細小視標ヨリ始メ明視シ得ル視標中三箇ヲ視別セシメ其ノ最小視標ニ附シアル數ヲ以テ視力ヲ定メ左眼視力右眼視力ヲ區別スヘシ試視力表ハ他ノ受驗者ノ眼ニ觸レシメサルヲ要ス

天候若ハ其ノ他ノ理由ニ依リ場内ノ光線不十分ナルトキハ驗者ハ自己又ハ他ノ健康視力ト對照シテ受驗者ノ視力ヲ判定スルヲ要ス

識色ハステルリンダ氏假性同色表ヲ用井テ檢シ色盲若ハ色神異常ノ種類ヲ檢スヘシ

二 身長、體重、活量、握力

身長ハ身長計臺上ニ姿勢正シク直立セシメ頭ヲ平ニ保チ膝足ヲ觸接シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レシメ兩足踵ヲ尺身ニ密接シ項腰膝部ヲ正シク伸展セシメタル後橫杆ノ正中ヲ顛頂ニ當テ測定スヘシ驗者測定ヲ終リタルトキハ高聲ニテ其ノ成績ヲ讀上ケ助手ハ之ヲ復唱シテ記入スヘシ

體重ハ先ツ體重計ノ正否ヲ精檢シ受驗者ヲ其ノ臺板上ニ靜ニ直立セシメテ測定シ驗者ハ高聲ニテ其ノ成績ヲ讀上ケ助手ハ之ヲ復唱シテ記入スヘシ

活量ハ受驗者ヲシテ十分ニ深吸氣ヲ爲シ直ニ測息器ノゴム管嘴ヲ口ニ含ミ徐ニ吸氣ヲ呼出セシメ上昇セル氣槽ノ靜止スルニ至リ驗者ハ高聲ニテ其ノ成績ヲ讀上ケ助手ハ之ヲ復唱シテ記入スヘシ

握力ハ兩手各箇ニ握力計ヲ緊ク把握シ強壓セシメテ測定ス

三 頭部、毛髮、顔面

頭部、顔面ハ其ノ大小、形狀、畸形、陷凹及癩痕等ノ有無ヲ檢シ癩痕アラハ其ノ原因、在下組織ト癒著ノ有無、指壓ニ因ル疼痛及痙攣ノ存否ヲ檢スヘシ

四 視器

毛髮ハ其ノ發生ノ狀況、脫毛ノ有無及其ノ性状ヲ檢スヘシ  
視器ハ眼瞼、瞼裂、睫毛、淚器、結膜及穹窿部、眼球ノ大小位置、運動竝内壓ヲ檢シ次テ角膜虹  
彩ノ狀況、瞳孔ノ大小、形狀、反應等ヲ檢スヘシ淚囊ハ必ス指壓シテ膿漏ノ有無ヲ檢シ眼球  
運動ハ受驗者ヲ正シク驗者ニ對向セシメ驗者ノ示指頭ヲ約十二仙迷ノ眼前ニ於テ凝視セシ  
メ示指頭ヲ上下左右ニ動カシ眼球運動ノ狀況ヲ檢スヘシ

五 鼻

鼻ハ其ノ形狀、鼻道通氣ノ良否、鼻粘膜及鼻中隔ノ狀況、新生物ノ有無等ヲ檢スヘシ鼻道通  
氣ノ良否ヲ檢スルニハ受驗者ニ口ヲ閉サシメ驗者ノ指頭ヲ以テ交々片側ノ鼻翼ヲ壓閉シ他  
側ノ鼻孔ヨリ通氣セシム尙必要アラハ後鼻腔及副鼻腔ノ検査ヲ施スヘシ

六 口腔、咽腔、齒牙

先ツ口唇ノ健否ヲ檢シタル後咀嚼運動ノ難易ヲ試ミ口腔ヲ開カシメ齒牙、齒列、齒齦、舌、口  
蓋、懸壘垂、扁桃腺、唾液腺、口腔粘膜ノ狀況及咽頭ノ狀況ヲ檢スヘシ

七 聽力、聽器

聽力ヲ檢スルニハ受驗者ヲシテ驗者ヲ距ル約二米突ノ位置ニ於テ一耳ヲ檢者ニ向ケ兩眼ヲ  
閉サシメ助手ヲシテ他側ノ耳ヲ密閉セシメタル後驗者ハ外聽道ニ正對シ數字或ハ單節ナル  
通俗語ヲ囁語シ之ヲ迅速ニ復唱セシムヘシ聽力ニ障害アルモノハ進テ其ノ原因程度ヲ檢ス  
ルヲ要ス軍樂生ハ特ニ聽力ノ完全ヲ要スルヲ以テ約四米突ノ距離ニ於テ囁語ヲ迅速ニ復唱  
セシムヘシ

聽器ハ耳翼、外聽道及鼓膜ノ狀況ヲ檢シ必要アラハ歐氏管ノ通否ヲ檢スヘシ  
耳膜蓋積シテ鼓膜ノ狀況ヲ檢シ難キトキハ「オレーフ」油等ヲ點耳シ之ヲ除去シタル後再檢

八 スヘシ

頸部ハ其ノ長短運動及癩痕瘻管腫瘍、斜頸等ノ有無、水脈腺ノ狀況ヲ檢スヘシ

九 言語、精神

言語、精神ハ他ノ検査時ニ於ケル應答、態度、顔貌等ニ依リ自ラ判定シ得ヘキモ必要アラハ  
受驗者ノ姓名、年齢、職業、修學ノ經歷等ヲ問ヒ其ノ答ニ依リ判定スヘシ  
啞吃者ヲ檢スルニハ通例五十音中發音困難ナル「カ」行、「ナ」行、「サ」行、「タ」行、「バ」行或  
ハ「ハ」行ヲ以テ始マル所ノ通俗語ヲ選ビ之ヲ復唱セシメテ檢スヘシ

十 全身望檢、皮膚

全身望檢ハ一見直ニ筋骨發育ノ良否、身體各部對稱ノ良否、脊梁ノ狀況其ノ他身體各部ノ異  
常、畸形及缺損等ヲ發見シ得ラル、ヲ以テ検査上最モ必要ナリ其ノ法受驗者ヲシテ驗者ノ  
前方約二米突ヲ距テ、直立シ姿勢ヲ正シテ驗者ノ眼ニ注目セシメ頭部、顔面、頸、胸、腹部及  
四肢ノ前面ヲ通視シ一二回深呼吸ヲ營マシメタル後更ニ背面セシメ頭、項、背、腰部、脊梁及  
四肢ノ後面ヲ通視シ再ヒ一二回深呼吸ヲ營マシムヘシ若異常ヲ發見スルトキハ検査ノ順序  
ニ關セス異常部ヲ檢シテ合格若ハ不合格ヲ判定スルヲ例トス

十一 胸部、腹部

胸部ハ胸廓ノ形狀、構造、胸筋ノ發育及呼吸ノ狀況ヲ視診シ鎖骨、胸骨、肋骨及肋軟骨ノ狀況  
竝其ノ疾病、畸形ノ有無ヲ精檢シ次テ受驗者ヲシテ深呼吸ヲ爲サシメ呼吸ノ難易及運動狀  
況ヲ精査シ心臟ノ搏動ニ注意シ肺心ノ打診及聽診ニ依リ其ノ健否ヲ檢スヘシ  
胸廓全圍ハ先ツ兩上肢ヲ水平ニ保タシメ尺帶ヲ後ハ兩肩胛骨ノ下部前ハ左右乳頭ノ直下ニ

於テ水平ニ圍繞シテ次ニ兩上肢ヲ垂レシメ尋常呼吸ヲ爲サシメ其ノ中間ヲ測定ス胸廓擴張ハ  
深呼吸ヲ爲サシメ其ノ擴張ノ差異ヲ測定ス  
腹部ハ腹壁ノ狀況、胃腸肝脾及腎ノ健否、腹輪ノ弛緩、歇爾尼亞ノ有無ヲ檢スヘシ腹輪ヲ檢  
スルニハ普通示指頭ヲ精系ニ沿ヒ鼠蹊管内ニ挿入シテ輪ノ狀況ヲ觸知ス又歇爾尼亞ノ疑ア  
ルトキハ努責セシムヘシ

十一 生殖器、會陰

生殖器ハ包皮、陰莖、尿道及尿道口ノ變形、疾病ノ有無ヲ檢シ排尿ノ難易ヲ問ヒ手指ヲ以テ  
尿道球部ヨリ尿道ニ沿フテ尿道口ニ向ヒ按壓シテ排膿及硬結ノ有無ヲ判定シ必要アラハ  
「ブーシー」ヲ挿入シテ狹窄ノ有無ヲ檢スヘシ又陰囊ノ健否、辜丸及副辜ノ大小位置、硬度及  
存否、精系ノ水腫靜脈怒張等ノ有無ヲ檢スヘシ

會陰ヲ檢スルニハ受験者ノ體ヲ前屈シ兩手指ヲ床上ニ接シ臀部ヲ舉上セシメ驗者ハ兩手ヲ  
以テ兩臀部ヲ側方ニ排開シ痔疾、痔瘻、脱肛及「コンデロマ」等ノ有無ヲ檢スヘシ  
脱肛ノ検査ニハ努責セシムルヲ要ス又必要アラハ肛門鏡ヲ用ウヘシ

十二 脊梁骨盤

脊梁骨盤ハ其ノ形狀及位置ノ正否、椎骨、腸骨、薦骨及尾骶骨等ニ異常ナキヤヲ檢シ脊梁ヲ  
屈伸セシメテ運動ノ状態ヲ檢スヘシ

十四 四肢ノ状態

上肢ヲ檢スルニハ受験者ヲテ驗者ノ前方約一米突ノ位置ニ於テ對向直立セシメ徐ニ兩上  
肢ヲ舉上シテ頭上ニ於テ兩手掌ヲ合セシメ而シテ後肩甲關節ノ前轉後轉迴旋、肘關節ノ屈  
伸、前膊ノ迴前迴後及腕關節ノ屈伸、内外轉ヲ檢シ次テ兩上肢ヲ前方ニ伸シ拇指ヨリ順次各  
指ヲ屈折セシメ更ニ小指ヨリ順次伸展セシメテ屈伸ヲ檢ス

下肢ヲ檢スルニハ交互片脚ノ足尖ニテ體重ヲ支ヘシメ次テ跨關節ノ屈伸内外送迴旋、膝關  
節ノ屈伸、足關節ノ屈伸、内外旋送及趾關節ノ運動ヲ檢シ髌足、扁平足ノ有無ヲ檢シ踵踞ヲ  
爲サシメ次ニ片脚ニテ跳歩シ懸垂裝置ノ下ニ到ラシメ片手ヲ以テ索ヲ握リ身體ヲ床上ヨリ  
舉シ少クモ五秒時間堪フルヤ否ヲ試ミ更ニ他手ニテ同様懸垂セシメタル後他脚ニテ跳  
歩復踏セシム

第四條 軍樂生ハ手指細長ニシテ指關節粗大ナラス齒列正シクシテ間隙ナク口唇薄クシテ口大ナ  
ラス活量多クシテ視力、聽力ノ鋭敏ナルモノヲ選フヘシ

第五條 身體各部ノ検査ニ於テハ不合格ト爲スニ足ラサルモ之ヲ綜合シテ合格ト爲スヘカラサル  
者ハ不合格ト爲スヘシ

第六條 第三條各號ノ検査終リタルトキハ検査ノ全成績ヲ綜合シテ合格、不合格ヲ判定シ記事欄  
ニ記入ヲ要スヘキモノアルトキハ記入スヘシ一部検査ニ於テ海軍出身志願者身體検査格例ニ適  
合セサルモノアルトキハ細檢ヲ要セス之ヲ不合格ト爲シ検査ヲ遂ケタル諸欄ニ其ノ成績ヲ記入  
シ記事欄ニ不合格ノ理由ヲ記入スヘシ

第七條 徵兵入團ノ際ハ徵兵検査規則及陸軍身體検査手續ヲ標準トシ其ノ權衡ヲ保ツコトヲ期ス  
ヘシ

第八條 検査場ハ廣潤且採光十分ニシテ靜肅ナル場所ヲ選定スヘシ

第九條 検査軍醫官ハ學術ニ基キテ檢シ必ス自己ノ判斷ニ依リ合格、不合格ヲ決定スヘシ但シ軍  
醫官二人以上ニシテ同一受験者ノ検査ヲ行フトキハ合格、不合格ノ判定ハ先任軍醫官ニ於テ之  
ヲ爲スヘシ

第十條 検査軍醫官ハ受験者ニ接スルニ温和ナルヘク又無用ナル検査ヲ施行スルコトヲ得ス

第十一條 検査軍醫官ハ受験者ノ身體異常ニ關シテハ職務上必要ノ場合アルニ非サレハ之ヲ他人

ニ通告スヘカラス

附則

本手續ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○會計検査院達第二號

明治三十四年五月會計検査院達第三號海關稅噸稅及稅關雜收入徵收額證明規程中左ノ通改正シ明治四十三年度分ヨリ施行ス

明治四十三年十二月十六日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

本證明規程中海關稅ヲ「關稅」ニ改メ「無請求品」ヲ削ル

第三條中第一號輸入ノ下ニ又ハ移入ノヲ加ヘ左ノ各號ヲ加フ

四 關稅定率法第七條ニ依リ免稅ヲ爲シタルモノアルトキハ其關係書類但該書類ナキモノハ其

事由ヲ申告書ニ附記スヘシ

五 賦課洩ヲ發見シ稅金ノ追徵ヲ爲シタルモノアルトキハ其決議書類

六 誤謬其他ノ事故ニ因リ取消又ハ訂正ヲ爲シタルモノアルトキハ其決議書類

第一號書式中收入官吏現金領收額又ハ收入濟額ト金庫領收濟額トノ差違事由欄摘要中「七月三十一日」ヲ「六月三十日」ニ改ム

〔參照〕

會計検査院達第三號海關稅噸稅及稅關雜收入徵收額證明規程(明治三十四年五月二日)抄錄

第三條 海關稅ニ關スル證據書類ハ左ノ如シ

一 輸入有稅品申告書協定稅率ニ依リタルモノハ製産地證明書ヲ添付スヘシ但該證明書ヲ提出シ難キモノハ其旨申告書ニ付記スヘシ

○會計検査院達第三號

明治三十四年五月會計検査院達第二號租稅徵收額證明規程中左ノ通改正シ明治四十三年度分ヨリ施行ス

明治四十三年十二月十六日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

第三條中「七號」ヲ「八號」ニ砂糖消費稅、相續稅、石油消費稅擔保品處分明細書ヲ「納稅擔保物件處分明細書、相續稅年賦延納額明細書」ニ改メ「及變換地」ヲ削ル

第四條第八號中「地租」ヲ削ル

第五條中第八號ヲ削リ第七號ヲ左ノ如ク改ム

七 所得稅法第四十三條ノ二ニ依リ決定ヲ取消シタルモノアルトキハ其決議書類

第七條第一號及第二號中「醬油」ノ下ニ「造石」ヲ加ヘ第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 沖繩縣酒類出港稅ニハ該稅則第三條及第四條ニ基キタル荷主及船長ノ届書

第七條ノ二 砂糖消費稅織物消費稅及石油消費稅ニ關スル證據書類左ノ如シ

一 課稅物件ノ検査並査定ニ關スル帳簿但擔保ヲ提供シタルモノハ其種類員數ヲ記載セル書類

トモ

二 納稅前免除ヲ爲シタルモノアルトキハ其關係書類

三 織物消費稅法第九條ニ依リ織物ノ價格ヲ評定シ又ハ決定シタルモノアルトキハ其關係書類

第八條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 營業者ノ課稅標準額申告書

第九條ニ左ノ一號ヲ加フ  
三 砂金採取地稅ハ採取ノ許可、變更若クハ消滅ニ係ルモノアルトキハ當該官廳ノ通知書

第十二條 通行税ニ關スル證憑書類ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ提出シタル通行税徵收高計算書トス

第十二條ノ三 第四條乃至前條ニ規定スルモノ、外各税ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 賦課洩ヲ發見シ税金ノ追徴ヲ爲シタルモノアルトキハ其決議書類

二 課課其他ノ事故ニ因リ取消又ハ訂正ヲ爲シタルモノアルトキハ其決議書類

第十三條中第十二條ノ下ニ「三」ヲ加フ

第十四條ノ二中「砂糖消費税及相續税、石油消費税」ヲ「相續税、酒精造石税、砂糖織物石油ノ各消費税」ニ改ム

第十五條中「沖繩縣及」ヲ削ル

第一號書式中左ノ如ク改ム

徵收額計算書備考中「沖繩縣及」ヲ削リ收入官吏現金領收額又ハ收入濟額ト金庫領收濟額トノ差違事由欄摘要中「七月三十一日」ヲ「六月三十日」ニ改ム

内譯備考第三項中「地租ノ例ニ準シ」ヲ備考ニニ改ム

内譯地租「田租」及「賣藥營業税」ヲ別表ノ如ク改ム

内譯營業稅從業者ノ區分「從業者」「職工勞役者」ノ次ニ各同十五歲未滿ノ者ノ一欄ヲ加フ

内譯酒造稅摘要中「第三種」ヲ「第五種」ニ「第二種」ノ區分「酒精」「酒精量何度」ヲ「何酒精分何度」ニ改ム

内譯「沖繩縣酒造免許稅」及「沖繩縣酒類出港稅」ヲ削ル

内譯醬油稅「造石稅備考中」自家用料醬油ニ對シ課稅シタルモノアルトキハ區分掲記スヘシ」ヲ削ル

内譯砂糖消費稅備考中「内若干斤」ヲ「内稅額若干」ニ摘要ヲ左ノ如ク改ム

摘要	種分	分	第	種
砂糖	第一年度	甲	本	第二年度
	甲	乙		甲
	乙			乙
	前年度	定	前	法
	稅法	第五條	項	ニ係ル
				甲
				乙
				第
				二
				(以下前例ニ倣フ)
				糖
				蜜
				(以下前例ニ倣フ)

内譯砂糖消費稅ノ次ニ別表「織物消費稅」ノ一欄ヲ加フ

内譯探掘鐵區稅摘要中「某」何所何鐵「某」何所何鐵」ヲ削ル

内譯取引所稅摘要中「國債」及「金銀」ヲ削リ「何(府)縣」ニ「整理」ヲ「何市」ニ改ム

内譯兌換銀行券發行稅ノ次ニ別表「通行稅」ノ一欄ヲ加フ

内譯相續稅備考第二項中「免除」シタルモノハ備考ニ「免除」シタル稅額ハ相當稅額ヨリ之ヲ控除シ備考ニ其人員課稅價格及稅額」ニ改ム左ノ一項ヲ加フ

○課稅價格十萬圓ヲ超ニルモノハ稅率ノ異ナル毎ニ區分掲記スヘシ

内譯沖繩縣及伊豆七島稅品「沖繩縣及」ヲ削ル

第二號書式摘要中「何年月荒地成」ヲ「何年何期開始前荒地成」ニ改ム

第三號書式摘要中「何年月拂下」ヲ「有租地成何年何期開始前地價設定」ニ改ム

第四號書式中表紙ノ「及變換地備考」ノ「地目變換地、地類變換地」ヲ削ル

第七號書式中表紙ノ「砂糖消費稅」及備考第二項ヲ削リ「擔保品處分明細書」ヲ「納稅擔保物件處分明細書」ニ改ム摘要中「住所氏名」ノ上ニ「何稅」及受ノ部「有價證券公賣代價」ノ次ニ「土地、建物、工場、財團」

公賣代價」ノ一欄ヲ加ヘ備考第一項ヲ左ノ如ク改ム

一本明細書ハ相續稅、酒精造石稅、砂糖織物石油ノ各消費稅擔保トシテ提供セル物件ヲ公賣シ稅

金ニ充當シタルモノアルトキ之ヲ調製スルモノトス

地 租		田 租			
摘 要	段 別	地 價	租 額		備 考
			課税	課税	
減ノ部 免租地成	町段 村段 歩合 歩合	課税	課税		
町何期	0	0			外租額若干翌年ヨリ減
計々	0	0	0	0	ク
何々	0	0			
何々	0	0			
計	0	0	0	0	
既往ニ係ル本年分 免租地成					
(以下前例ニ依フ)					
減ノ部合計	0	0	0	0	外租額若干翌年ヨリ減
増減差引計	0	0	0	0	外租額若干翌年ヨリ増(減)
既往ニ廻リ賦課					(事實ノ原ナル年ニ係上ス ヘシ) 何々ノ事故ニ由リ賦課額ノ 減
有租地成何年何期何月何日 地價改定何年何月何日何期 何年山林開闢期	1.01 1.01 1.01	1.01 1.01 1.01	0 0 0	0 0 0	ク
計	1.01	1.01	0	0	
前年第四期賦課額			0	0	
前年度調定不足額			0	0	
前年度徴收猶豫額			0	0	
前年度收入未済額			0	0	
調定超過額			0	0	
調定外賦納額			0	0	
租額合計			0	0	

明治四十三年十二月 逓 合計検査院第三號  
相續稅年賦延納額明細書式ハ別記第八號ニ依ル  
(別表)

地 租		田 租			
摘 要	段 別	地 價	租 額		備 考
			課税	課税	
何年一月一日現在 増ノ部 有租地成	町段 村段 歩合 歩合	課税	課税		
町何期	0	0			外租額若干翌年ヨリ増
計々	0	0	0	0	ク
何々	0	0			
何々	0	0			
計	0	0	0	0	
既往ニ係ル本年分 有租地成					
(以下前例ニ依フ)					
増ノ部合計	0	0	0	0	外租額若干翌年ヨリ増
既往ニ係ル本年分 免租地成					
(以下前例ニ依フ)					
増ノ部合計	0	0	0	0	外租額若干翌年ヨリ増

織物消費税						
摘要	課税價格		自用及除價格		税額	備考
	圓	銭	圓	銭		
毛織物	0	0	0	0	0	用紙印若干者税額
絹織物	0	0	0	0	0	
絹織物	0	0	0	0	0	
絹織物	0	0	0	0	0	
何れ	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	

地租 田租							
摘要	段別				地價	租額	備考
	町	村	小	合			
滞納處分引受額						0	○宅地ハ坪數ニ依ル ○田宅地以外ノ地目ハ前年度測定不足額以下ノ租額ヲ省略シ更ニ各項目ヲ合計 シタル増減額引計其他既往ニ過リ賦課計等以下各事項毎ノ合計額ヲ掲記スヘシ ○前年度第四期賦課額ノ種類ニシテ前年度ノ證明額ト差違ヲ生ゼシモノアルトキ ハ備考ニ附リ水種音無ニ歸シ免租ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其段別地價 ○災害ニ罹リ水種音無ニ歸シ免租ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其段別地價 ○田租既往ニ過リ賦課ノ前年第四期分ハ殊更之カ控除ヲ爲サス同項中ニ合計スヘシ
何れ務署ヨリ						0	
計						0	
滞納處分引受額						0	
何れ務署ヘ						0	
計						0	
市町村賦收上ノ繰(増)						0	
第四期翌年度所屬額						0	
測定不足額						0	
徴收猶豫額						0	
前年度收入未納翌年度へ繰						0	
込額						0	
計						0	
測定済額						0	

通 行 税						
摘 要	人 員				税 額	備 考
	一等	二等	三等	計		
汽 車						○人員中税法第一條第三項ニ依リ通行税ヲ徴收シタルモノハ相當欄内ニ其人員 ヲ區分未書スヘシ ○帝國鐵道ニ於テ通行税徴收高計算書ヲ省時シタルモノハ其税額ヲ備考ニ掲記 スヘシ
二百哩以上	0	0	0	0	0	
二百哩未滿	0	0	0	0	0	
二百哩ク	0	0	0	0	0	
五十哩ク	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
電 車						
(以下前例ニ倣フ)						

賣 藥 營 業 税			
摘 要	力 數	税 額	備 考
定價總額五百圓未滿ノモノ			
全 年	0	0	
前(後)期分納税未済			
何稅務署ヨリ轉入	0	0	
前(後)期分納税未済			
何稅務署ヘ轉出	0	0	
六月以前廢業(發賣禁止)	0	0	
計	0	0	
定價總額五百圓未滿ノモノ			
(以下前例ニ倣フ)			



人員	年賦延納額	年 割 額						摘 要
		何年度		ク		ク		
		額	額	額	額	額	額	
0	0	0	0	0	0	0	前年度ヨリ越高 自明治何年何箇年賦 ク 計 本年度分 (以下前例=做フ) 合計	
0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	0			

第八號

明治何年度  
相續稅年賦延納額明細書

應 名

相當年賦額	一時徴收額	調定額	差引翌年へ 越高	備 考
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	

年 月 日      職官氏名印

〔参照〕

會計検査院第三號租稅徴收額証明規程(明治三十四年五月二日)抄録  
第三條 歳入徴收額計算書三八第二號書式乃至第七號書式ニ據り調製シタル調定超過額明細書調定不足額及徴收猶豫額明

細審年期地及變換地明細書收入未済額明細書滯納處分分明細書砂糖消費稅相續稅石油消費稅擔保品處分明細書ヲ添付スヘシ

- 第四條 地租ニ關スル證憑書類左ノ如シ
- 八 地盤丈量圖訂正其他ノ原由ニテ段別又ハ地價租租ニ異動ヲ生シタルモノハ各其決議書類
- 第五條 所得稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
- 七 自首ニ依リ税金ヲ追徴シタルモノアルトキハ其決議書類
- 八 所得金高届出ノ重複ニ涉レルモノアルトキハ其訂正決議書類
- 第七條 酒稅及糖油稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
- 一 酒造稅 酒類及酒精含有飲料稅、麥酒稅、醬油稅ニハ造石検査製造石賣定ニ關スル帳簿但犯則ニ係ルモノアルトキハ其造石賣定書トモ
- 二 酒造稅 酒精及酒精含有飲料稅、麥酒稅、醬油稅免除ニ係ルモノアルトキハ收稅官吏ノ檢定報告書及決議書類
- 四 沖繩縣酒造免許稅ニハ其出願書
- 第七條ノ二 砂糖消費稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
- 一 砂糖消費稅施行規則第十二條ニ依リ賣定書但擔保ヲ提供シタルモノハ其種類員數ヲ記載セル書類トモ
- 二 砂糖消費稅施行規則第十八條ニ依リ提出シタル書類
- 第八條 賣糖營業稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ
- 一 新規營業免許ニハ當該官廳ノ通知書但鑑札下付ノ年月日付記ヲ要ス
- 第十二條 沖繩縣酒類出港稅ニ關スル證憑書類ハ該稅則第三條及第四條ニ基キタル荷主及船長ノ届書トス
- 第十三條 第四條乃至第十二條ノ證憑書類ハ會計検査院ノ指定ニ隨ヒ之ヲ提出スヘシ
- 第十四條ノ二 砂糖消費稅及相續稅、石油消費稅擔保ノ處分ニ關スル證憑書類ハ擔保物件公賣ニ係ル契約書但契約書ナキモノハ其決議書類トス
- 第十五條第一項 沖繩縣及伊豆七島稅品ノ賣却ニ關スル證憑トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

○會計検査院達第四號

明治三十八年三月會計検査院達第一號非常特別稅法ニ依ル歲入徵收額證明規程ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年十二月十六日

會計検査院長 法學博士子爵田尻稻次郎

○海軍省達第六十四號

歲入歲出取扱規程第六十二條中「防備隊」ヲ「永興防備隊」ニ改ム

明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第六十五號

明治三十六年達第三百三十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任仕拂命令官、歲入徵收官收入官吏別表中「在韓國海軍用地」ヲ「永興海軍用地」ニ、「防備隊先任主計官」ヲ「永興防備隊主計長」ニ、「×防備隊書記」ヲ「×永興防備隊書記」ニ改メ備考第三號中「防備隊先任主計官」ヲ「臨時海軍建築部支部先任主計官並永興防備隊主計長」ニ改ム

四十二年十二月期ニ屬スル收入ハ從前ノ通り防備隊先任主計官之ヲ整理スヘシ

明治四十三年十二月二十七日

海軍大臣 男爵齋藤實

法令全書

告示

○鐵道院告示第一號  
明治四十二年十月鐵道院告示第五十四號國有鐵道線路名稱中北海道ノ次ニ左ノ追加ス  
明治四十三年一月十二日  
鐵道院總裁 男爵後藤新平

京釜線(西大門釜山間)  
京仁線(永登浦仁川間)  
馬山線(三浪津馬山間)  
京燕線  
龍山新羅州間及支線

○宮内省告示第一號  
明治四十一年宮内省令第十號御料地拂下規程ニ依リ拂下ヲ爲スヘキ小町步不要存御料地ハ左ノ如シ  
但シ拂下出願期限ハ明治四十三年三月三十一日トシ拂下願書ハ帝室林野管理局(東京市麹町)ニ  
差出スヘシ  
明治四十三年一月十五日  
宮内大臣 公爵岩倉具定

番號所	國	市	區	町	地目	地番	面積
七七八	武藏	東京	芝	高輪南町	市街宅地	一七一	一〇六二五坪
番號所	國	郡	町村	大字	字	地目	地番
番號所	一	播磨	神崎	大山	吉富	酒迎場	山林
段別	町段	段	別	別	別	別	別
一八五二	一	一	一	一	一	一	一

明治四十三年一月 告示 鐵道院第一號 宮内省第一號











三 七 七	三 七 六	三 七 五	三 七 四	三 七 三	三 七 二	三 七 一	三 七 〇	三 六 九	三 六 八	三 六 七	三 六 六	三 六 五	三 六 四	三 六 三	三 六 二	三 六 一	三 六 〇	三 五 九	三 五 八	三 五 七	三 五 六	三 五 五	三 五 四	三 五 三	三 五 二	三 五 一	三 五 〇	三 四 九	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
若 宮	西 宮	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	池 之 瀨 間	同	同	一 本 松	任 坊 山	同	同	同	正 光 寺 山	中 山 如 林		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二 八 〇	二 八 一	二 八 二	二 八 三	二 八 四	二 八 五	二 八 六	二 八 七	二 八 八	二 八 九	二 九 〇	二 九 一	二 九 二	二 九 三	二 九 四	二 九 五	二 九 六	二 九 七	二 九 八	二 九 九	三 〇 〇	三 〇 一	三 〇 二	三 〇 三	三 〇 四	三 〇 五	三 〇 六	三 〇 七	三 〇 八	三 〇 九
四 八 〇	三 三 一	三 三 二	三 三 三	三 三 四	三 三 五	三 三 六	三 三 七	三 三 八	三 三 九	三 三 〇	三 三 一	三 三 二	三 三 三	三 三 四	三 三 五	三 三 六	三 三 七	三 三 八	三 三 九	三 三 〇	三 三 一	三 三 二	三 三 三	三 三 四	三 三 五	三 三 六	三 三 七	三 三 八	三 三 九

四 〇 六	四 〇 五	四 〇 四	四 〇 三	四 〇 二	四 〇 一	四 〇 〇	三 九 九	三 九 八	三 九 七	三 九 六	三 九 五	三 九 四	三 九 三	三 九 二	三 九 一	三 九 〇	三 八 九	三 八 八	三 八 七	三 八 六	三 八 五	三 八 四	三 八 三	三 八 二	三 八 一	三 八 〇	三 七 九	三 七 八	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六 九	六 八	六 七	六 六	六 五	六 四	六 三	六 二	六 一	六 〇	五 九	五 八	五 七	五 六	五 五	五 四	五 三	五 二	五 一	五 〇	四 九	四 八	四 七	四 六	四 五	四 四	四 三	四 二	四 一	四 〇
一 〇	二 〇	三 〇	四 〇	五 〇	六 〇	七 〇	八 〇	九 〇	一 〇〇	一 一〇	一 二〇	一 三〇	一 四〇	一 五〇	一 六〇	一 七〇	一 八〇	一 九〇	二 〇〇	二 一〇	二 二〇	二 三〇	二 四〇	二 五〇	二 六〇	二 七〇	二 八〇	二 九〇	三 〇〇























○内務省告示第三號

一 新版おやころとくんざんじさつ 一部  
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月七日發賣  
頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月八日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第四號

一 日本新年繪葉書百福ト題スル紙幣形繪葉書 一種一枚  
右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十日  
發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月十二日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第五號

明治三十年法律第二十九號第二條ニ依リ明治三十四年十内務省告示第七十號ヲ以テ砂防設備ヲ要  
スル土地トシテ指定シタル區域中ヨリ田畑宅地墓地及池沼地ハ之ヲ解除ス  
明治四十三年一月十四日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第六號

一 越中山王村おやころじざさつ 一部  
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十三日發  
賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月十四日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第七號

一 一こいのおしゆらおぞ殺し 一部  
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十三日發  
賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月十四日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第八號

一 圓畫 五種五枚  
但拾萬圓工兵トアルモノ 一枚  
壹億圓大砲トアルモノ 一枚  
五圓聯隊旗トアルモノ 一枚  
以上何レモ第一勉強大日本小供銀行日本子供手遊用商賣繁榮七五三〇トアリ  
右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十五  
日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月十八日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第九號

一 新版小松かんぶのくろやき 一部  
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十七日發  
賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ  
明治四十三年一月十八日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省告示第十號

一 明治四十三年九星日記 一册  
一 家庭寶 一册  
大阪市北區及卷町海野 幸藏 發行  
三丁目十二番屋敷 高井 兵吾 發行  
大阪市北區旅 兵吾 發行  
大阪町七番地

一明治四十三年九星早見

一册

滋賀縣長濱 大石千太郎 發行

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十三年一月十九日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省告示第十一號

一真人利 第九十五號

東京市麹町區飯田町 井伏太郎 發行

一真人道 第九十六號

五丁目三番地小山方

右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月十九日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十三年一月二十日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省告示第十二號

一明治四十三年天文報

一册

熊本縣天草郡本村八 鶴田惠津次 發行

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十三年一月二十一日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省告示第十三號

一新流行

全一册

東京市淺草區南 鈴木與八 發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ出版法第十九條ニ依リ明治四十三年一月二十二日發賣頒布禁止及刻版並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治四十三年一月二十四日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省告示第十四號

明治四十三年一月二十日東京市ニ於テ發行東京パンク第六卷第三號ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認ム

ルヲ以テ新聞紙法第二十三條ニ依リ同年同月二十四日其發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フ

明治四十三年一月二十五日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省告示第十五號

一たかひ

一册

大阪市北區地 山崎ヤク 發行

右出版物ハ略本曆類似ト認ムルヲ以テ其ノ發賣頒布ヲ禁ス

明治四十三年一月三十一日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省告示第一號

明治四十三年二月一日ヨリ同月二十八日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

但本表所掲ノ外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通

大藏大臣 侯爵桂太郎

内外貨幣比較表

外 國 貨 幣		日 本 金 貨	
清 國 兩	上海一兩	一圓	一六四
	天津一兩	一圓	二三八
	漢口一兩	一圓	一九二
墨 西 哥 弗 銀	一ドルラル		八八五
英 吉 利 弗 銀	一ドルラル		八七三
香 港 弗 銀	一ドルラル		八七三

英領印度貨	一ルービー	六五九
暹羅貨	一チカル	七六〇

○大藏省告示第二號  
秋田稅務監督局管内弘前稅務署ヲ明治四十三年一月十日青森縣弘前市大字相貝町二十六番地ニ移

○大藏省告示第三號  
札幌稅務監督局管内室蘭稅務署ヲ明治四十三年一月十五日北海道室蘭郡室蘭町大字本町五番地ニ移

○大藏省告示第四號  
製造煙草定價左ノ通相定ム

種別	製造所	名	定	價
紙捲煙草	埃及カラサナレス	エム、シー、シー、ニキストラ(金口)	同	百本ニ付 價 五〇〇〇
同	同	同(コルク口)	同	同 價 五〇〇〇

○大藏省告示第五號  
紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券左ノ如シ  
明治四十三年一月十日  
大藏大臣 侯爵桂太郎  
代理券交 付年月日 明治四十三年一月十日 記名者 關尾 定ヤウ

證券種別	額面金	記號	番號	附屬利札	代理券交 付年月日	記名者
整理公債證券	百圓	二七	第五五五九	同	明治四十三年一月十日	關尾 定ヤウ

○大藏省告示第六號  
紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券ノ利賦札左ノ如シ  
明治四十三年一月十日  
大藏大臣 侯爵桂太郎  
代理札交付年月日 明治三十九年六月廿九日 同四十二年十一月四日 日下 美治

證券種別	額面金	記號	番號	利賦札仕拂期	代理札交付年月日
軍公債證券	貳拾五圓	五	五五〇四	明治四十三年十二月	明治四十二年十一月二十九日
軍公債證券	五拾圓	五	九〇〇〇	自同四十年六月 至同四十三年六月	同四十年五月二十二日

○大藏省告示第七號  
明治四十一年度中地方稅ヲ以テ罹災救助基金ニ積立タル北海道ニ對シ明治四十二年度ニ於テ交付スヘキ北海道罹災救助基金法第三條第二項國庫補助額左ノ如シ  
明治四十三年一月十三日  
大藏大臣 侯爵桂太郎  
內務大臣 法學博士 平田東助  
北海道罹災救助基金法第三條第二項國庫補助額 北海道

○大藏省告示第八號  
減失又ハ紛失ニ因リ效力ヲ失ヒタル記名國債證券左ノ如シ  
明治四十三年一月十七日  
大藏大臣 侯爵桂太郎  
代理券交 付年月日 明治三十九年六月二十二日 同四十二年六月二十二日 同四十二年十二月二十九日 同四十二年十二月二十九日 但同四十二年十二月初二分

證券種別	額面金	記號	番號	附屬利札	代理券交 付年月日	仕拂期開始利札ニ對スル 代理金仕拂年月日	記名者
軍公債證券	五拾圓	八	八六六五	明治三十九年六月廿九日	明治四十二年六月二十二日	明治四十二年十二月二十九日	德島縣美馬郡西祖谷山村管理者村長德善正一
大日本帝國政府五分利公債證券	百圓	代	自同六五五 至同六五五	同四十二年六月廿九日	同四十二年十二月二十九日	同四十二年十二月二十九日	村 上宮 地 區

○大藏省告示第九號  
製造煙草定價並煙草元賣捌入への割引歩合左ノ通相定ム  
明治四十三年一月二十四日

種 類	名 額	定 價	備 考
口付紙捲煙草	國 華	二十本入一箇 拾五圓	國草元賣捌入 への割引歩合 百分ノ十五

○大藏省告示第十號  
京都稅務監督局管内小濱稅務署ヲ明治四十三年二月一日福井縣遠敷郡小濱町日吉九十一、九十三、九十四、九十五番地ニ移ス  
明治四十三年一月二十八日  
大藏大臣 侯爵桂太郎

○陸軍省告示第一號  
明治三十四年陸軍省告示第九號附表中東京灣要塞ノ部要塞地帶法第十條ニ掲クル禁止制限ノ事項解除ニ關シ横須賀市若松、深田及公郷ニ於ケル一部ノ區域ヲ擴張ス  
前項擴張區域ハ横須賀市役所ニ備附タル圖面ニ就テ見ルヘシ  
明治四十三年一月八日  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸軍省告示第二號  
臨時陸軍建築部仙臺支部若松出張所ハ之ヲ閉鎖ス  
明治四十三年一月二十日  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸軍省告示第三號  
今般陸軍戶山學校軍樂生徒二十六名ヲ召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第八章ノ規定ニ依リ願書其ノ他ノ書類ヲ明治四十三年三月二十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

但シ軍樂生徒ヲ入校セシムルハ明治四十三年十二月一日ニシテ志願レ得ヘキ者ノ出生年月日ハ明治二十三年十二月一日ヨリ同二十六年十二月一日迄トス  
明治四十三年一月二十六日  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸軍省告示第四號  
陸軍砲兵工科學校條例第二條ニ依ル砲兵工長候補者左ノ通召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第七章ノ規定ニ依リ願書其ノ他ノ書類ヲ差出スヘシ  
明治四十三年一月二十八日  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

○海軍省告示第一號  
海軍機關學校生徒六十名召募ス志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年四月五日迄ニ海軍機關學校長ニ出願スヘシ  
海軍機關學校生徒身體檢査所及學術試驗所ヲ左記十箇所ニ設ク

- 東京市 京都市 仙臺市 名古屋市 廣島市
  - 熊本市 金澤市 長野市 山口町 鹿兒島市
- 海軍機關學校生徒志願者ノ身體檢査ハ東京市ニ在リテハ本年四月十八日ヨリ京都市、仙臺市、熊本市ニ在リテハ同月二十四日ヨリ名古屋市、廣島市ニ在リテハ同月二十七日ヨリ其ノ他ハ同月二十八日ヨリ施行スル豫定ナリ其ノ日割ハ追テ更ニ告示ス
- 地方長官ハ市區町村長ヲシテ本告示ノ要領(海軍機關學校生徒何名召募ノ旨何月何日官報)ヲ其ノ役場ニ揭示公表セシムルヲ要ス

明治四十三年一月四日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍機關學校生徒志願者心得

第一條 海軍機關學校生徒ハ本年七月中ニ於テ年齡滿十六年以上滿二十年以下 明治二十三年七月一日ニ至ニシテ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス

第二條 左ノ諸號ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家資分散者 破産者若ハ其ノ相續人

四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

五 品行又ハ家庭不貞ナルカ爲將來機關官タルノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者

第三條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第四條 生徒ニハ入校ノ日ヨリ手當金ヲ給シ被服其ノ他修學ノ費用ニ充テシム

第五條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第六條 生徒ハ左ノ諸號ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一 機關官タルヘキノ器量ニ乏キ者

二 品行不貞或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

三 試験ノ成績不貞ニシテ卒業ノ目的ナキ者

四 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第七條 志願者ハ父兄親族其ノ他可成自己ニ關係深ク一家ヲ爲シ身元確實ナル者二名ヲ以テ保證人ト爲ス

第八條 志願者ハ志願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ市區町村長(志願者單身寄留ノモノナルトキハ原籍地ノ市區町村長、全戸寄留ノモノナルトキハ寄留地ノ市區町村長)ノ與書證印ヲ受ケ

書留郵便若ハ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ直接海軍機關學校長ニ差出ス

一 履歴書(第二號書式)

二 承認書(第三號書式)

三 身元明細書(第四號書式)

四 戶籍謄本

身元明細書ハ志願書ト同シク市區町村長ノ與書證印ヲ受クルヲ要ス

第九條 入校試験ノ前後ヲ問ハズ志願ヲ取消サント欲スルモノハ保證人連署ヲ以テ速ニ海軍機關學校長ニ届出ツ

第十條 志願書ヲ差出シタル後志願者及保證人ノ原籍現住所及身上ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ保證人ヲ變更シタルトキハ第八條ニ準シ市區町村長ノ與書證明ヲ得テ速ニ海軍機關學校長ニ届出ツ

第十一條 志願者ニシテ受験地ヲ變更セント欲スルモノハ四月十日迄ニ海軍機關學校長ニ届出ツ

第十二條 志願者ノ教育ヲ擔任シタル中學校若ハ之ト同程度以上ノ學校ノ校長等(家庭教育ヲ受ケタルモノハ其ノ教師)ハ志願者ヨリ願出アルトキ第五號書式ニ依リ志願者ニ對スル所見表ヲ

作り密封トシ五月二十五日迄ニ直接海軍機關學校長ニ差出スヘシ但シ卒業シテ當該中學校等ヲ離レタル後ノ日久シク志願者ノ現狀ヲ知悉セサルトキハ其ノ旨ヲ記入シ所見表中ノ記事ヲ適宜

省略スルコトヲ得

志願者ハ學術試験規格ノ五科目(代數、英文、和算、平面、三角、算術、英文法)ヲ繼續シタルトキ直ニ前項ノ學校長ニ所見

表作製提出ノコトヲ願出ツヘシ

明治四十三年一月 告示 海軍省第一號

四一



**第十三條** 身體検査ニ合格セサル者ニ對シテハ學術試験ヲ行ハス

**第十四條** 身體検査ハ明治二十五年一月海軍省令第一號海軍出身志願者身體検査格例ニ依リ施行ス

(參照) 海軍出身志願者身體検査格例ニ依リ左ノ諸號ノ一ニ該當スル者ハ機關學校生徒體格検査ニ不合格トス

- 一 身長五尺二寸七サル者
- 二 體重十二貫目ニ達セサル者又ハ胸圍二尺五寸三分ニ達セサル者  
但シ十七年未満(五五)ナルトキハ體重十一貫五百目胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アル者ハ合格トナスコトアルヘシ
- 三 胸廓擴張一寸八分ニ達セサル者
- 四 活量二千八百立方仙達(五七十一)ニ達セサル者
- 五 身長、體重、胸圍及活量、前諸號ノ規定ニ達スルモ著シク其ノ交互ノ對稱ヲ失スル者
- 六 身體發育ノ不全、體質ノ薄弱、傷寒疾病ニ起因スル全身衰弱
- 七 白痴、精神異常、官能障礙、知覺及運動麻痺
- 八 全身皮膚病、三頭皮ノ慢性病、腋臭、數毒及外傷等ノ痕跡著シキ者
- 九 頭部、面部、頸部ノ畸形及著シキ腫形、頭蓋骨折傷、腦山、斜視、頭脈ノ腫大
- 十 視力二十ノ二十二寸七サル者、眩色不全、斜視、淚管炎、眼瞼下垂或ハ翻轉
- 十一 雙、聽力遲鈍、鼓膜鼓室ノ疾病
- 十二 鼻骨鼻軟骨ノ疾病、鼻茸、鼻結膜ノ慢性病
- 十三 咽喉、口腔、口蓋及舌ノ疾病、齒齦及齒質不真若ハ齒數不足(六五以上ノ歯ハ三箇以上其ノ他ノ齒ヲ以テ之ニ代ルコトナラズ)ノ有リタル者、上下顎骨ノ畸形、下顎運動ノ障礙
- 十四 胸廓ノ畸形、扁平、陷沒、呼吸短促、聲音嘶啞、呼吸器及血行器等ノ疾病
- 十五 腹部ノ腫脹、腸胃腸管、弛緩、腸胃腸管肝腎等ノ疾病
- 十六 下疳、淋疾、尿道狹窄、尿道炎、睾丸副辜及精索等ノ疾病
- 十七 瘰癧、痔瘻、脫肛、扁平、コンヂロイ
- 十八 四肢ノ薄弱、畸形又ハ傷寒疾病ニ起因スル歪形、關節運動ノ障礙、靜脈怒張著シキ扁平足
- 十九 骨梁及骨盤ノ畸形又ハ傷寒疾病ニ起因スル歪形、運動ノ障礙
- 二十 前諸號ノ外急治ノ目的ナキ傷寒疾病
- 二十一 遺傳性及發作性疾病ノ證據アル者

**第十五條** 學術試験規格ハ左ノ如シ

國語及漢文	國語及漢文ノ釋讀及片假名字交リ作文
英語	英文和譯、和文英譯、文法
算術	算術代數平面三角、幾何(平面、立體)
地理	地理史文
地文	地文
歷史	歷史
物理	物理
化學	化學
圖畫	中學校教授科目ニ準據ス

備考 試験程度ハ中學校全科卒業ノ學力ヲ標準トス

各科目試験得點ハ同一效力ヲ有ス代數、英文和譯、平面三角、算術及英文法中共ノ一科目ニ於テ成績不真者ハ爾後試験ヲ繼續セシメス

**第十六條** 志願者ハ身體検査ノ際新ニ(本年三)攝影(著帽ヲ禁ス)セル紙寫眞(壹紙付ナルヲ要シ裏面ニ族籍氏名ヲ自書スヘシ)一葉ヲ携帶シ試験官ニ差出スヘシ

**第十七條** 志願者ハ洋服又ハ袴ヲ著用スヘシ又身體検査ニ際シテハ共ノ前入浴シテ身體ヲ清淨ニシ殊ニ耳垢ヲ除キ口中ヲ清潔ニシテ出頭スヘシ

**第十八條** 志願者何等ノ事故アリト雖モ之カ爲時日ヲ延シ検査ヲ行フコトナレ

**第十九條** 志願者検査地ヘノ往復並滞在費等ハ一切自辨タルヘシ

**第二十條** 志願者ノ身體検査日割表ハ検査開始ノ一日前ニ各受験地ノ府縣廳(東京ハ海軍經理學校)ニ揭示ス

志願者ハ各受験地ノ前記揭示場ニ就キ豫メ自己ノ身體検査日割ヲ承合シ且受験地ニ於ケル自己

ノ宿所(受験地ニ現住所アル者ハ其ノ住所)ヲ検査開始ノ前日迄ニ到達スル様書面(用紙半紙)又ハ葉書ヲ以テ同地ニ出張セル試験官(東京ハ海軍經理學校其ノ他ハ各府縣廳内ニ宛テ)ニ届出ツ  
 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ身體検査所若ハ學術試験所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ豫メ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第二十一條 生徒ヲ命スルニハ志願者ヲ海軍機關學校ニ召集シ再ヒ身體検査ヲ行ヒ其ノ合格者中ヨリ之ヲ命ス而レテ之ヲ召集スルニハ校長ヨリ之ヲ第一保證人ニ達ス

第二十二條 前條ノ召集ニハ本人住所(受験當時ノ住所)ヨリ海軍機關學校マテノ里程ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十三條 海軍機關學校生徒志願者ニシテ海軍經理學校生徒ヲ志願シ其ノ入學試験ニ合格シ採用ヲ豫定セラレタルトキハ海軍機關學校生徒志願ハ自然消滅トス

第二十四條 海軍兵學校生徒志願者ニシテ海軍機關學校生徒ヲ志願シ其ノ入學試験ニ合格シ採用ヲ豫定セラレタルトキハ海軍兵學校生徒志願ハ自然消滅トス

第一號書式(用紙美濃紙ニ折一通)  
 年 月 日

族 籍  
 月主(月主ニアラザレハ其ノ續柄)  
 志願者 氏 名 印  
 明治何年何月何日生  
 第一保證人  
 本 籍  
 住 所  
 族 籍 職 業  
 氏 名 印

海軍機關學校校長氏名殿

海軍機關學校生徒志願ノ件

某(志願者ノ名)假海軍機關官出身ヲ志願ス許可入校ノ上ハ海軍ノ規律ニ服従スルコトヲ誓フ  
 志願者ノ身上ハ何等ニ限ラス保證人之ヲ擔保ス  
 受験地 東京(長野)(名古屋)(仙臺)(京都)(金澤)(廣島)(熊本)(鹿児島)(山口)  
 右出願ス  
 別紙履歴書承認書(身元明細書及月籍簿本ヲ添フ  
 前書相送無シ  
 年 月 日

第二保證人  
 本 籍  
 住 所  
 族 籍 職 業  
 氏 名 印

市區町村長 氏 名 印

族 籍  
 氏 名

第二號書式(用紙美濃紙ニ折一通)

履歴書

- 一 本籍(何府何縣何郡市町村何番地)月主又ハ月主何某男兄弟等)
- 一 住所(本籍ニ同シ又ハ何府何縣何郡市町村何番地寄留等)
- 一 出生ノ地名(同上)
- 一 生長ノ地名(同上)
- 一 學歷(學校ノ名)入校退學卒業ノ年月日、在學中ノモノハ其ノ學年等)
- 一 從事シタル職業等自己ノ經歷
- 一 從前海軍兵學校又ハ海軍機關學校若ハ海軍經理學校生徒ヲ志願シタル者ハ其ノ校名志願回数、年次體格合格不合格等ノ經歷(今回方初度ノ志願ナルトキハ其ノ旨ヲ記入スヘシ)

一 志願者心得第十二條ニ依リ所見表作製提出ノコトヲ願出テントスル學校者及其ノ所在地又ハ家庭教師氏名及其ノ住所  
右ノ通相違無シ  
年月日

第一保證人 氏 名印  
第二保證人 氏 名印

第三號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)親權ヲ行フ父若ハ母又ハ後見人之ヲ作ルヘシ  
承認書

族籍 氏 名  
本籍 氏 名  
住所 氏 名印  
右何某父(母)後見人又ハ戶主

右海軍機關學校生徒志願ニ付承認ス  
年月日

第四號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)  
身元明細書

族籍 氏 名  
志願者 氏 名

志願者	處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類、罪案ノ行狀
父	氏名、官職、職業ノ種類等經歷ノ概要 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記シ、戦死者ニ在リテハ何レノ役ニテ戦死セシカヲ明記スヘシ 處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類 氏名、職業ノ種類等經歷ノ概要 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記スヘシ
母	處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類

兄弟姉妹	父母ノ例ニ準ス
月主	父母ノ例ニ準ス
家庭ニ於ケル生計ノ現況	所見ヲ記入スヘシ(資産及所得ノ概略ヲ記スルモ可ナリ)

右之通相違無シ  
年月日

第一保證人 氏 名印  
第二保證人 氏 名印

海軍機關學校長氏名殿  
前書相違無シ  
年月日

市區町村長 氏 名印

第五號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

所見表

志願者氏名	目下ノ學級	本人ノ長所及短所
	中途退學年月及學級	
卒業年月	學年	本人ノ長所及短所
	得點(百分比)	
學科	席次	學科中得意トスルモノトヲ記入ス
	勤怠ノ状況、缺席ノ多少	
成績	何人中ノ番	モノトヲ記入ス
	勤怠ノ状況、缺席ノ多少	
性質習癖	校長若ハ教育擔任者ノ認ムル所ヲ記ス	モノトヲ記入ス
	校長若ハ教育擔任者ノ認ムル所ヲ記ス	

操行	在校中ノ操行及賞罰ノ概略ヲ記ス殊ニ衆人ノ模範トナルヘキ舉動或ハ擯斥スヘキ行爲アリタルトキハ其ノ概略ヲ摘記スルヲ要ス
備考	前記事項以外ノ必要事項ヲ記入ス
所見	志願者ノ人格及學科進歩等ニ就キ校長若ハ教育擔任者ノ所見ヲ記入ス
年月日	年 月 日
見	學校所在地 何立學校長 氏 名印

○海軍省告示第二號

海軍兵學校生徒百二十名召募ス志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年四月三十日迄ニ海軍兵學校長ニ出願スヘシ

海軍兵學校生徒志願者身體検査所及學術試験所ヲ左記十二箇所ニ設ク

- 東京市 長野市 名古屋市 仙臺市 京都市 金澤市
- 廣島市 高知市 鳥取市 熊本市 鹿兒島市 大分町

海軍兵學校生徒志願者ノ身體検査ハ本年七月中旬又ハ下旬施行スル豫定ナリ其ノ期日ハ追テ更ニ告示ス

地方長官ハ市區町村長ニシテ本告示ノ要領(海軍兵學校生徒何名召募ノ旨何月何日官報海)ヲ其役場ニ揭示公表セシムルヲ要ス

明治四十三年一月四日

海軍大臣 男爵齋藤實

海軍兵學校生徒志願者心得

第一條 海軍兵學校生徒ハ本年九月中ニ於テ年齡滿十六年以上滿二十年以下(明治二十三年九月十日ニ於テ出生)ニシテ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス

第二條 左ノ諸號ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
- 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人
- 五 品行又ハ家庭不良ナルカ爲將來將校タルノ體面ヲ保ツ能ハスト認ムル者
- 第三條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第四條 生徒ニハ入校ノ日ヨリ手當金ヲ給シ被服其ノ他修學ノ費用ニ充テシム
- 第五條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第六條 生徒ハ左ノ諸號ノ一ニ該ルトキハ退校セシム
  - 一 將校タルヘキノ器量ニ乏シキ者
  - 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ剛戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 四 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者
- 第七條 志願者ハ父兄親族其ノ他可成自己ニ關係深ク一家ヲ爲シ身元確實ナル者二名ヲ以テ保證人ト爲スヘシ
- 第八條 志願者ハ志願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ市區町村長(志願者單身寄留ノモノナルトキハ原籍地ノ市區町村長、全戸寄留ノモノナルトキハ寄留地ノ市區町村長)ノ與書印ヲ受ケ書留郵便若ハ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ直接海軍兵學校長ニ差出スヘシ
  - 一 履歷書(第二號書式)
  - 二 承認書(第三號書式)
  - 三 身元明細書(第四號書式)

四 戶籍除本

身元明細書ハ志願書ト同シク市區町村長ノ與書證印ヲ受クルヲ要ス

第九條 入校試験ノ前後ヲ問ハス志願ヲ取消サント欲スルモノハ保證人連署ヲ以テ速ニ海軍兵學校長ニ届出ツヘシ

第十條 志願書ヲ差出シタル後志願者及保證人ノ原籍住所及身上ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ保證人ヲ變更シタルトキハ第八條ニ準シ市區町村長ノ與書證明ヲ得テ速ニ海軍兵學校長ニ届出ツヘシ

第十一條 志願者ニシテ受驗地ヲ變更セント欲スル者ハ五月十五日迄ニ海軍兵學校長ニ届出ツヘシ

第十二條 志願者ノ教育ヲ擔任シタル中學校若ハ之ト同程度以上ノ學校ノ校長等(家庭教育ヲ受ケタルモノハ其ノ教師)ハ志願者ヨリ願出アルトキ第五號書式ニ依リ志願者ニ對スル所見表ヲ作り密封トシ八月十日迄ニ直接海軍兵學校長ニ差出スヘシ但シ卒業シテ當該中學校等ヲ離レタル後ノ日久ク志願者ノ現狀ヲ知悉セサルトキハ其ノ旨ヲ記入シ所見表中ノ記事ヲ適宜省略スルコトヲ得

志願者ハ身體検査ニ合格シタルトキ直ニ前項ノ學校長等ニ所見表作製提出ノコトヲ願出ツヘシ

第十三條 身體検査ニ合格セサル者ニ對シテハ學術試験ヲ行ハス

第十四條 身體検査ハ明治三十五年一月海軍省令第一號海軍出身志願者身體検査格例ニ依リ施行ス

(參照) 海軍出身志願者身體検査格例ニ依リ左ノ諸號ノ一ニ該當スル者ハ兵學校生徒體格検査ニ不合格トス

- 一 身長五尺二寸七サル者
- 二 體重十二貫目ニ達セサル者又ハ胸圍二尺五寸三分ニ達セサル者
- 但シ十七年未満(檢査時)ナルトキハ體重十一貫五百目胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アル者ハ合格トナスコト

アルハシ

- 三 胸圍腋取一寸八分ニ達セサル者
- 四 活量二千八百立方仙迷(五七九)ニ達セサル者
- 五 身長、體重、胸圍及活量、前諸號ノ規定ニ達スルモ著シク其ノ交互ノ對稱ヲ失スル者
- 六 身體發育ノ不全、體質ノ薄弱、傷疾疾病ニ起因スル全身衰弱
- 七 白痴、精神異常、盲聾瘖、知覺及運動麻痺
- 八 全身皮膚病ニ頭皮ノ慢性病、疥癬、癬毒及外傷等ノ痕癢著シキ者
- 九 頭部、面部、頸部ノ畸形及著シキ腫形、頭蓋骨折傷、陷凹、斜頸、頭暈ノ腫大
- 十 視力二十ノ二ニ達セサル者、眼色不全、斜視、淚管瘻、眼瞼下垂或ハ閉塞
- 十一 聽力運鈍、鼓膜鼓室ノ疾病
- 十二 鼻骨軟骨ノ疾病、鼻茸、鼻粘膜ノ慢性病
- 十三 咽喉、口腔、口蓋及舌ノ疾病、齒齦及齒齦不齊者ハ齒數不足(大齒齒ニ百ヲハ三齒以上上ノ齒ノ齒牙ニ百ヲハ六齒以上ノ齒以上ノ齒位及ハ缺亡但シ齒列及ハ缺亡ノ數之四リ限
- 十四 胸廓ノ畸形、扁平、陷沒、呼吸短促、聲音嘶啞、呼吸器及血行器等ノ疾病
- 十五 腹部ノ腫脹、膨滿、腹輪ノ弛緩、肺腸胃腸肝腎等ノ疾病
- 十六 下疳、淋疾、尿道狹窄、尿道炎、睾丸腫脹及精索等ノ疾病
- 十七 痔疾、痔瘻、脱肛、扁平「コンデロイ」
- 十八 四肢ノ薄弱、畸形又ハ傷疾、疾病ニ起因スル歪形、關節運動ノ障礙、靜脈怒張著シキ扁平足
- 十九 脊梁及骨盤ノ畸形又ハ傷疾、疾病ニ起因スル歪形、運動ノ障礙
- 二十 前諸號ノ外念治ノ目的ナキ傷疾、疾病
- 二十一 遺傳性及發作性疾病ノ證據アル者

第十五條 學術試験規格ハ左ノ如シ

國語及漢文	國語及漢文ノ釋讀及片假名字交リ作文
英語	英文和譯、和文英譯、文法
算術	算術、代數、平面三角幾何(平面立體)

地理 歴史 物理 化學 算學 地理

中學校教授要目ニ準據ス

備考 試験程度ハ中學校全科卒業ノ學力ヲ標準トス

各科目試験得點ハ同一效力ヲ有ス

代數英文和譯平面三角算術及英文法中共ノ一科目ニ於テ成績不長ノ者ハ爾後試験ヲ繼續セシメス

第十六條 志願者ハ身體検査ノ際新ニ(本年三月以後)撮影(著帽ヲ禁ス)セル紙寫真(臺紙附ナルヲ要シ

裏面ニ族籍氏名ヲ自書スヘシ)一葉ヲ携帶シ試験官ニ差出スヘシ

第十七條 志願者ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ又身體検査ニ際シテハ其ノ前入浴シテ身體ヲ清淨ニ

シ殊ニ耳垢ヲ除キ口中ヲ清潔ニシテ出頭スヘシ

第十八條 志願者何等ノ事故アリト雖之カ爲時日ヲ延シ検査ヲ行フコトナレ

第十九條 志願者検査地ヘノ往復並滞在費等ハ一切自辨タルヘシ

第二十條 志願者ノ身體検査日割表ハ検査開始ノ一日前ニ各受験地ノ府縣廳(東京ハ築地海軍經

理學校)ニ揭示ス

志願者ハ各受験地ノ前記揭示場ニ就キ豫メ自己ノ身體検査日割ヲ承合シ且受験地ニ於ケル自己

ノ宿所(受験地ニ住所アル者ハ其ノ住所)ヲ検査開始ノ前日迄ニ到達スル様書面(用紙半紙)又ハ

葉書ヲ以テ同地ニ出張セル試験官(東京ハ築地海軍經理學校内其ノ他ハ各府縣廳内ニ宛テ)ニ届

出ツヘシ

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ身體検査所若ハ學術試験所ニ出頭スルコト能ハサルトキハ豫メ其ノ旨

ヲ届出ツヘシ

第二十一條 生徒ヲ命スルニハ志願者ヲ海軍兵學校ニ召集シ再ヨリ身體検査ヲ行ヒ其ノ合格者中ヨ

リ之ヲ命スルニテ之ヲ召集スルニハ校長ヨリ之ヲ第一保證人ニ達ス

第二十二條 前條ノ召集ニハ本人住所(受験當時ノ住所)ヨリ海軍兵學校マテノ里程ニ應ジ相當ノ

旅費ヲ給ス

第二十三條 海軍兵學校生徒志願者ニシテ海軍機關學校生徒海軍經理學校生徒ノ内其ノ一若ハ其ノ

二ヲモ志願シ共ノ入學試験ニ合格シ採用ヲ豫定セラレタルトキハ海軍兵學校生徒志願ハ自然消滅ス

第一號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)

年月日

族籍 月主(月主ニアラザルハ其ノ親類)

志願者 氏 名印 明治何年何月何日生

第一保證人

本籍

住所

族籍職業

第二保證人

本籍

住所

族籍職業

氏 名印

氏 名印

海軍兵學校長露氏名殿

海軍兵學校生徒志願ノ件  
某(志願者ノ名)備海軍將校出身ヲ志願ス許可入校ノ上ハ海軍ノ紀律ニ服従スルコトヲ誓フ  
志願者ノ身上ハ何事ニ限ラス保證人ノヲ擔保ス

受驗地 東京(長野)(名古屋)(仙臺)(京都)(金澤)(廣島)(高知)(鳥取)(熊本)(鹿兒島)(大分)  
 右出願ス  
 別紙履歷書、承認書、身元明細書及戸籍謄本ヲ添フ  
 前書相違無シ  
 年月日 市岡町村長 氏 名印 (印)

第二號書式(用紙美濃紙ニ折一通)  
 (注意) 志願者ノ氏名及保證人ノ住所及氏名ニハ片假名ヲ付シ其ノ讀方ヲ明ニスヘシ  
 履歷書

- 一本籍(何府何縣何郡市町村何番地)戸主又ハ戸主何某男兄弟等)
  - 一住所(本籍ニ同シ又ハ何府何縣何郡市町村何番地寄留)
  - 一出生ノ地名(同上)
  - 一生長ノ地名(同上)
  - 一學歷(學校ノ名、入校退學卒業ノ年月日、在學中ノモノハ其ノ學年等)
  - 一従軍シタル職業等自己ノ經歷
  - 一従前海軍兵學校海軍機關學校生徒又ハ海軍經理學校生徒ヲ志願シタル者ハ其ノ校名志願回数、年次、體格、合格、不合格等ノ經歷(今同カ初度ノ志願ナルトキハ其ノ旨ヲ記入スヘシ)
  - 一志願者心得第十二條ニ依リ所見表作製提出ノコトヲ願出ントスル學校名及其ノ所在地又ハ家庭教師氏名及其ノ住所
- 右ノ通相違無シ  
 年月日

第一保證人 氏 名印  
 第二保證人 氏 名印  
 族籍 氏 名

第三號書式(用紙美濃紙ニ折一通)(親權ヲ行フ父若ハ母又ハ後見人之ヲ作ルヘシ)  
 承認書

右海軍兵學校生徒志願ニ付承認ス  
 年月日

本籍 住所  
 右何某父(母、後見人又ハ戸主)  
 氏 名印  
 族籍 志願者 氏 名

第四號書式(用紙美濃紙ニ折一通)  
 身元明細書

志願者	處刑、處罰ノ有無及犯行ノ種類、平素ノ行狀
父	氏名、官職、職業ノ種類等(經歷ノ概要) 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記シ、破死者ニ在リテハ何レノ役ニテ隨死セシカヲ明記スヘシ
母	氏名、職業ノ種類等(經歷ノ概要) 死者ハ生前ノ經歷ヲ略記スヘシ
兄弟姉妹	父母ノ例ニ準ス
戸主	父母ノ例ニ準ス
家庭ニ於ケル生計ノ現況	所見ヲ記入スヘシ(資産及所得ノ概略ヲ記スルモ可ナリ)

第一保證人 氏 名印  
 第二保證人 氏 名印

海軍兵學校長齋藤氏名殿

前番相送無シ

年月日

第五號書式(用紙榮流紙ニツ折一通)

市區町村長 氏

名印

所見表

志願者氏名	入學年月及學級	目下ノ學級	中途退學年月及學級	本人ノ長所及短所
	卒業年月	席次	勤怠	
學科	學年	得點(百分比)	席次	勤怠
	第三學年	何人中ノ番	勤怠ノ狀況	勤怠ノ狀況
	第四學年	同	同	同
	第五學年	同	同	同
	備考	校長若ハ教育擔任者ノ認ムル所ヲ記ス 在校中ノ操行及獎勵ノ概略ヲ記ス 殊ニ本人ノ模範トナルヘキ事蹟或ハ操行 スヘキ行爲アリタルトキハ其概略ヲ摘記スルヲ要ス 前記事項以外ノ必要事項ヲ記入ス 志願者ノ人格及學科進歩等ニ就キ校長若ハ教育擔任者ノ 所見ヲ記入ス		
所見	年月日	學校所在地	何立學校長 氏	名印

○司法省告示第一號

京都地方裁判所管内木津區裁判所明治四十二年十二月二十五日山城國相樂郡木津町大字木津字殿城百四十三番地ノ廳舎ニ移轉セリ

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省告示第二號

新潟縣東頸城郡保倉村戸籍役場備附ノ戸籍簿中平岡、岡、下達ノ分右一册明治四十二年十一月八日紛失シタリ

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省告示第三號

明治四十三年二月十六日ヨリ新潟地方裁判所管内長岡區裁判所ヲシテ公證人ノ職務ヲ行ハレム

司法大臣 子爵岡部長職

○文部省告示第一號

明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ左記ノ者ヲ修業年限四箇年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定ス

文部大臣 小松原英太郎

明治四十三年一月七日

○文部省告示第二號

北海道廳長官ハ函館暴風雨標破損ノ爲信號揚卸中止中ノ處明治四十二年十二月二十五日ヨリ開始ノ旨届出タリ

文部大臣 小松原英太郎

明治四十三年一月十日



○文部省告示第三號

明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ左記ノ者ヲ私立神戸女學院專門部ノ入學ニ關シ修業年限四箇年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定ス

明治四十三年一月十二日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第四號

一兵庫縣私立神戸女學院普通部ニ於ケル明治四十二年三月卒業者及明治四十三年三月卒業者

明治四十三年一月十二日

文部大臣 小松原英太郎

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス

明治四十三年一月十二日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第五號

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス

明治四十三年一月十二日

文部大臣 小松原英太郎

愛知縣立醫學專門學校ニ對スル徵兵令上認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス

明治四十三年一月二十一日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第六號

熊本縣飽託郡大江村ニ私立九州藥學專門學校ヲ專門學校令ニ依リ設置シ明治四十三年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十三年一月二十二日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第七號

鹿兒島縣鹿兒島市山下町ニ設置セル鹿兒島縣立商船學校ノ位置ヲ同縣同市荒田町ニ變更ノ件認可セリ

明治四十三年一月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第八號

本年施行ノ臨時醫術開業後期實地試驗ニ落第シ更ニ東京ニ於テ實地試驗ヲ受ケントスル者ハ本年三月十五日マテニ到達ノ日取テ以テ願書ヲ提出スヘシ

明治四十三年一月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第九號

前項ノ出願者ニ對シテハ本年第一回定期ノ際其試驗ヲ行フ

明治四十三年一月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十號

右ハ徵兵令第十三條並文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス

明治四十三年一月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十一號

私設千野圖書館ヲ埼玉縣比企郡八和田村ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十三年一月二十七日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十二號

私立片桐學校同窓會圖書館ヲ長野縣上伊那郡片桐村立片桐尋常高等小學校内ニ設置ノ旨設立者ヨリ開申セリ

明治四十三年一月二十七日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十三號

京都府天田郡福知山町字内記ニ設置セル京都府天田郡立高等女學校ノ位置ヲ同郡曾我井村字天田

明治四十三年一月二十七日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十四號

京都府天田郡福知山町字内記ニ設置セル京都府天田郡立高等女學校ノ位置ヲ同郡曾我井村字天田

明治四十三年一月二十七日

文部大臣 小松原英太郎

明治四十三年一月 告示 文部省第十四號 第十五號 農商務省第一號 第二號

六〇

ニ變更ノ件認可セリ

明治四十三年一月二十八日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十四號

愛知縣知多郡立高等女學校ヲ愛知縣知多郡半田町ニ設置シ明治四十三年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十三年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省告示第十五號

埼玉縣立熊谷高等女學校ヲ埼玉縣大里郡熊谷町ニ、埼玉縣立川越高等女學校ヲ埼玉縣入間郡川越町ニ設置シ明治四十四年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

明治四十三年一月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省告示第一號

明治四十二年十二月二十七日専用免許漁業原簿ニ左記事項ヲ登録セリ

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十三年一月四日  
免許番號第二三二七六號専用漁業權者ノ代表者ヲ明治四十二年十一月三十日廣島縣沼隈郡柳津村、沼隈郡柳津村漁業組合ニ變更ス

○農商務省告示第二號

明治四十二年十二月二十七日左記専用漁業權者ノ代表者ヲ免許漁業原簿ニ登録セリ

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十三年一月四日  
免許番號第二二九〇號  
第三二九一號  
同 上

漁業權者ノ代表者ノ名稱住所

廣島縣沼隈郡千代村  
廣島縣沼隈郡千代村大字能登原  
千代村能登原漁業組合

○農商務省告示第三號

明治四十二年十二月二十日左記専用漁業ヲ二十箇年ノ期間ヲ以テ免許シ免許漁業原簿ニ登録セリ

農商務大臣 男爵大浦兼武

漁業ノ種類及名稱	漁業時期	免許番號	第三二三三號	第三二三四號	第三二三五號
鮎魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鮎魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鮎魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鮎魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鮎魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦
鱈魚	正月一日至三月三十一日	村ノ内高知縣境ヨリ大浦鼻及竹ヶ島ニ至ル間ノ地先	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦	德島縣海部郡大崎村大字大崎浦

明治四十三年一月 告示 農商務省第三號

六一







石花菜漁業 石花菜... 免許番號 第三二四四號... 德島縣那賀郡平島村大字中島浦...

鮫地曳網漁業 鮫網... 免許番號 第三二四八號... 德島縣那賀郡坂野村大字和田島... 鮫地曳網漁業 鮫網... 免許番號 第三二四九號...

Table with multiple columns listing fishing regulations (漁業) and dates. Includes categories like 練網漁業 (練習網漁業), 蝦網漁業 (蝦網漁業), 海風漁業 (海風漁業), 和布漁業 (和布漁業), etc. Dates range from 昭和三十一年 to 昭和四十三年.

Table with multiple columns listing fishing regulations (漁業) and dates. Includes categories like 練網漁業 (練習網漁業), 蝦網漁業 (蝦網漁業), 海風漁業 (海風漁業), 和布漁業 (和布漁業), etc. Dates range from 昭和三十一年 to 昭和四十三年.









和山ノ小湫ニ於テハ七月、八月、九月三箇月  
間本漁業ヲ爲スコトヲ得ス(二)八月、九月ノ  
兩月ニ限り専用漁業權者ニ於テ鱒鱒漁業ニ  
支障アリト認メ之カ通知ヲナシタルトキハ  
其間本漁業ヲ爲スコトヲ得ス  
入漁權者ノ 三重縣志摩郡的矢村大字渡鹿野  
代表者  
渡鹿野漁業組合

野洲網漁業 野洲  
登錄番號 第八四九號  
入漁區域 三重縣志摩郡的矢野内通稱大瀬  
免許番號第二三九三號漁場内  
入漁權者 三重縣志摩郡安樂村、安樂村漁業  
組合

總地曳網漁業 鯉、ひしこ  
登錄番號 第八五〇號  
入漁區域 三重縣三重郡富田村及羽津村ノ  
地先免許番號第二五七二號漁場

○農商務省告示第七號  
森林法ニ依リ左記區域ノ開墾制限ヲ解除ス  
明治四十三年一月八日  
長崎縣上縣郡中原村

入漁權者 三重縣四日市市、四日市市漁業組  
合  
總地曳網漁業 鯉、ひしこ  
登錄番號 第八五一號  
入漁區域 三重縣三重郡富田村及羽津村ノ  
地先免許番號第二五七二號漁場

入漁權者 三重縣三重郡富田村、富田原流  
業組合  
馬珂介漁業 馬珂介  
登錄番號 第八五二號  
入漁區域 三重縣三重郡橋村ノ地先免許番  
號第二五七四號漁場

入漁權者 三重縣河藝郡一ノ宮村大字南長  
太南長太漁業組合  
總地曳網漁業 鯉、ひしこ  
登錄番號 第八五三號  
入漁區域 三重縣河藝郡上野村ノ地先免許  
番號第二五八二號漁場

總地曳網漁業 鯉、ひしこ  
登錄番號 第八五五號  
入漁區域 三重縣河藝郡上野村ノ地先免許  
番號第二五八二號漁場

入漁權者 三重縣河藝郡榮村、榮村漁業組合

青海苔漁業 青海苔  
登錄番號 第八五三號  
入漁區域 三重縣三重郡橋村ノ地先免許番  
號第二五七四號漁場

入漁權者 三重縣河藝郡一ノ宮村大字北長  
太北長太漁業組合  
鰯桁網漁業 鰯  
登錄番號 第八五四號  
入漁區域 三重縣河藝郡白子町ノ地先免許  
番號第二五八一號漁場

入漁權者 三重縣河藝郡榮村、榮村漁業組合  
鰯桁網漁業 鰯  
登錄番號 第八五五號  
入漁區域 三重縣河藝郡上野村ノ地先免許  
番號第二五八二號漁場

入漁權者 三重縣河藝郡榮村、榮村漁業組合

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省告示第八號

森林法ニ依リ保安林編入ニ關シ熊本縣知事ニ於テ告示シタル左記ノ箇所ハ之ヲ保安林ニ編入セス  
明治四十三年一月八日

熊本縣 鹿野 町 字 地番 面積 所有者  
花園 上林 一三四 五六四三九 國

○農商務省告示第九號

森林法ニ依リ左記ノ箇所ヲ保安林ニ編入ス  
明治四十三年一月八日

熊本縣 鹿野 町 字 地番 面積 所有者  
北木島 奈賀谷 六五四二 九九〇四 山本竹松  
同 同 六六一五 九二一九 同  
同 同 六六三二 二七八七 同  
同 同 六六八九 三〇二五 同

○農商務省告示第十號

森林法ニ依リ保安林解除ニ關シ長野縣知事ニ於テ告示シタル左記保安林ハ下欄ノ通之ヲ處分ス  
明治四十三年一月八日

長野縣 鹿野 町 字 地番 面積 處分  
七久保 大宮 三三二四 一五五二〇 農務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省告示第十一號

明治四十二年十二月二十三日左記入漁ニ關スル事項ヲ免許漁業原簿ニ登錄セリ  
明治四十三年一月十日

農務大臣 男爵大浦兼武

